

1 検証結果

(1) 各種アンケート・調査の検証結果

① A A I

- 学力の向上を目的に、児童生徒の学習場面での意欲や態度、学習の習慣や方法などを幅広く調べるためのアンケート。
- 仮説①【学習の基礎基本の定着】を検証。
- 平成19年度、20年度は小学5年生・小学6年生・中学1年生・中学2年生・中学3年生
平成21年は小学6年生・中学1年生・中学2年生・中学3年生
平成22年は中学1年生・中学2年生・中学3年生
平成23年は中学2年生・中学3年生を対象に実施

A A I (小学5年～6年用) 質問項目一覧

①

- 1 もっと勉強して、いろいろなことを知りたいと思いますか。
- 2 学校の勉強は楽しいですか。
- 3 成績の悪い教科は、もっと勉強しようと思いますか。
- 4 がんばって、今よりも勉強ができるようになりたいと思いますか。
- 5 むずかしい勉強にも、取り組んでみたいと思いますか。
- 6 自分なりに努力して、いっしょうけんめい勉強しようと思いますか。
- 7 家の人に、「勉強しなさい」といわれなくても、自分から進んで勉強していますか。
- 8 学校の宿題以外にも、自分で決めた勉強をしていますか。
- 9 計画を立てて、勉強していますか。
- 10 まとめのテストのときなどには、計画を立てて準備していますか。
- 11 家で勉強するとき、何時から何時まで、何を勉強するか決めていますか。
- 12 いつテストされてもいいように、ふだんから勉強したことをまとめていますか。
- 13 目標を立てて、それを目ざして勉強していますか。
- 14 遊んでしまって、勉強の時間がなくなることがありますか。
- 15 夜おそくまで起きていて、朝起きられないことがありますか。
- 16 授業でわからないことが残ったときには、休み時間や放課後に先生や友達に聞きますか。
- 17 授業で出された宿題は、できるだけ早くやるようにしていますか。
- 18 授業の復習をするとき、ドリルなどで力だめしをしますか。
- 19 授業で、実験や観察があるときは、自分から進んでやるようにしていますか。
- 20 授業で習ったことは、できるだけ早く復習しますか。
- 21 授業がわからなくて、いやになることがありますか。
- 22 授業中、ぼんやりしたり、おしゃべりをしたりして、先生の話の聞かないでいることがありますか。
- 23 教科書や本を読んだあとで、どこが大切かを考えてみますか。
- 24 大切なところに線を引いたり、印をつけたりしますか。
- 25 教科書を読むとき、グラフや表はめんどろになって、とぼしますか。
- 26 図や表をかくとき、できるだけきちんとかきますか。
- 27 教科書や本を読んでわからないときには、辞書で調べたり、人に聞いたりしますか。
- 28 ノートにまとめるとき、自分なりに工夫をしていますか。
- 29 一度読んでもわからないときには、くり返して読みますか。
- 30 必要なことを覚えようとするとき、どんな意味か、どこがだいじかを考えますか。
- 31 一度覚えたことでも、もう一度復習しますか。
- 32 習ったことを思い出しながら、問題を解いていますか。
- 33 覚えたことを、それを見ないで言えるかどうか、確かめていますか。
- 34 問題が解けないときには、すぐにあきらめないで、いろいろと考えてみますか。
- 35 習ったことを覚えるとき、覚えやすいように工夫しますか。
- 36 友達が勉強でわからないでいるとき、教えてあげることがありますか。
- 37 勉強のことで、友達とはげまし合ったり、競争したりすることがありますか。
- 38 先生は、あなたの話をよく聞いてくれると思いますか。
- 39 クラスは勉強しやすいふんいきだと思いますか。
- 40 自分の思ったことや考えたことを発表するとき、クラスの人たちは、ひやかさないで聞いてくれると思いますか。
- 41 クラスの人からたよりにされていると思いますか。
- 42 家の方は、どんなことを勉強しているかを聞くことがありますか。
- 43 家の人と、将来の夢や希望について話をすることがありますか。
- 44 勉強していると、家の方がはげましてくれることがありますか。
- 45 家の人に勉強のことで相談することがありますか。
- 46 家の方が勉強のことをうるさく言うので、勉強するのがいやになることがありますか。
- 47 家の方は、あなたの話をよく聞いてくれると思いますか。
- 48 家にいると気持ちがおちつきませんか。

- 49 一度やりかけたことは、すこしくらいつらくても、やりとげようと思いますか。
- 50 勉強しているときに、ぼんやりして時間が過ぎてしまうことがありますか。
- 51 授業が終わった後で、授業の内容が理解できたかどうか、ふり返ってみますか。
- 52 むずかしい勉強が長く続いても、あきらめないでがんばろうと思いますか。
- 53 学校に出かけるとき、わすれ物をしないように、自分でよく確かめますか。
- 54 算数や理科の問題でまちがえたとき、なぜまちがえたのかを考えますか。
- 55 やり始めたことは、最後までがんばろうと思いますか。
- 56 何かを決めるときは、それがよいか悪いかをよく考えてから決めますか。
- 57 問題を解いたあとで、まちがえていないかどうか、見直しをしますか。
- 58 問題がむずかしいとすぐにあきらめてしまおうと思いますか。
- 59 席に着いていなければならぬときには、席に着いていますか。
- 60 ひととおり勉強した後で、勉強した内容がよくわかったかどうかを、ふり返ってみますか。
- 61 努力すれば、成績はよくなると思いますか。
- 62 何かをしようとするときには、よく考えてからしますか。
- 63 うまくいかなかったときには、なぜうまくいかなかったかをよく考えますか。
- 64 やる気になれば、たいていのことは、みんなと同じようにできると思いますか。
- 65 まわりのことに気をとられて、勉強に集中できないことがありますか。
- 66 成績を上げるためには、どんなことを勉強したらよいか、わかっていますか。
- 67 がんばれば夢はかなうと思いますか。
- 68 やりたいことを先にやってしまって、大切なことができなくなってしまうことがありますか。
- 69 失敗すると、かえってやる気が出てきますか。
- 70 あなたは、家の人に言われないと、なかなか勉強しませんか。
- 71 授業中は、いつも集中して先生のお話を聞いていますか。
- 72 教科書などを読むとき、グラフや表もめんどくがらずに見るようにしますか。

② 勉強やテストに関する質問

- 1 1週間の勉強の計画をたてました。しかし、計画通りに勉強できたのは1週間のうち3日でした。そのとき、あなたならどんな気持ちになると思いますか。
- 2 『～について調べよう』という宿題が出ました。調べてみると、いろいろなことに気がつきました。しかし、さらに続けて調べたほうがよさそうなこともわかりました。そのとき、あなたならどんな気持ちになると思いますか。
- 3 テストで70点取りました。今度のテストは何点取れば自分としてはよいと思いますか。
- 4 算数で、むずかしい問題に取り組んでいます。しかし、なかなか解けません。そのとき、あなたならどんな気持ちになると思いますか。

③ テストで悪い点を取ってしまいました。そのとき、あなたならどのように考えますか。

④ 「勉強するのは、どうしてですか」と聞かれたら、あなたは何と答えますか。

⑤ 次の中で、あなたが悩んでいるものがあれば選んでください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 授業がよくわからない | 2 どうしても好きになれない教科がある |
| 3 勉強のしかたがわからない | 4 自分の計画どおりに勉強が進められない |
| 5 いろいろなことを話せる友達がいない | 6 家の人が自分の話を聞いてくれない |
| 7 毎日が楽しくない | 8 体力や健康に自信がない |

⑥

- 1 学校へ行くのが楽しいですか。
- 2 学校に行くとき、朝ごはんを、食べないことがありますか。
- 3 家では、平日（休みをのぞいたふつうの日）に、毎日どれくらい勉強していますか。
(学習塾や家庭教師の指導をのぞきます)
- 4 いつもだいたい何時ごろに寝ていますか。

⑦ 次の教科の中で、あなたがこれからもう少し力を入れてがんばりたいと思っている教科はなんですか。

AAI (中学校用) 質問項目一覧

1

- 1 人に言われなくても自分から進んで勉強している。
- 2 学校の勉強は楽しい。
- 3 自分なりに努力して、一生懸命勉強しようと思う。
- 4 苦手な教科をなくすように努力している。
- 5 難しい問題を解くのが好きだ。
- 6 学校の勉強のほかにも、ふだんから自分で決めた勉強をしている。
- 7 もっと勉強して、いろいろなことを知りたいと思う。
- 8 家で勉強するとき、何時から何時まで、何を勉強するか決めている。
- 9 自分で立てた勉強の計画は守るようにしている。
- 10 自分の勉強のしかたがよいか悪いかを考えて、うまく勉強しようと考えている。
- 11 遊んでしまって、勉強の時間がなくなることがよくある。
- 12 目標を立てて、それを目指して勉強する。
- 13 授業の予習をしておく。
- 14 授業で習ったことは、できるだけ早く復習する。
- 15 授業中はいつも集中している。
- 16 授業で出された宿題は、できるだけ早くやるようにしている。
- 17 実験や実技の授業では、人に任せないで自分から進んでやる。
- 18 授業でわからないことが残ったときには、休み時間や放課後に先生や友達に聞くようにしている。
- 19 授業の復習をするとき、問題集などで力だめしをしている。
- 20 教科書や参考書を読んでわからないときには、辞書で調べたり、人に聞いたりする。
- 21 教科書や参考書を読んだあとで、どこが重要かを考えるようにしている。
- 22 参考書や問題集などで勉強するときには、教科書のどの内容と関係があるかを確認するようにしている。
- 23 重要なところに線を引いたり、印を付けたりする。
- 24 図や表をかくとき、できるだけきちんとかいている。
- 25 ノートにまとめるときには、自分なりの工夫をしている。
- 26 必要なことを覚えようとするとき、どんな意味か、どこが大切かを考える。
- 27 年代、地名、人名などを覚えるとき、覚えやすいように工夫する。
- 28 覚えるときには、要点をまとめたり、関連することをまとめたりする。
- 29 一度覚えたことでも、もう一度復習する。
- 30 問題を解くときには、前に勉強したことを思い出して応用するようにしている。
- 31 問題が解けないときには、すぐあきらめなくて、いろいろと考えてみる。
- 32 難しい問題が解けたときには、もう一度、解き方を見直してみる。
- 33 学期末やまとめのテストのときには、計画を立てて準備する。
- 34 いつテストをされてもよいように、ふだんから勉強したことをまとめている。
- 35 テストの前には、友達と問題を出し合って、力だめしをしている。
- 36 テストの準備をするときには、〇×で覚えるのではなく、いつも文章で答えを書くつもりできちんと覚えるようにしている。
- 37 テストで答えを書き終わったときには、必ず見直す。
- 38 テストが返されたとき、得点だけでなく、どこがまちがっているかを調べる。
- 39 テストでできなかった問題について、あとで解き方を知りたいと思う。
- 40 困ったときに、相談できる先生がいる。
- 41 友達が勉強でわからないでいるとき、知っていることは教えてあげる。
- 42 勉強のことで、友達と励まし合ったり、協力しあったりすることがある。
- 43 クラスの人からたよりにされていると思う。
- 44 自分の思ったことや考えたことを発表したとき、クラスの人にはひやかさないで聞いてくれる。
- 45 家にいると気持ちが落ちつく。
- 46 家の人と将来のことについて話をする。
- 47 勉強していると、家的人是に励ましてくれる。
- 48 家的人是に自分の話を聞いてくれる。
- 49 家の人に、学校でどんな勉強をしているかを聞かれる。
- 50 家的人在が勉強のことをうるさく言うので、勉強するのが嫌になることがある。
- 51 一度やりかけたことは、少しくらいつらくてもやりとげる。
- 52 学校に出かけるとき、忘れ物をしないように自分でよく確かめる。
- 53 自分が、何を勉強しなければならないのか、よくわかっている。
- 54 がんばれば成績はよくなると思う。
- 55 勉強しようとしたときには、すぐにとりかかれる。
- 56 うまくいかなかったときには、なぜうまくいかなかったのかをよく考える。
- 57 やる気になれば、たいいていのことはみんなと同じようにできると思う。
- 58 何かを決めるとき、それがよいか悪いかをよく考えてから決めている。
- 59 勉強の中で、自分の得意なこと・苦手なことがわかっている。
- 60 苦手な教科でも、がんばればよい成績がとれるようになると思う。

- 61 まわりのことに気をとられて、勉強に集中できないことがよくある。
- 62 授業が終わった後で、授業の内容がよく理解できたかどうかを、ふりかえってみる。
- 63 難しい勉強だと思っても、最後までがんばる。
- 64 行動をする前に、よく考えてみるほうである。
- 65 数学や理科の問題をまちがえたとき、なぜまちがえたかをよく考える。
- 66 私の希望は、将来実現できると思う。
- 67 やりたいことを先にやっちゃってしまって、大切なことができなくなってしまうことがある。
- 68 勉強するときに、どんな順序や方法でしょうかと考える。
- 69 勉強しているときに、ぼんやりしてしまって時間が過ぎてしまうことがある。
- 70 ひととおりに勉強した後で、勉強した内容がよくわかったかどうかを、ふりかえってみる。
- 71 人に言われないとなかなか勉強しない。
- 72 目標を高くもって、がんばっている。
- 73 授業中、ぼんやりしてしまうことがある。
- 74 目標を実現するためには、できるだけ努力しようと思う。
- 75 すぐにあきらめてしまうことが多い。
- 76 自分のもっている力を、できるだけ伸ばしたいと思う。

2 テストで 70 点とりました。次のテストでは何点とれば自分としてはよいと思いますか。

3 テストで悪い点をとってしまいました。そのとき、あなたならどのように考えますか。

4 「勉強するのは、どうしてですか」と聞かれたら、あなたは何と答えますか。

5 次の中で、あなたがこれからもう少し力を入れて、がんばりたいと思っている教科はなんですか。

6 次の中で、悩んでいるものがあれば選んでください。

- 1 授業がよくわからない
- 2 どうしても好きになれない教科がある
- 3 勉強のしかたがわからない
- 4 自分の計画通りに勉強が進められない
- 5 勉強と部活の両立ができない
- 6 いろいろなことを相談できる友人がいない
- 7 毎日が楽しくない
- 8 体力や健康に自信がない

7 あなたは、中学校を卒業してから、どのような進路を考えていますか。

- ア 高校へ行き、卒業したら仕事に就きたい
- イ 高校へ行き、その後、大学・短大・専門学校などへ進学したい
- ウ 中学校を卒業したら、すぐに仕事に就きたい
- エ 卒業後の進路について、迷っている
- オ 進路について、特に考えたことがない

8

- 1 学校に行くのは楽しいですか。
- 2 学校に行く前に、朝ごはんは食べていますか。
- 3 家では、平日（休みを除いた普通の日）に、毎日何時間くらい勉強しますか。
- 4 学習塾または家庭教師から勉強の指導を受けていますか。

■ 表の見方について

- ・すべての数値は3地区の計をもとにしたものである。
- ・統計的な検証を根拠とし、多い、少ないを判定して、△▼をつけている。
△：多い、▼：少ない

■ 検査結果の見方について

- ns : 統計的に有意でない。
- + : 統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大10%程度までである。
- * : 統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大5%程度までである。
- ** : 統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大1%程度までである。

(1) AAI標準得点 (偏差値)

※「学習場面への適応の状況を概観できる総合的な指標」

※5段階 (5. 大変よい、4. よい、3. ふつう、2. もう少し、1. がんばろう) の度数分布に関し、 χ^2 (カイ二乗) 検定を用いて分析した。

<中学1年生>

- ・ (異なる生徒群間の比較 : H20, H21, H22の各中学1年生の比較)

段階		5	4	3	2	1	検定結果
度数 (人)	平成20年度	3	21	37	21	2	ns
	平成21年度	2	26	29	7	3	
	平成22年度	2	17	15	9	3	

<中学2年生>

- ・ (異なる生徒群間の比較 : H19~H23の各中学2年生の比較)

段階		5	4	3	2	1	検定結果
度数 (人)	平成19年度	4	30	26	14	1	*
	平成20年度	8	24	19	20	2	
	平成21年度	4	24	33	△23	2	
	平成22年度	6	30	26	▼3	2	
	平成23年度	5	19	11	7	3	

<中学3年生>

- ・ (異なる生徒群間の比較 : H19~H23の各中学3年生の比較)

段階		5	4	3	2	1	検定結果
度数 (人)	平成19年度	4	40	26	13	8	**
	平成20年度	▼2	17	△35	11	6	
	平成21年度	△14	27	▼19	11	2	
	平成22年度	4	27	30	19	4	
	平成23年度	5	31	22	5	3	

- ・ (同一生徒群の中学1年時からの変化の分析)

段階		5	4	3	2	1	検定結果
度数 (人)	平成20年度中学1年生	3	21	37	21	2	ns
	平成21年度中学2年生	4	24	33	23	2	
	平成22年度中学3年生	4	27	30	19	4	

段階		5	4	3	2	1	検定結果
度数 (人)	平成21年度中学1年生	2	26	29	7	3	ns
	平成22年度中学2年生	6	30	26	3	2	
	平成23年度中学3年生	5	31	22	5	3	

(2) 学習の要因（各分野ごとの傾向）

※5段階（5. 大変よい、4. よい、3. ふつう、2. もう少し、1. がんばろう）の度数分布に関し、 χ^2 検定を用いて分析した。

※同一生徒群の中学1年時からの変化の分析

		度数(人)					検定結果	度数(人)					検定結果		
		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1			
①	学習の意欲	平成20年度中学1年生	6	18	37	19	4	ns	平成21年度中学1年生	4	▼14	△30	△18	2	**
		平成21年度中学2年生	6	23	28	27	2		平成22年度中学2年生	8	△38	▼12	8	1	
		平成22年度中学3年生	5	23	32	20	4		平成23年度中学3年生	6	26	25	▼4	5	
②	計画性	平成20年度中学1年生	7	10	35	27	5	ns	平成21年度中学1年生	3	▼13	△34	16	2	*
		平成21年度中学2年生	7	17	33	24	5		平成22年度中学2年生	6	15	30	12	4	
		平成22年度中学3年生	4	24	29	22	5		平成23年度中学3年生	5	△29	▼17	13	2	
③	授業の受け方	平成20年度中学1年生	2	17	34	28	3	ns	平成21年度中学1年生	2	20	26	18	2	+
		平成21年度中学2年生	5	23	34	22	2		平成22年度中学2年生	3	25	△33	▼6	0	
		平成22年度中学3年生	4	26	24	25	5		平成23年度中学3年生	5	27	▼19	14	1	
④	本の読み方	平成20年度中学1年生	4	21	23	28	8	ns	平成21年度中学1年生	4	24	20	17	2	ns
		平成21年度中学2年生	5	14	35	24	8		平成22年度中学2年生	7	17	30	10	3	
		平成22年度中学3年生	7	18	29	21	9		平成23年度中学3年生	8	20	26	8	4	
⑤	覚え方・考え方	平成20年度中学1年生	7	19	27	27	4	ns	平成21年度中学1年生	2	19	29	16	2	ns
		平成21年度中学2年生	8	19	30	28	1		平成22年度中学2年生	3	22	31	8	3	
		平成22年度中学3年生	2	22	32	24	4		平成23年度中学3年生	4	23	26	9	4	
⑥	テストの受け方	平成20年度中学1年生	6	21	29	25	3	ns	平成21年度中学1年生	5	21	25	15	2	ns
		平成21年度中学2年生	11	19	38	18	0		平成22年度中学2年生	6	37	16	6	2	
		平成22年度中学3年生	5	25	33	18	3		平成23年度中学3年生	8	24	23	8	3	
⑦	学校の学習環境	平成20年度中学1年生	6	23	36	16	3	ns	平成21年度中学1年生	12	25	21	8	2	ns
		平成21年度中学2年生	11	23	32	16	4		平成22年度中学2年生	19	24	16	7	1	
		平成22年度中学3年生	6	22	30	19	7		平成23年度中学3年生	11	29	15	9	2	
⑧	家庭の学習環境	平成20年度中学1年生	7	17	19	△35	6	*	平成21年度中学1年生	10	17	23	15	3	ns
		平成21年度中学2年生	7	18	38	▼16	7		平成22年度中学2年生	8	20	26	9	4	
		平成22年度中学3年生	5	24	30	21	4		平成23年度中学3年生	8	20	29	5	4	
⑨	自己効力感	平成20年度中学1年生	2	25	28	25	4	ns	平成21年度中学1年生	3	17	28	19	1	ns
		平成21年度中学2年生	4	23	33	19	7		平成22年度中学2年生	3	25	28	8	3	
		平成22年度中学3年生	5	13	41	20	5		平成23年度中学3年生	6	16	33	8	3	
⑩	自己統制	平成20年度中学1年生	5	14	28	29	8	ns	平成21年度中学1年生	5	17	20	19	7	ns
		平成21年度中学2年生	7	18	31	25	5		平成22年度中学2年生	11	18	23	12	3	
		平成22年度中学3年生	8	11	35	24	6		平成23年度中学3年生	11	17	21	13	4	
⑪	メタ認知 (ふりかえる力)	平成20年度中学1年生	3	20	28	30	3	ns	平成21年度中学1年生	4	19	30	14	1	ns
		平成21年度中学2年生	8	22	27	25	4		平成22年度中学2年生	5	26	28	6	2	
		平成22年度中学3年生	8	26	27	19	4		平成23年度中学3年生	6	23	26	9	2	

(3) 学習指導上の参考となる項目

※4段階（1. 大変よい、2. よい、3. もう少し、4. がんばろう）の度数分布を、 χ^2 検定を用いて全国の分布と比較した。

<中学1年生>

		平成22年度				検定結果	
		1	2	3	4		
①	自分で進んで勉強する	3地区(%)	△35	48	▼17	▼0	**
		全国(%)	▼16	46	△32	△6	
②	目標目指して勉強する	3地区(%)	22	37	24	17	ns
		全国(%)	18	33	37	12	
③	宿題は早くやる	3地区(%)	43	35	15	7	ns
		全国(%)	40	32	22	6	
④	先生や友達に聞く	3地区(%)	26	22	35	17	ns
		全国(%)	15	30	34	21	
⑤	教科書の重要事項を考察	3地区(%)	13	37	37	13	ns
		全国(%)	16	34	37	13	
⑥	ノートの工夫	3地区(%)	46	30	15	9	ns
		全国(%)	37	33	23	7	
⑦	要点や関連を考えて記憶	3地区(%)	15	39	33	13	ns
		全国(%)	14	36	40	10	
⑧	テスト前に計画を立てる	3地区(%)	▼13	△50	22	15	*
		全国(%)	△27	▼36	27	10	
⑨	答案の間違いを調べる	3地区(%)	65	30	▼2	2	+
		全国(%)	53	32	△11	4	
⑩	学習内容をふりかえる	3地区(%)	9	35	35	22	ns
		全国(%)	11	33	41	15	

<中学2年生>

		平成22年度				検定結果	平成23年度				検定結果	
		1	2	3	4		1	2	3	4		
①	自分で進んで勉強する	3地区(%)	△28	△51	▼18	▼3	**	△22	△49	▼29	▼0	**
		全国(%)	▼8	▼35	△45	△12		▼8	▼35	△45	△12	
②	目標目指して勉強する	3地区(%)	9	40	43	7	ns	13	38	31	18	ns
		全国(%)	14	32	42	12		14	32	42	12	
③	宿題は早くやる	3地区(%)	△37	45	▼15	▼3	**	29	38	29	4	ns
		全国(%)	▼23	35	△32	△10		23	35	32	10	
④	先生や友達に聞く	3地区(%)	9	37	42	▼12	+	△24	36	31	▼9	**
		全国(%)	11	26	39	△24		▼11	26	39	△24	
⑤	教科書の重要事項を考察	3地区(%)	16	42	33	7	ns	20	42	24	13	ns
		全国(%)	16	34	37	13		16	34	37	13	
⑥	ノートの工夫	3地区(%)	30	43	21	6	ns	33	40	20	7	ns
		全国(%)	33	35	25	7		33	35	25	7	
⑦	要点や関連を考えて記憶	3地区(%)	13	37	42	7	ns	13	42	29	16	ns
		全国(%)	14	34	40	12		14	34	40	12	
⑧	テスト前に計画を立てる	3地区(%)	16	36	39	9	ns	11	41	30	18	ns
		全国(%)	19	33	33	15		19	33	33	15	
⑨	答案の間違いを調べる	3地区(%)	△60	28	10	▼1	*	△64	27	▼4	4	**
		全国(%)	▼40	36	16	△8		▼40	36	△16	8	
⑩	学習内容をふりかえる	3地区(%)	4	31	52	12	ns	9	20	49	22	ns
		全国(%)	10	30	44	16		10	30	44	16	

<中学3年生>		平成22年度					平成23年度					
		1	2	3	4	検定結果	1	2	3	4	検定結果	
①	自分で進んで勉強する	3地区(%)	△20	43	▼30	7	*	△24	44	▼26	6	**
		全国(%)	▼8	36	△45	11		▼8	36	△45	11	
②	目標目指して勉強する	3地区(%)	12	40	37	12	ns	8	△59	27	6	**
		全国(%)	16	34	40	10		16	▼34	40	10	
③	宿題は早くやる	3地区(%)	22	47	28	4	ns	26	50	21	3	ns
		全国(%)	26	38	28	8		26	38	28	8	
④	先生や友達に聞く	3地区(%)	8	33	46	14	ns	17	35	41	▼8	+
		全国(%)	12	28	40	20		12	28	40	△20	
⑤	教科書の重要事項を考察	3地区(%)	14	33	39	16	ns	21	39	33	6	ns
		全国(%)	14	37	37	12		14	37	37	12	
⑥	ノートの工夫	3地区(%)	34	35	28	5	ns	36	38	21	5	ns
		全国(%)	32	36	26	6		32	36	26	6	
⑦	要点や関連を考えて記憶	3地区(%)	11	45	35	11	ns	23	36	33	8	ns
		全国(%)	15	36	38	11		15	36	38	11	
⑧	テスト前に計画を立てる	3地区(%)	12	29	43	17	ns	11	41	36	12	ns
		全国(%)	12	32	39	17		12	32	39	17	
⑨	答案の間違いを調べる	3地区(%)	45	39	12	6	ns	48	35	11	6	ns
		全国(%)	38	37	18	7		38	37	18	7	
⑩	学習内容をふりかえる	3地区(%)	10	36	37	18	ns	2	38	45	15	ns
		全国(%)	9	33	43	15		9	33	43	15	

(4) 悩み

※同一生徒群の中学1年時からの変化の分析

<中学3年生>

			はい(人)		検定結果	はい(人)		いいえ(人)		検定結果
			平成20年度	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成20年度	平成21年度	
①	授業がわからない	平成20年度中学1年生	24	60	ns	平成21年度中学1年生	6	62	ns	
		平成21年度中学2年生	23	63		平成22年度中学2年生	7	60		
		平成22年度中学3年生	24	60		平成23年度中学3年生	7	59		
②	好きでない教科がある	平成20年度中学1年生	51	33	ns	平成21年度中学1年生	30	38	ns	
		平成21年度中学2年生	50	36		平成22年度中学2年生	▼20	△47		
		平成22年度中学3年生	46	38		平成23年度中学3年生	33	33		
③	勉強方がわからない	平成20年度中学1年生	▼22	△62	*	平成21年度中学1年生	11	57	+	
		平成21年度中学2年生	35	51		平成22年度中学2年生	15	52		
		平成22年度中学3年生	37	47		平成23年度中学3年生	19	47		
④	勉強が計画通り進まない	平成20年度中学1年生	20	64	ns	平成21年度中学1年生	14	54	ns	
		平成21年度中学2年生	20	66		平成22年度中学2年生	16	51		
		平成22年度中学3年生	27	57		平成23年度中学3年生	18	48		
⑤	勉強と部活動の両立	平成20年度中学1年生	16	68	+	平成21年度中学1年生	16	52	*	
		平成21年度中学2年生	19	67		平成22年度中学2年生	15	52		
		平成22年度中学3年生	▼8	△76		平成23年度中学3年生	▼5	△61		
⑥	相談できる友人がいない	平成20年度中学1年生	5	79	ns	平成21年度中学1年生	5	63	+	
		平成21年度中学2年生	10	76		平成22年度中学2年生	5	62		
		平成22年度中学3年生	6	78		平成23年度中学3年生	▼0	△66		
⑦	毎日が楽しくない	平成20年度中学1年生	12	72	ns	平成21年度中学1年生	4	64	ns	
		平成21年度中学2年生	11	75		平成22年度中学2年生	3	64		
		平成22年度中学3年生	13	71		平成23年度中学3年生	3	63		
⑧	体力や健康に自信がない	平成20年度中学1年生	22	62	ns	平成21年度中学1年生	9	59	ns	
		平成21年度中学2年生	13	73		平成22年度中学2年生	11	56		
		平成22年度中学3年生	14	70		平成23年度中学3年生	10	56		

(5) 学習の目的

※同一生徒群の中学1年時からの変化の分析。

<中学3年生>

		平成20年度		検定結果	平成21年度		検定結果	
		はい(人)	いいえ(人)		はい(人)	いいえ(人)		
① 知識が増えて楽しい	平成20年度中学1年生	7	77	ns	平成21年度中学1年生	4	64	ns
	平成21年度中学2年生	10	76		平成22年度中学2年生	8	59	
	平成22年度中学3年生	5	79		平成23年度中学3年生	5	61	
② 能力を伸ばせる	平成20年度中学1年生	△43	▼41	*	平成21年度中学1年生	30	38	ns
	平成21年度中学2年生	▼28	△58		平成22年度中学2年生	26	41	
	平成22年度中学3年生	34	50		平成23年度中学3年生	30	36	
③ 問題が解けたときの嬉しさ	平成20年度中学1年生	15	69	ns	平成21年度中学1年生	4	64	ns
	平成21年度中学2年生	17	69		平成22年度中学2年生	7	60	
	平成22年度中学3年生	12	72		平成23年度中学3年生	5	61	
④ 希望進路実現	平成20年度中学1年生	▼14	△70	**	平成21年度中学1年生	21	47	ns
	平成21年度中学2年生	35	51		平成22年度中学2年生	24	43	
	平成22年度中学3年生	△35	▼49		平成23年度中学3年生	20	46	
⑤ 将来、役に立つ	平成20年度中学1年生	33	51	ns	平成21年度中学1年生	44	24	ns
	平成21年度中学2年生	40	46		平成22年度中学2年生	36	31	
	平成22年度中学3年生	37	47		平成23年度中学3年生	40	26	
⑥ 良い成績を取りたい	平成20年度中学1年生	19	65	ns	平成21年度中学1年生	15	53	ns
	平成21年度中学2年生	15	71		平成22年度中学2年生	14	53	
	平成22年度中学3年生	20	64		平成23年度中学3年生	16	50	
⑦ いい点数を取りたい	平成20年度中学1年生	22	62	ns	平成21年度中学1年生	10	58	ns
	平成21年度中学2年生	16	70		平成22年度中学2年生	13	54	
	平成22年度中学3年生	17	67		平成23年度中学3年生	11	55	
⑧ 友人に負けたくない	平成20年度中学1年生	△14	▼70	*	平成21年度中学1年生	7	61	ns
	平成21年度中学2年生	9	77		平成22年度中学2年生	4	63	
	平成22年度中学3年生	▼4	△80		平成23年度中学3年生	4	62	

(6) 生活のようす

① 「学校へ行くのは楽しいですか」

※4段階（下記）の度数分布を、 χ^2 検定を用いて全国の分布と比較した。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. まったくそう思わない

② 「学校に行く前に、朝ごはんを食べていますか」

※4段階（下記）の度数分布を、 χ^2 検定を用いて全国の分布と比較した。

1. いつも食べている 2. だいたい食べている 3. あまり食べない 4. まったく食べない

③ 「家では、平日に毎日何時間くらい勉強しますか」

※5段階（下記）の度数分布を、 χ^2 検定を用いて全国の分布と比較した。

1. しない 2. 30分未満 3. 30分以上1時間未満 4. 1時間以上2時間未満
5. 2時間以上

④ 「学習塾または家庭教師の指導を週に何回受けていますか」

※4段階（下記）の度数分布を、 χ^2 検定を用いて全国の分布と比較した。

1. 受けていない 2. 1週間に1～2回 3. 1週間に3～4回 4. 1週間に5回以上

<中学1年生>

		平成22年度					検定結果
		1	2	3	4	5	
① 学校に行くのが楽しい	3地区(%)	▼28	△52	17	2	/	**
	全国(%)	△47	▼34	13	6	/	
② 朝食を摂る	3地区(%)	83	17	▼0	0	/	**
	全国(%)	83	9	△5	3	/	
③ 平日の家庭学習時間	3地区(%)	▼0	▼0	20	△65	15	**
	全国(%)	△4	△10	28	▼41	17	
④ 通塾・家庭教師状況	3地区(%)	△91	▼7	▼2	0	/	**
	全国(%)	▼60	△29	△10	1	/	

<中学2年生>

		平成22年度					検定結果	平成23年度					検定結果	
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		
①	学校に行くのが楽しい	3地区(%)	28	△57	▼7	7	／	*	29	44	20	7	／	ns
		全国(%)	40	▼35	△17	8	／		40	35	17	8	／	
②	朝食を摂る	3地区(%)	△91	6	1	1	／	+	△91	7	2	▼0	／	*
		全国(%)	▼78	12	6	4	／		▼78	12	6	△4	／	
③	平日の家庭学習時間	3地区(%)	▼0	▼3	12	△55	△30	**	▼0	▼2	16	△62	△20	**
		全国(%)	△17	△24	18	▼31	▼10		△17	△24	18	▼31	▼10	
④	通塾・家庭教師状況	3地区(%)	△97	▼1	▼0	1	／	**	△93	▼4	▼0	2	／	**
		全国(%)	▼49	△36	△14	1	／		▼49	△36	△14	1	／	

<中学3年生>

		平成22年度					検定結果	平成23年度					検定結果	
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		
①	学校に行くのが楽しい	3地区(%)	▼19	45	29	7	／	*	▼23	△65	▼8	5	／	**
		全国(%)	△36	37	19	8	／		△36	▼37	△19	8	／	
②	朝食を摂る	3地区(%)	81	10	5	5	／	ns	△89	6	2	3	／	*
		全国(%)	76	12	7	5	／		▼76	12	7	5	／	
③	平日の家庭学習時間	3地区(%)	▼4	11	19	△43	△24	**	▼3	▼3	▼6	△53	△35	**
		全国(%)	△13	18	30	▼29	▼10		△13	△18	△30	▼29	▼10	
④	通塾・家庭教師状況	3地区(%)	△89	▼10	▼1	0	／	**	△100	▼0	▼0	0	／	**
		全国(%)	▼38	△32	△28	2	／		▼38	△32	△28	2	／	

(7) その他

※同一生徒群の中学1年時からの変化の分析。

		度数(人)				検定結果	度数(人)				検定結果		
		1	2	3	4		1	2	3	4			
①	学習面で自分に厳しいか	平成20年度中学1年生	27	40	17	／	ns	平成21年度中学1年生	18	42	8	／	ns
		平成21年度中学2年生	17	44	25	／		平成22年度中学2年生	18	39	10	／	
		平成22年度中学3年生	17	43	24	／		平成23年度中学3年生	18	36	12	／	
②	努力欠如の認識	平成20年度中学1年生	9	65	8	1	ns	平成21年度中学1年生	6	58	4	0	ns
		平成21年度中学2年生	17	65	4	0		平成22年度中学2年生	9	55	2	1	
		平成22年度中学3年生	11	68	4	0		平成23年度中学3年生	6	54	5	0	
③	学習スタイル	平成20年度中学1年生	15	44	25	／	ns	平成21年度中学1年生	11	35	22	／	ns
		平成21年度中学2年生	17	52	17	／		平成22年度中学2年生	6	42	19	／	
		平成22年度中学3年生	14	55	15	／		平成23年度中学3年生	5	47	14	／	

②CRT-II

- 学習指導要領に準拠した絶対評価法による標準学力検査。
- 仮説①【学習の基礎基本の定着】を検証。
- 平成19年度は小学5年生・中学1年生、平成20年度は小学6年生・中学2年生
平成21年度は中学1年生・中学3年生、平成22年度は中学2年生、平成23年度は中学3年生
を対象に実施。
- 表の見方について
 - ・すべての数値は3地区を合わせたものである。
 - ・統計的な検証を根拠とし、多い、少ないを判定して、△▼をつけている。
△：多い、▼：少ない
- 検定結果の見方について
ns：統計的に有意ではない。
+：統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大10%程度までである。
*：統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大5%程度までである。
**：統計的に有意である。但し有意ではない可能性が最大1%程度までである。

<小学生>

●全観点評価分布

算数の全観点評価の分布と検定結果（3地区）

評価段階	平成19年度（5年生）				平成20年度（6年生）			
	A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果
3地区（%）	60	31	9	ns	60	35	5	ns
全国（%）	61	29	10		61	29	10	

●観点別学習状況

小学生・算数の各観点別学習状況の分布と検定結果（3地区）

学習状況		平成19年度（5年生）				平成20年度（6年生）			
		A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果
算数への関心・意欲・態度	3地区（%）	87	10	3	ns	71	23	6	ns
	全国（%）	79	15	6		75	18	7	
数学的な考え方	3地区（%）	50	22	28	ns	32	37	31	ns
	全国（%）	42	27	31		31	35	34	
数量や図形についての表現・処理	3地区（%）	59	29	12	ns	74	15	11	ns
	全国（%）	60	25	15		67	20	13	
数量や図形についての知識・理解	3地区（%）	81	9	10	ns	66	28	6	ns
	全国（%）	77	15	8		64	25	11	

<中学生> (平成19年度～平成21年度)

●全観点評定分布(数学)(全国との比較)

数学の全観点評定の分布と検定結果(3地区)

評定段階	平成19年度(中学1年生)						平成20年度(中学2年生)						平成21年度(中学3年生)					
	5	4	3	2	1	検定結果	5	4	3	2	1	検定結果	5	4	3	2	1	検定結果
3地区(%)	▼5	20	49	24	1	*	10	19	51	19	1	ns	21	36	30	12	1	ns
全国(%)	△14	27	38	16	5		13	25	38	18	6		25	27	28	14	6	

(3年間の比較)

数学の全観点評定の分布と検定結果(3地区)

評定段階	年度(学年)	度数(人)					検定結果
		5	4	3	2	1	
数学(人)	H19(中学1年生)	▼4	15	△40	14	1	*
	H20(中学2年生)	7	13	36	13	1	
	H21(中学3年生)	△15	△26	22	9	1	

●観点別学習状況(数学)(全国との比較)

中学生・数学の各観点別学習状況の分布と検定結果(3地区)

学習状況		平成19年度(中学1年生)				平成20年度(中学2年生)				平成21年度(中学3年生)			
		A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果
数学への関心・意欲・態度	3地区(%)	47	38	15	ns	50	29	21	ns	△68	▼18	14	+
	全国(%)	54	33	12		45	35	20		▼53	△31	16	
数学的な考え方	3地区(%)	22	38	41	ns	▼11	29	△60	+	40	33	27	ns
	全国(%)	32	33	35		△22	32	▼46		40	26	35	
数学的な表現・処理	3地区(%)	42	24	34	ns	57	30	13	ns	67	14	19	ns
	全国(%)	43	32	26		57	24	19		62	16	21	
数量、図形などについての知識・理解	3地区(%)	39	41	20	ns	46	41	13	ns	48	38	14	ns
	全国(%)	49	34	17		46	32	22		52	30	18	

(3年間の比較)

数学の観点別学習状況の分布と検定結果(3地区)

学習状況	年度(学年)	度数(人)			検定結果
		A	B	C	
数学への関心・意欲・態度	H19(中学1年生)	▼35	△28	11	*
	H20(中学2年生)	35	20	15	
	H21(中学3年生)	△50	▼13	10	
数学的な考え方	H19(中学1年生)	16	28	30	**
	H20(中学2年生)	▼8	20	△42	
	H21(中学3年生)	△29	24	▼20	
数学的な表現・処理	H19(中学1年生)	▼31	18	△25	**
	H20(中学2年生)	40	△21	▼9	
	H21(中学3年生)	△49	10	▼14	
数量、図形などについての知識・理解	H19(中学1年生)	29	30	15	ns
	H20(中学2年生)	32	29	9	
	H21(中学3年生)	35	28	10	

●全観点評定分布（英語）（全国との比較）

英語の全観点評定の分布と検定結果（3地区）

評定段階	平成19年度（中学1年生）					検定結果	平成20年度（中学2年生）					検定結果	平成21年度（中学3年生）					検定結果
	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
3地区(%)	14	31	42	12	1	ns	23	26	43	6	1	ns	15	26	△48	10	1	+
全国(%)	20	35	31	12	3		22	29	33	13	3		18	27	▼33	17	6	

（3年間の比較）

英語の全観点評定の分布と検定結果（3地区）

評定段階	年度（学年）	度数（人）					検定結果
		5	4	3	2	1	
英語	H19(中学1年生)	10	23	31	9	1	ns
	H20(中学2年生)	16	18	30	4	1	
	H21(中学3年生)	11	19	35	7	1	

●観点別学習状況（英語）（全国との比較）

中学生・英語の各観点別学習状況の分布と検定結果（3地区）

学習状況		平成19年度（中学1年生）				検定結果	平成20年度（中学2年生）				検定結果	平成21年度（中学3年生）				検定結果
		A	B	C	検定結果		A	B	C	検定結果		A	B	C	検定結果	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	3地区(%)	53	26	22	ns	70	23	7	ns	66	23	11	ns			
	全国(%)	51	34	15		66	24	11		55	28	16				
表現の能力	3地区(%)	▼36	△35	28	*	▼32	△51	17	*	29	△43	29	ns			
	全国(%)	△55	▼21	23		△46	▼31	23		39	▼24	37				
理解の能力	3地区(%)	65	19	16	ns	61	30	9	ns	51	△36	13	+			
	全国(%)	65	22	13		63	24	13		56	▼23	21				
言語や文化についての 知識・理解	3地区(%)	42	41	18	ns	51	26	23	ns	51	23	26	ns			
	全国(%)	45	36	18		43	25	33		41	29	30				

（3年間の比較）

英語の観点別学習状況の分布と検定結果（3地区）

学習状況	年度（学年）	度数（人）			検定結果
		A	B	C	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	H19(中学1年生)	39	19	16	ns
	H20(中学2年生)	48	16	6	
	H21(中学3年生)	46	16	8	
表現の能力	H19(中学1年生)	27	26	11	**
	H20(中学2年生)	26	32	14	
	H21(中学3年生)	▼20	30	△20	
理解の能力	H19(中学1年生)	40	19	15	ns
	H20(中学2年生)	43	19	10	
	H21(中学3年生)	36	25	9	
言語や文化についての 知識・理解	H19(中学1年生)	37	29	8	ns
	H20(中学2年生)	33	25	14	
	H21(中学3年生)	36	16	18	

<中学生> (平成21年度～平成23年度)

●全観点評定分布(数学) (全国との比較)

数学の全観点評定の分布と検定結果(3地区)

評定段階	平成21年度(中学1年生)					検定結果	平成22年度(中学2年生)					検定結果	平成23年度(中学3年生)					検定結果
	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
3地区(%)	11	36	33	17	3	ns	11	30	44	14	2	ns	8	32	40	14	6	ns
全国(%)	14	25	36	19	6		16	22	35	19	7		19	28	32	16	6	

(3年間の比較)

数学の全観点評定の分布と検定結果(3地区)

評定段階	年度(学年)	度数(人)					検定結果
		5	4	3	2	1	
数学	H21(中学1年生)	7	24	22	11	2	ns
	H22(中学2年生)	7	20	29	9	1	
	H23(中学3年生)	5	21	26	9	4	

●観点別学習状況(数学) (全国との比較)

中学生・数学の各観点別学習状況の分布と検定結果(3地区)

学習状況		平成21年度(中学1年生)				平成22年度(中学2年生)				平成23年度(中学3年生)			
		A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果
数学への関心・意欲・態度	3地区(%)	52	38	11	ns	50	36	14	ns	52	31	17	ns
	全国(%)	54	34	12		47	34	19		52	29	18	
数学的な見方や考え方	3地区(%)	38	26	36	ns	20	36	44	ns	22	40	38	ns
	全国(%)	30	28	43		24	27	49		35	30	35	
数学的な表現・処理	3地区(%)	52	26	23	ns	64	26	11	ns	57	26	17	ns
	全国(%)	41	29	30		54	27	20		65	19	16	
数量、図形などについての知識・理解	3地区(%)	35	39	26	ns	△70	18	12	*	34	38	28	ns
	全国(%)	44	34	22		▼52	26	22		39	37	24	

(3年間の比較)

数学の観点別学習状況の分布と検定結果(3地区)

学習状況	年度(学年)	度数(人)			検定結果
		A	B	C	
数学への関心・意欲・態度	H21(中学1年生)	34	25	7	ns
	H22(中学2年生)	33	24	9	
	H23(中学3年生)	34	20	11	
数学的な見方や考え方	H21(中学1年生)	25	17	24	ns
	H22(中学2年生)	13	24	29	
	H23(中学3年生)	14	26	25	
数学的な表現・処理	H21(中学1年生)	34	17	15	ns
	H22(中学2年生)	42	17	7	
	H23(中学3年生)	37	17	11	
数量、図形などについての知識・理解	H21(中学1年生)	▼23	26	17	**
	H22(中学2年生)	△46	▼12	▼8	
	H23(中学3年生)	▼22	25	18	

●全観点評定分布（英語）（全国との比較）

英語の全観点評定の分布と検定結果（3地区）

評定段階	平成21年度（中学1年生）					検定結果	平成22年度（中学2年生）					検定結果	平成23年度（中学3年生）					検定結果
	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
3地区(%)	12	39	33	15	0	ns	24	29	32	15	0	ns	11	40	32	15	2	ns
全国(%)	18	30	33	14	4		21	28	32	15	5		19	26	33	17	5	

（3年間の比較）

英語の全観点評定の分布と検定結果（3地区）

評定段階	年度（学年）	度数（人）					検定結果
		5	4	3	2	1	
英語	H21(中学1年生)	8	26	22	10	0	ns
	H22(中学2年生)	16	19	21	10	0	
	H23(中学3年生)	7	26	21	10	1	

●観点別学習状況（英語）（全国との比較）

中学生・英語の各観点別学習状況の分布と検定結果（3地区）

学習状況		平成21年度（中学1年生）				平成22年度（中学2年生）				平成23年度（中学3年生）			
		A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果	A	B	C	検定結果
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	3地区(%)	47	42	11	ns	59	33	8	ns	58	28	14	ns
	全国(%)	50	33	18		61	26	13		57	27	16	
表現の能力	3地区(%)	42	27	30	ns	45	30	24	ns	35	29	35	ns
	全国(%)	47	23	29		43	28	29		40	22	37	
理解の能力	3地区(%)	70	20	11	ns	59	29	12	ns	63	23	14	ns
	全国(%)	56	26	18		55	28	17		57	23	21	
言語や文化についての 知識・理解	3地区(%)	52	36	12	ns	44	41	15	ns	46	31	23	ns
	全国(%)	46	37	17		37	35	27		43	28	29	

（3年間の比較）

英語の観点別学習状況の分布と検定結果（3地区）

学習状況	年度（学年）	度数（人）			検定結果
		A	B	C	
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	H21(中学1年生)	31	28	7	ns
	H22(中学2年生)	39	22	5	
	H23(中学3年生)	38	18	9	
表現の能力	H21(中学1年生)	28	18	20	ns
	H22(中学2年生)	30	20	16	
	H23(中学3年生)	23	19	23	
理解の能力	H21(中学1年生)	46	13	7	ns
	H22(中学2年生)	39	19	8	
	H23(中学3年生)	41	15	9	
言語や文化についての 知識・理解	H21(中学1年生)	34	24	8	ns
	H22(中学2年生)	29	27	10	
	H23(中学3年生)	30	20	15	

③hyper-QU (Q-U)

- 児童生徒の学級生活での満足度と意欲、学習集団の状態を測定するアンケート。
- Q-Uは「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」で構成。
- 仮説②【基本的な生活習慣の確立】、仮説③【望ましい進路意識の向上（中学生）】、仮説④【豊かな人間性・社会性の育成】を検証
- 平成19年度は小学1年生から中学3年生、平成20年度は小学2年生から中学3年生
平成21年度は小学3年生から中学3年生、平成22年度は小学4年生から中学3年生
平成23年度は小学5年生から中学3年生
平成24年度からは hyper-QU を実施 小学5年生から中学3年生を対象に実施

Q-U (小1～3年用) 質問項目一覧

<やる気のあるクラスをつくるためのアンケート>

- 1 クラスのともだちは、あなたにしんせつにしてくれますか。
- 2 クラスの中に、なかのよいともだちがいますか。
- 3 こまったときに、はなしをきいてくれるともだちがいますか。
- 4 むずかしいもんだいも、すぐにあきらめないでいろいろとかんがえてみますか。
- 5 じゅぎょうのときに、じぶんのいけんをはっぴょうするのはすきですか。
- 6 べんぎょうがもっとできるようになるうとがんばっていますか。
- 7 あなたのくらすは、あかるくてたのしいですか。
- 8 あなたのクラスは、みんなでなかよくきょうりよくしあっているとおもいますか。
- 9 クラスのみんなと、いろいろなことをするのはたのしいですか。

<いごちのよいクラスにするためのアンケート>

- 1 あなたは、うんどうやべんぎょうなどで、クラスの人からすごいなといわれることがありますか。
- 2 あなたがしっばいしたときに、クラスの人をはげましてくれることがありますか。
- 3 クラスの中に、あなたのきもちをわかってくれる人がいますか。
- 4 あなたがなにかをしようとするとき、クラスの人たちはきょうりよくしてくれるとおもいますか。
- 5 クラスには、いろいろなことにすすんでとりくむ人がいますか。
- 6 ともだちは、あなたのはなしをきいてくれますか。
- 7 クラスの人に、いやなことをいわれることがありますか。
- 8 クラスの人に、らんぼうなことをされることがありますか。
- 9 学校にいきたくないことがありますか。
- 10 学校でひとりぼっちでいることがありますか。
- 11 あそびのなかまにいられてもらえないことがありますか。
- 12 あなたはクラスの人たちから、むしされるようなことがありますか。

Q-U (小4～6年用) 質問項目一覧表

<やる気のあるクラスをつくるためのアンケート>

- 1 あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりしますか。
- 2 あなたのクラスには、いい人だなと思う友達や、すごいなと思う友達がありますか。
- 3 あなたは、クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか。
- 4 学校で勉強していて、できなかったことができるようになると、うれしいと思いますか。
- 5 じゅ業中に、先生のしつ問に答えたり、自分の考えや意見を言うのは好きですか。
- 6 よい成績をとったり、もっと勉強ができるようになると努力していますか。
- 7 あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか。
- 8 あなたのクラスは、みんなでなかよく協力しあっているとおもいますか。
- 9 あなたのクラスは、勉強やいろいろな活動に、まとまって取り組んでいると思いますか。

<いごちのよいクラスにするためのアンケート>

- 1 あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどでクラスの人からみとめられる。(すごいなと思われる) ことがありますか。
- 2 あなたが失敗したときに、クラスの人をはげましてくれることがありますか。
- 3 クラスの中に、あなたの気持ちをわかってくれる人がいると思いますか。
- 4 あなたが何かしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、おうえんしてくれたりする

と思いますか。

- 5 あなたのクラスには、いろいろな活動に取り組もうとする人が、たくさんいると思いますか。
- 6 あなたが自分の思ったことや考えたことを発表したとき、クラスの人たちはひやかしたりしないで、しっかり聞いてくれると思いますか。
- 7 あなたはクラスの人にいやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがありますか。
- 8 あなたのクラスの人にぼう力をふるわれるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- 9 あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- 10 あなたは休み時間などに、ひとりぼっちでいることがありますか。
- 11 あなたはクラスでグループをつくるときなどに、すぐにグループに入れないで、最後のほうまで残ってしまうことがありますか。
- 12 あなたはクラスの人たちから、ムシされているようなことがありますか。

Q-U (中学校用) 質問項目一覧表

<やる気のあるクラスをつくるためのアンケート>

- 1 学級内には、いろいろな活動やおしゃべりにさそってくれる友人がいる。
- 2 学校内には気軽に話せる友人がいる。
- 3 人と仲よくしたり、友人関係をよくしたりする方法を知っている。
- 4 友人との付き合いは、自分の成長にとって大切だと思う。
- 5 学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる。
- 6 学校の勉強の中で、得意な教科や好きな教科がある。
- 7 授業の内容は理解できる。
- 8 学習内容をより深く理解するための、自分なりの学習の仕方がある。
- 9 学校内に自分の悩みを相談できる先生がいる。
- 10 学校内には気軽によく話ができる先生がいる。
- 11 担任の先生とはうまくいっていると思う。
- 12 先生の前でも自分らしくふるまっている。
- 13 自分のクラスは仲のよいクラスだと思う。
- 14 クラスの中にいると、ほっとしたり、明るい気分になったりする。
- 15 クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。
- 16 自分もクラスの活動に貢献していると思う。
- 17 なりたい職業や興味を持っている職業がある。
- 18 自分の将来に夢や希望を持っている。
- 19 自分のすすみたい職業の分野について自分から調べている。
- 20 進路について仲のよい友人などと話し合うことがある。

<いごこちのよいクラスにするためのアンケート>

- 1 勉強や運動、特技やひょうきんさなどで友人から認められていると思う。
- 2 私はクラスの中で存在感があると思う。
- 3 自分を頼りにしてくれる友人がいる。
- 4 学校やクラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。
- 5 自分の考えがクラスや部全員の意見になることがある。
- 6 クラスで行う活動には積極的に取り組んでいる。
- 7 学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。
- 8 仲のよいグループの中では中心的なメンバーである。
- 9 自分が何かしようと思ったとき、協力してくれる友人がいる。
- 10 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。
- 11 クラスの人から無視されるようなことがある。
- 12 クラスや部活動でからかわれたり、ばかにされたりするようなことがある。
- 13 授業中に発言したり先生の質問に答えたりすると、冷やかされることがある。
- 14 クラスメイトから耐えられない悪ふざけをされることがある。
- 15 クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入らず、残ってしまうことがある。
- 16 クラスの中で浮いていると感じることがある。
- 17 休み時間などに、ひとりでいることが多い。
- 18 クラスにいるときや部活をしているとき、まわりの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。
- 19 学校に行きたくないときがある。私はクラスメイトの友人関係についてあまり知らない。

hyper-QU（小4～6年用）質問項目一覧表

<やる気のあるクラスをつくるためのアンケート>

- 1 あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりしますか。
- 2 あなたのクラスには、いい人だと思う友達や、すごいと思う友達がいいますか。
- 3 あなたは、クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか。
- 4 学校で勉強していて、できなかったことができるようになると、うれしいと思いますか。
- 5 じゅ業中に、先生のしつ問に答えたり、自分の考えや意見を言うのは好きですか。
- 6 よい成績をとったり、もっと勉強ができるようになると努力していますか。
- 7 あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか。
- 8 あなたのクラスは、みんなでなかよく協力しあっているとおもいますか。
- 9 あなたのクラスは、勉強やいろいろな活動に、まとまって取り組んでいると思いますか。

<いごちのよいクラスにするためのアンケート>

- 1 あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどでクラスの人からみとめられる。（すごいと思われる）ことがありますか。
- 2 あなたが失敗したときに、クラスの人のはげましてくれことがありますか。
- 3 クラスの中に、あなたの気持ちをわかってくれる人がいると思いますか。
- 4 あなたが何かしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、おうえんしてくれたりすると思いますか。
- 5 あなたのクラスには、いろいろな活動に取り組もうとする人が、たくさんいると思いますか。
- 6 あなたが自分の思ったことや考えたことを発表したとき、クラスの人たちはひやかしたりしないで、しっかり聞いてくれると思いますか。
- 7 あなたはクラスの人にいやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがありますか。
- 8 あなたのクラスの人にぼう力をふるわれるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- 9 あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。
- 10 あなたは休み時間などに、ひとりぼっちでいることがありますか。
- 11 あなたはクラスでグループをつくる時などに、すぐにグループに入れなくて、最後のほうまで残ってしまうことがありますか。
- 12 あなたはクラスの人たちから、ムシされているようなことがありますか。

<ふだんの行動をふりかえるアンケート>

- 1 友達の気持ちを考えながら話をしていますか。
- 2 何か失敗をしたときに、「ごめんなさい」と言っていますか。
- 3 友達が話しているときは、その話を最後まで聞いていますか。
- 4 みんなで決めたことにはしたがっていますか。
- 5 班活動で友達が一生けん命やって失敗したときは、ゆるしていますか。
- 6 友人が何かうまくしたとき、「じょうずだね」とほめていますか。
- 7 友達との約束は守っていますか。
- 8 何かをたのむときなど、相手にめいわくがかからないか考えていますか。
- 9 みんなと同じくらい、話をしていますか。
- 10 みんなのためになることは、自分で見つけて実行していますか。
- 11 友達が楽しんでいるときに、もっと楽しくなるようにもりあげていますか。
- 12 うれしいときは、え顔やガッツポーズなどの身ぶりで気持ちを表していますか。
- 13 ほかに人に左右されなくて、自分の考えで行動していますか。
- 14 自分から友達を遊びにさそっていますか。
- 15 係の仕事をするとき、何をどうやったらよいか、意見を言っていますか。
- 16 友達の中心になって、何をして遊ぶか、アイディアを出していますか。

hyper-QU（中学校用）質問項目一覧表

<やる気のあるクラスをつくるためのアンケート>

- 1 学級内には、いろいろな活動やおしゃべりにさそってくれる友人がいる。
- 2 学校内には気軽に話せる友人がいる。
- 3 人と仲よくしたり、友人関係をよくしたりする方法を知っている。
- 4 友人との付き合いは、自分の成長にとって大切だと思う。
- 5 学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる。
- 6 学校の勉強の中で、得意な教科や好きな教科がある。
- 7 授業の内容は理解できる。
- 8 学習内容をより深く理解するための、自分なりの学習の仕方がある。
- 9 学校内に自分の悩みを相談できる先生がいる。
- 10 学校内には気軽によく話ができる先生がいる。
- 11 担任の先生とほうまくいっていると思う。
- 12 先生の前でも自分らしくふるまっている。
- 13 自分のクラスは仲のよいクラスだと思う。
- 14 クラスの中にいると、ほっとしたり、明るい気分になったりする。
- 15 クラスの行事に参加したり、活動したりするのは楽しい。
- 16 自分もクラスの活動に貢献していると思う。
- 17 なりたい職業や興味を持っている職業がある。
- 18 自分の将来に夢や希望を持っている。
- 19 自分のすすみたい職業の分野について自分から調べている。
- 20 進路について仲のよい友人などと話し合うことがある。

<いごこちのよいクラスにするためのアンケート>

- 1 勉強や運動、特技やひょうきんさなどで友人から認められていると思う。
- 2 私はクラスの中で存在感があると思う。
- 3 自分を頼りにしてくれる友人がいる。
- 4 学校やクラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。
- 5 自分の考えがクラスや部全員の意見になることがある。
- 6 クラスで行う活動には積極的に取り組んでいる。
- 7 学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。
- 8 仲のよいグループの中では中心的なメンバーである。
- 9 自分が何かしようと思ったとき、協力してくれる友人がいる。
- 10 学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。
- 11 クラスの人から無視されるようなことがある。
- 12 クラスや部活動でからかわれたり、ばかにされたりするようなことがある。
- 13 授業中に発言したり先生の質問に答えたりすると、冷やかされることがある。
- 14 クラスメートから耐えられない悪ふざけをされることがある。
- 15 クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入れず、残ってしまうことがある。
- 16 クラスの中で浮いていると感じることがある。
- 17 休み時間などに、ひとりであることが多い。
- 18 クラスにいるときや部活をしているとき、まわりの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。
- 19 学校に行きたくないときがある。
- 20 私はクラスメートの友人関係についてあまり知らない。

<日常の行動をふり返るアンケート>

- 1 友人が話しているときは、その話を最後まで聞いていますか。
- 2 友人の気持ちを考えながら話をしていますか。
- 3 みんなで決めたことには従っていますか。
- 4 自分の係の仕事は、最後までやり遂げていますか。
- 5 班活動で友人が一生懸命やって失敗したときは、許していますか。
- 6 友人との約束は守っていますか。
- 7 友人とケンカをしたときに、自分にも悪いところがないか、考えていますか。
- 8 自分がしてもらいたいことを、友人にしてあげていますか。
- 9 友人が悩みを話してきたら、じっくり聞いてあげていますか。
- 10 みんなと同じくらい、話をしていますか。
- 11 みんなのためになることは、自分で見つけて実行していますか。
- 12 友人が楽しんでいるときに、もっと楽しくなるように盛り上げていますか。
- 13 うれしいときは、笑顔やガッツポーズなどの身ぶりで気持ちを表していますか。
- 14 わからないことがあるとき、友人や先生に聞いていますか。
- 15 自分から友達を遊びに誘っていますか。
- 16 係の仕事をするとき、何をどうやったらよいか、意見を言っていますか。
- 17 困っているときに、友人に「手伝ってほしい」とお願いしていますか。
- 18 ほかにの人に左右されないで、自分の考えで行動していますか。

<小学生>

(1) 学校生活意欲「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」

① 友人との関係（4段階評価）

※質問項目例：「あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりしますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H19	12	3年	9.6	11.0	2年	9.2	9.3	1年	9.6	10.7
	H20	12	4年	9.6	10.4	3年	9.9	10.4	2年	10.8	10.1
	H21	12	5年	10.2	10.8	4年	10.0	9.7	3年	10.2	10.5
	H22	12	6年	9.9	10.6	5年	10.7	10.6	4年	10.8	10.4
	H23	12				6年	10.2	10.7	5年	10.8	11.0
hyper-QU	H24	12						6年	11.2	10.8	

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	12	5年	9.8	10.6									
	H25	12	6年	10.7	10.6	5年	10.4	10.9						
	H26	12				6年	11.0	9.8	5年	10.3	10.6			
	H27	12							6年	10.9	11.1	5年	10.6	11.1
	H28	12										6年	11.5	11.6

② 学習意欲（4段階評価）

※質問項目例：「学校で勉強していて、できなかったことができるようになると、うれしいと思いますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H19	12	3年	9.7	10.3	2年	10.6	9.8	1年	11.2	11.1
	H20	12	4年	9.6	10.8	3年	10.7	9.5	2年	10.8	10.4
	H21	12	5年	9.5	10.3	4年	10.1	10.3	3年	10.5	9.9
	H22	12	6年	9.8	9.9	5年	10.8	10.7	4年	10.5	10.7
	H23	12				6年	10.7	10.6	5年	10.3	10.5
hyper-QU	H24	12						6年	10.2	10.6	

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	12	5年	10.1	10.4									
	H25	12	6年	9.9	10.4	5年	10.6	10.1						
	H26	12				6年	10.8	10.3	5年	10.9	10.7			
	H27	12							6年	10.9	10.7	5年	10.8	10.5
	H28	12										6年	10.3	10.4

③学級の雰囲気（4段階評価）

※質問項目例：「あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H19	12	3年	9.7	10.3	2年	10.2	9.8	1年	10.8	11.2
	H20	12	4年	9.6	10.8	3年	10.4	10.2	2年	11.5	10.9
	H21	12	5年	9.5	10.3	4年	10.1	9.9	3年	10.9	11.4
	H22	12	6年	9.8	9.9	5年	11.1	10.2	4年	10.7	10.2
	H23	12				6年	10.8	11.0	5年	11.0	10.7
hyper-QU	H24	12						6年	11.1	11.3	

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	12	5年	9.9	10.4									
	H25	12	6年	11.1	10.6	5年	10.2	10.1						
	H26	12				6年	10.7	10.7	5年	11.4	11.3			
	H27	12							6年	11.1	11.3	5年	10.8	11.1
	H28	12										6年	11.8	11.6

(2)学級満足度「いごちのよいクラスにするためのアンケート」

①承認得点（4段階評価）

※質問項目例：「あなたは運動や勉強、係活動や委員会活動、しゅみなどでクラスの人からみとめられる（すごいと思われる）ことがありますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H19	24	3年	17.8	19.9	2年	17.0	15.8	1年	18.1	20.8
	H20	24	4年	17.9	20.5	3年	18.6	18.7	2年	19.7	18.5
	H21	24	5年	18.6	20.5	4年	18.6	18.3	3年	19.5	19.7
	H22	24	6年	18.8	20.4	5年	20.2	18.8	4年	19.9	19.8
	H23	24				6年	20.3	19.0	5年	20.8	20.8
hyper-QU	H24	24						6年	20.7	21.5	

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	24	5年	18.6	20.6									
	H25	24	6年	20.2	20.6	5年	20.4	19.9						
	H26	24				6年	19.7	20.6	5年	21.4	20.9			
	H27	24							6年	21.3	21.6	5年	20.2	21.1
	H28	24										6年	22.5	21.9

②被侵害得点（4段階評価）

※質問項目例：「あなたはクラスの人にいやなことを言われたり、からかわれたりして、つらい思いをすることがありますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H19	24	3年	12.3	9.5	2年	12.8	11.2	1年	12.4	11.2
	H20	24	4年	12.2	10.4	3年	10.1	10.5	2年	10.9	10.0
	H21	24	5年	11.3	9.8	4年	9.6	8.6	3年	10.2	9.8
	H22	24	6年	10.6	9.1	5年	9.4	8.3	4年	9.8	9.5
	H23	24				6年	8.7	9.3	5年	10.4	10.2
hyper-QU	H24	24						6年	8.3	8.7	

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	24	5年	11.7	11.2									
	H25	24	6年	9.0	9.4	5年	9.6	10.7						
	H26	24				6年	12.0	9.0	5年	8.5	9.5			
	H27	24							6年	8.5	8.8	5年	9.3	9.7
	H28	24										6年	7.4	7.6

(3) ソーシャルスキル尺度「ふだんの行動をふりかえるアンケート」

①配慮（4段階評価）

※質問項目例：「あなたは友達の気持ちを考えながら話をしていますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	32	5年	26.3	29.6									
	H25	32	6年	27.9	29.1	5年	28.0	29.1						
	H26	32				6年	28.7	30.1	5年	30.1	30.6			
	H27	32							6年	29.1	30.3	5年	29.4	29.0
	H28	32										6年	29.3	30.0

②かわり（4段階評価）

※質問項目例：「あなたはクラスのみんなど同じくらい、話をしていますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	32	5年	25.2	26.3									
	H25	32	6年	25.5	26.6	5年	26.5	24.5						
	H26	32				6年	27.1	27.0	5年	28.8	27.9			
	H27	32							6年	26.8	26.4	5年	27.3	24.4
	H28	32										6年	28.1	25.6

<中学生>

(1) 学校生活意欲「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」

① 友人との関係（5段階評価）

※質問項目例：「学校内には気軽に話せる友人がいるか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子
Q-U	H20	20	1年	17.6	17.2								
	H21	20	2年	17.0	16.4	1年	16.9	17.9					
	H22	20	3年	16.6	16.8	2年	17.2	18.1	1年	18.5	17.9		
	H23	20				3年	17.1	18.5	2年	16.7	17.3	1年	17.4
hyper-QU	H24	20						3年	18.0	18.2	2年	17.3	18.1
	H25	20									3年	16.6	15.1

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	20	1年	17.5	16.9						
	H25	20	2年	17.6	17.3	1年	18.4	17.1			
	H26	20	3年	18.2	18.2	2年	18.4	17.7	1年	17.6	18.8
	H27	20				3年	18.1	18.5	2年	17.4	17.4
	H28	20							3年	17.9	17.7

② 学習意欲（5段階評価）

※質問項目例：「学校の勉強には自分からすすんで取り組んでいるか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子
Q-U	H20	20	1年	14.9	15.5								
	H21	20	2年	13.9	14.0	1年	15.0	15.9					
	H22	20	3年	13.6	14.1	2年	14.6	15.1	1年	15.0	15.4		
	H23	20				3年	14.2	15.8	2年	14.3	14.4	1年	14.5
hyper-QU	H24	20						3年	13.2	15.0	2年	15.0	14.0
	H25	20									3年	14.0	12.4

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	20	1年	15.4	15.7						
	H25	20	2年	14.4	15.6	1年	16.7	16.2			
	H26	20	3年	14.4	16.0	2年	16.6	16.1	1年	15.8	17.6
	H27	20				3年	15.5	16.0	2年	14.6	15.7
	H28	20							3年	14.1	15.0

③教師との関係（5段階評価）

※質問項目例：「学校内には気軽によく話ができる先生がいるか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H20	20	1年	14.6	15.6									
	H21	20	2年	12.8	13.8	1年	13.7	15.1						
	H22	20	3年	12.9	13.7	2年	14.6	16.2	1年	14.2	15.8			
	H23	20				3年	15.0	16.6	2年	15.2	14.2	1年	15.3	15.4
hyper-QU	H24	20							3年	13.2	15.4	2年	15.9	15.1
	H25	20										3年	15.4	15.5

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	20	1年	15.5	13.1						
	H25	20	2年	15.7	13.0	1年	17.0	16.2			
	H26	20	3年	14.6	14.9	2年	16.2	15.8	1年	15.6	16.7
	H27	20				3年	15.0	15.8	2年	15.8	14.0
	H28	20							3年	15.1	14.8

④学級との関係（5段階評価）

※質問項目例：「クラスの中にいると、ほっとしたり、明るい気分になったりする」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H20	20	1年	15.8	15.3									
	H21	20	2年	14.7	14.5	1年	14.9	16.6						
	H22	20	3年	14.5	13.6	2年	15.6	16.2	1年	15.7	16.8			
	H23	20				3年	16.2	17.6	2年	14.7	16.6	1年	16.4	16.3
hyper-QU	H24	20							3年	15.2	16.9	2年	16.7	16.2
	H25	20										3年	16.7	15.6

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	20	1年	15.9	14.8						
	H25	20	2年	15.6	15.3	1年	18.2	17.4			
	H26	20	3年	15.8	15.9	2年	17.4	17.7	1年	17.4	17.8
	H27	20				3年	16.4	17.8	2年	16.6	15.8
	H28	20							3年	16.9	16.6

⑤進路意識（5段階評価）

※質問項目例：「なりたい職業や興味を持っている職業があるか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H20	20	1年	12.4	14.0									
	H21	20	2年	12.3	13.8	1年	12.1	14.5						
	H22	20	3年	13.3	14.7	2年	13.2	15.1	1年	13.9	14.4			
	H23	20				3年	14.6	16.3	2年	12.1	13.9	1年	13.7	13.5
hyper-QU	H24	20							3年	11.9	16.1	2年	14.2	14.8
	H25	20										3年	14.7	15.8

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	20	1年	13.0	13.8						
	H25	20	2年	13.4	13.4	1年	15.6	15.0			
	H26	20	3年	14.5	16.4	2年	15.4	15.5	1年	14.8	15.9
	H27	20				3年	15.6	15.8	2年	13.8	14.8
	H28	20							3年	13.2	14.8

(2)学級満足度「いごちのよいクラスにするためのアンケート」

①承認得点（5段階評価）

※質問項目例：「勉強や運動などで友人から認められていると思いますか。」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H20	50	1年	35.1	32.9									
	H21	50	2年	32.1	31.6	1年	33.2	36.9						
	H22	50	3年	32.4	31.5	2年	34.2	35.9	1年	36.3	34.9			
	H23	50				3年	34.1	37.7	2年	33.0	36.1	1年	32.3	35.1
hyper-QU	H24	50							3年	32.5	37.0	2年	32.8	35.4
	H25	50										3年	34.3	34.2

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	50	1年	34.0	34.2						
	H25	50	2年	35.9	34.9	1年	39.1	37.2			
	H26	50	3年	37.2	36.1	2年	38.6	38.1	1年	37.2	39.3
	H27	50				3年	37.7	38.6	2年	35.4	35.1
	H28	50							3年	36.6	35.6

②被侵害得点（5段階評価）

※質問項目例：「クラスの人から無視されるようなことがあるか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
Q-U	H20	50	1年	21.1	22.4									
	H21	50	2年	20.7	21.5	1年	19.9	16.2						
	H22	50	3年	20.1	19.0	2年	18.5	17.0	1年	18.3	14.7			
	H23	50				3年	19.3	14.7	2年	20.6	15.3	1年	21.5	16.2
hyper-QU	H24	50							3年	20.8	17.0	2年	20.6	18.1
	H25	50										3年	19.0	20.5

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	50	1年	21.0	21.9						
	H25	50	2年	18.1	20.6	1年	16.0	17.0			
	H26	50	3年	18.9	18.4	2年	17.1	18.0	1年	16.2	16.1
	H27	50				3年	18.0	19.1	2年	16.8	19.7
	H28	50							3年	17.9	19.3

(3) ソーシャルスキル尺度「ふだんの行動をふりかえるアンケート」

①配慮（4段階評価）

※質問項目例：「あなたは友達の気持ちを考えながら話をしていますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	36	2年	29.8	31.2	1年	30.5	30.5									
	H25	36	3年	29.7	31.8	2年	30.8	30.9	1年	32.5	32.9						
	H26	36				3年	31.2	32.3	2年	32.4	33.4	1年	30.8	32.7			
	H27	36							3年	31.8	34.0	2年	31.4	31.1	1年	32.1	32.7
	H28	36										3年	32.0	31.4	2年	31.5	31.9

②かわり（4段階評価）

※質問項目例：「あなたはクラスのみみんなと同じくらい、話をしていますか」

	満点	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	学年	男子	女子	
hyper-QU	H24	36	2年	27.2	28.4	1年	26.8	27.5									
	H25	36	3年	26.3	26.8	2年	28.1	27.4	1年	29.8	29.0						
	H26	36				3年	27.6	28.8	2年	29.8	28.7	1年	28.8	30.3			
	H27	36							3年	28.6	28.9	2年	28.6	27.9	1年	30.0	29.2
	H28	36										3年	28.6	27.5	2年	29.5	29.2

④進路に関するアンケート

■仮説③【望ましい進路意識の向上】を検証

■高校1年生・高校2年生を対象に調査

■アンケート内容

I) 進路不安・不決断に関する項目 (11項目)

- 1 いろいろと考えすぎて、自分に合う進学先(職業)が決まらない。
- 2 進学先(将来の職業)を決めることに対して不安がある。
- 3 進学先(将来の職業)を決めることは自分にとって大きい問題なので不安になる。
- 4 どのようにして進学先(職業)を決めればよいのかわからないので不安である。
- 5 進学先(就職先)を決めることのむずかしさを考えると不安になる。
- 6 いろいろなことに興味があるので、どこを進学先にしたら(どの職業を選んだら)よいのかわからない。
- 7 進学(就職)した後での学校(職業)生活のようすが良くわからないので、進路先(将来の職業)が決まらない。
- 8 自分の能力や適性がよくわからないので進学先(将来の職業)が決まらない。
- 9 他の人の意見が色々あるので、自分に合う進学先(職業)を決めることができない。
- 10 進路先を決めるために必要な具体的な情報がないので進学先(将来の職業)が決まらない。
- 11 魅力ある進学先(職業)がいくつもあるので、進学先(将来の職業)を決められない。

II) 進路決定モラトリアムに関する項目 (5項目)

- 1 いままであまり進学(職業)のことを真剣に考えたことがない。
- 2 進学(職業)のことなど考えずに、自分の好きなことに集中していたい。
- 3 進学などせずに(将来、職業につかずに)、自分の好きなことをしていたい。
- 4 将来のことは分からないから、進学先(職業)のことは考えたくない。
- 5 自分のことについても、進学先(職業)のことについても、よくわからないので、進学先(将来の職業)が決まらない。

III) 肯定的自己評価に関する項目 (7項目)

- 1 自分の良い面を伸ばそうとしている。
- 2 自分なりの個性を大切にしている。
- 3 自分の個性を素直に受け入れている。
- 4 努力をおしまずに、自分のできることをしている。
- 5 情熱をもって何かに取り組んでいる。
- 6 自分には良いところも悪いところもあると思う。
- 7 自分の夢をかなえようとする意欲がある。

IV) 自己評価の希求に関する項目 (3項目)

- 1 他の人に比べて、自分の能力はどのくらいあるのか知りたい。
- 2 自分には、責任感があるのかを知りたい。
- 3 自分にあった生き方を、教えて欲しい。

各項目を「よくあてはまる」から「全くあてはまらない」の5件法で回答してもらい、これらに対して、「よくあてはまる」を5点、「全くあてはまらない」を1点とするように得点化した。それぞれの因子の点数は以下ようになる。

- I) 進路不安・不決断に関する項目 (11項目) →55点満点
- II) 進路決定モラトリアムに関する項目 (5項目) →25点満点
- III) 肯定的自己評価に関する項目 (7項目) →35点満点
- IV) 自己評価の希求に関する項目 (3項目) →15点満点

(1)進路意識尺度（数値は低い方が望ましい）（5点法）

因子	進路不安・不決断		進路決定モトリウム	
	高1	高2	高1	高2
H19	3.0	3.0	2.5	2.5
H20	3.2	3.2	2.5	2.5
H21	3.3	3.2	2.5	2.5
H22	2.9	3.1	2.2	2.3
H23	3.3	2.8	2.7	2.1
H24	2.9	3.1	2.2	2.5
H25	3.0	3.0	2.7	2.3
H26	3.3	2.8	2.6	2.3

(2)自己意識尺度（数値は高い方が望ましい）（5点法）

因子	肯定的自己評価		自己評価の希求	
	高1	高2	高1	高2
H19	3.5	3.5	3.5	3.5
H20	3.6	3.7	3.6	3.7
H21	3.6	3.5	3.7	3.6
H22	3.7	3.7	3.6	3.9
H23	3.5	3.7	3.8	3.7
H24	3.8	3.6	3.6	3.8
H25	3.4	3.8	3.5	3.6
H26	3.5	3.8	3.7	3.6

⑤悩み等に関するアンケート

■長崎大学作成質問紙。中学1年生、高校1年生を対象に、学校生活上の不安について質問を行うことで、中1・高1の入学時の不安を明らかにしようとするアンケート。

■仮説②【基本的な生活習慣の確立】を検証。

■アンケート内容

①悩みの内容について

○調査項目について因子分析を行った結果、2つの因子にまとめることができた。

(a) 身体的反応・集中力の低下に関する項目（9項目）

- 1 疲れやすいと感じることがある
- 2 体がだるく感じるがある
- 3 なにもやる気がしなくなるがある
- 4 勉強が手につかなくなるがある
- 5 いらいらするがある
- 6 怒りっぽくなるがある
- 7 むずかしいことを考えることができなくなるがある
- 8 頭が痛くなるがある
- 9 一つのことに集中できないがある

(b) 気分に関する項目（5項目）

- 1 悲しい気分になるがある
- 2 泣きたい気分になるがある
- 3 さみしい気持ちになるがある
- 4 暗い気分になるがある
- 5 誰かに怒りをぶつけたい気分になるがある

各項目を「よくあてはまる」から「全くあてはまらない」の5件法で回答してもらい、これらに対して、「よくあてはまる」を5点、「全くあてはまらない」を1点とするように得点化した。

それぞれの因子の点数は以下ようになる。

- ・身体的反応・集中力の低下に関する項目（9項目）→45点満点
- ・気分に関する項目（5項目）→25点満点

○ストレス反応得点（数値は低い方が望ましい）（5点法）

因子	倦怠感・無気力・苛立ち		気分の落ち込み	
	中1	高1	中1	高1
H19	2.8	3.1	2.4	2.9
H20	3.2	3.3	3.0	2.9
H21	2.9	3.0	2.4	2.7
H22	2.7	2.6	2.6	2.7
H23	3.0	3.3	2.8	2.9
H24	2.7	2.8	2.5	2.3
H25	2.6	3.2	2.3	2.7
H26	2.6	3.2	2.5	3.1

⑥出席状況・問題行動等の発生状況調査

3地区

■ 3地区の全児童生徒について、平成16年度～25年度の「いじめ発生件数」「不登校児童生徒数」「暴力行為発生件数」「退学者数（高校）」の実態を調査。

■ 仮説②【基本的な生活習慣の確立】を検証。

項目	学校	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
いじめ発生（認知）件数 ※国：公立学校1校あたりの発生（認知）件数の全国平均 ※平成17年度までは発生件数、平成18年度からは認知件数	小	0	0	0.75	0	0	0	0	0	0	0
	国	0.2	0.2	2.7	2.2	1.8	1.6	1.7	1.5	5.5	5.7
	中	0.33	0	0.33	0.66	0	0	0	0	0	0
	国	1.3	1.2	4.8	4.1	3.5	3.1	3.4	3.0	6.2	5.5
	高	0.33	0.33	1	1	0	0	0	0.67	2	0.33
	国	0.5	0.5	2.3	1.6	1.1	1.0	1.3	1.1	3.1	2.1
不登校児童生徒数（人） ※年間30日以上（ただし病気やけがによる欠席を除く） ※国：出現率の全国平均を3地区の児童生徒数に乗じて算出 ※高校（ ）内は退学者数	小	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国	1.38	1.38	1.29	1.20	0.99	0.88	0.84	0.77	0.69	0.69
	中	3	9	5	3	2	2	2	2	1	0
	国	10.59	9.60	8.32	7.33	6.73	6.34	5.43	4.20	3.33	3.28
	高	2(3)	2(4)	3(5)	1(2)	1(4)	1(1)	2(2)	1(0)	2(1)	6(1)
	国	7.26(8)	6.26(8)	5.94(8)	4.98(7)	4.57(5)	3.61(4)	3.49(4)	3.28(3)	3.25(3)	2.14(2)
暴力行為発生件数 ※国：公立学校1校あたりの発生件数の全国平均	小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国	0.09	0.10	0.17	0.23	0.29	0.32	0.33	0.33	0.39	0.51
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.33
	国	2.52	2.52	2.89	3.51	4.10	4.23	4.38	3.82	3.76	3.98
	高	0.33	0	0	0.33	0	0	0	0	0	0
	国	1.45	1.48	1.65	1.83	1.90	1.84	1.96	1.78	1.77	1.52

上表は、平成16年度から平成25年度までの調査結果をまとめたものである。

「いじめ発生（認知）件数」及び「暴力行為発生件数」は、1校あたりの発生件数を、また「不登校児童生徒数」は実数を示している。

⑦仮説ごとの取組に対する教師の自己評価

仮説①学習の基礎基本の定着

【宇久地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <p>○教科時間増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1～4 国語 ・小3～4 体育、英語 ・小4～6 社会 ・中1～3 国語、数学、英語 <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→小 英語 ・小→中 英語 ・小→高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術 ・高→小 音楽 ・高→中 国語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 2回（8時間） ・中→高 5回（22時間） <p>出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 図画工作、理科 ・中→高 音楽 ・高→小 音楽、理科、宇久実践（情報） ・高→中 音楽 <p>○学力向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手だて設定と実践 ・家庭学習推進部会を中心とした家庭学習アンケートを1回、家庭学習時間調査を4回実施 	<p>○小学校低学年では、ゆとりを持って、個に応じた指導をすることができるので、算数や国語の基礎基本を定着させることが可能になっている。</p> <p>○国語の漢字・語彙指導、数学の発展学習やドリル反復学習、英語のコミュニケーション学習に力を入れることができ、成果を上げている。</p> <p>○phonics を継続的に行ったことで、文字から単語の読みをある程度推測することができるようになった。</p> <p>○小学校では担任が専門的な方法などを学び、多様な指導ができた。</p> <p>○中学校では免許外教科の解消、高校では選択科目の確保ができた。</p> <p>○地区内の2小学校間の交流が深まり、貴重な実践である。</p> <p>○小学校は中高の先生方の専門的な指導を受ける機会に恵まれ、児童・職員ともにより経験になった。</p> <p>○学力充実検討会で児童生徒の弱点分野を把握することができ、その後の指導に生かすことができた。</p> <p>○家庭学習アンケートでは生徒の家庭での生活状況が把握できた。</p> <p>▲双方の学校行事、出張、外勤のため、乗り入れ授業の確保が難しかった。</p> <p>▲今後、調査結果をその後の指導に生かす取組を充実させていけばさらに成果は上がる。</p>
<p>【平成 22 年度】</p> <p>○教科時間増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1～4 国語 ・小3～4 体育、英語 ・小4～6 社会 ・中1～3 国語、数学、英語 <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→小 英語 ・小→中 英語 ・小→高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術、地歴公民 ・高→小 音楽 ・高→中 国語、英語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 2回（8時間） ・中→高 6回（27時間） <p>出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 図画工作、理科 ・中→高 音楽 ・高→小 音楽、理科、宇久・実践（情報） ・高→中 音楽 <p>○学力向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手だての設定と実践 ・家庭学習推進委員会を中心とした家庭学習アンケートを2回、家庭学習時間調査を5回実施 ・研究授業の充実 ・授業前の朝の時間の有効活用による学力向上の取組 小学校（国語、算数、読書） 中学校（朝自習テスト、朝読書） 高校（早朝補習） 	<p>○小学校低学年では、ゆとりを持って、個に応じた指導をすることができるので、算数や国語の基礎基本を定着させることが可能になっている。</p> <p>○国語の語彙力指導・読解力向上、数学の数量問題や文章問題、英語のコミュニケーション学習・語彙力向上に力を入れることができ、成果を上げている。</p> <p>○英語の授業で phonics を継続的に行ったことで、文字から単語の読みをある程度推測することができるようになった。</p> <p>○中学校では免許外教科の解消、高校では選択科目の確保ができた。</p> <p>○中学校から高校への地歴公民、高校から中学校へ英語の乗り入れ授業を今年度から開始し、生徒の学習意欲を喚起した。</p> <p>○中学校では国語、英語は、前期だけであったが少人数指導を行い、より効果的な指導ができた。</p> <p>○小学校は中高の先生方の専門的な指導を受ける機会に恵まれ、児童・職員ともにより経験になった。</p> <p>○中学校から高校へのつなぎ授業の拡充を図り、学力確認テストを計画して中学3年生の学習意欲の喚起を行った。</p> <p>○中1ギャップ、高1クライシスの解消になっている。</p> <p>○学力充実検討会によって宇久の児童生徒の学力傾向を把握することができ、その後の学習指導に活かすことができた。</p> <p>○国語、英語、算数・数学の3教科を重点科目にしたので小学校の教員をこの3教科会に配属し、教科部会を運営した。小学校の研究授業はすべてこの3教科で実施するなど、教員の重点教科に対する意識が向上した。</p> <p>○宇久地区選定図書、宇久地区英単語集の作成の取組を行ったが、成果が少しずつ表れている。</p> <p>○家庭学習アンケートでは生徒の家庭での生活状況が把握できた。</p> <p>○今年度、授業の質の向上のために研究授業の奨励に努めた。各教科の年間の目標に沿った研究授業を実施して、成果を上げた。</p> <p>○朝の時間の学力向上は各学校で独自に工夫して成果を上げている。特に小学校、中学校では段階的な目標を立てさせ、達成感を持たせて学習意欲を喚起している。</p> <p>▲読書量は増加したが、本の内容に課題が残る。</p> <p>▲双方の学校行事、出張、外勤のため、乗り入れ授業の確保が難しかった。</p>

	<p>▲出前授業は実施校の要請を受けて、実施しているのが現状である。必要性を考慮してより計画的に実施していきたい。</p> <p>▲学習時間調査結果をその後の指導に活かすように取組んだが、不十分であった。</p> <p>▲研究授業を実施したが、他校からの参観者が少なかった。実施時期等工夫したい。</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <p>○教科時間増 ・中 1～3 国語、数学、英語</p> <p>○校種間乗り入れ授業 ・小→小 英語 ・小→中 英語 ・小→高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術、地歴公民 ・高→小 音楽 ・高→中 国語、英語、家庭</p> <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける） ・小→中 2回（8時間） ・中→高 6回（23時間） 出前授業 ・中→小 図画工作、理科 ・中→高 音楽 ・高→小 理科、家庭 ・高→中 音楽</p> <p>○学力向上のための取組 ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手だての設定と実践 ・家庭学習推進委員会を中心とした家庭学習アンケートを1回、家庭学習時間調査を5回実施、そのうち1回は保護者代表2名が参加 ・研究授業の充実 ・授業前の朝の時間の有効活用による学力向上の取組 小学校（国語、算数、読書） 中学校（朝自習テスト、朝読書） 高校（早朝補習）</p>	<p>○中学校では国語の語彙力指導・読解力向上、数学の数量問題や文章問題、英語のコミュニケーション学習・語彙力向上に力を入れることができ、成果を上げている。</p> <p>○中学校では免許外教科の解消、高校では選択科目の確保ができた。</p> <p>○高校から中学校への英語は前期だけであったが、国語は1年間乗り入れ授業を実施した。これまでの乗り入れ授業の授業形態を検証し、国語はTTで、英語は領域別に授業を担当するなど、成果が上がるような授業形態で実施している。</p> <p>○小学校は中高の先生方の専門的な指導を受ける機会に恵まれ、児童・職員ともよい経験になった。</p> <p>○昨年度から中学校から高校へのつなぎ授業の拡充を図り、学力確認テストを実施して中学3年生の学習意欲の喚起を行った。</p> <p>○中1ギャップ、高1クライシスの解消になっている。</p> <p>○国語、英語、算数・数学の3教科を重点科目にしているため、昨年度より小学校の教員をこの3教科会に配属し、教科部会を運営した。小学校の研究授業はすべてこの3教科で実施するなど、教員の重点教科に対する意識が向上した。</p> <p>○昨年度完成した宇久地区英単語集を授業で活用し、英語力の向上に努めたので、成果も少しずつ表れている。</p> <p>○家庭学習推進委員会に小中高に子どもが在籍する保護者2名に参加してもらい意見を伺うことができた。その意見は今後の小中高一貫教育を運営していく上で大変参考になっている。</p> <p>○小中学力充実検討会では会の前に国語の研究授業を実施し、地域代表者3名にも参加していただき意見を伺った。研究授業では指導案を小中高の教科部会で検討するなど授業の充実に向けての取組を実施した。中中学力充実検討会では昨年度の反省を活かし、事前に担当者会議を数回実施して成果が上がるように工夫した。また、会の終了後は各校でアンケートを取るなどして検証し、来年度の方針も決定することができた。</p> <p>○朝の時間の学力向上に向けての取組は各学校で独自に工夫して成果を上げている。特に小学校、中学校では段階的な目標を立てさせ、達成感を持たせて学習意欲を喚起している。算数・数学科では小中高継続した宇久基礎力テストの作成に取り組んでいる。基本事項の定着に有効な手段として期待できる。</p> <p>○今年度より小中高一貫教育として実施する国語、算数・数学、英語の研究授業に関しては指導案作成から小中高一貫教育の教科部会で取り組むようにしたので成果が上がった。また、すべての指導案に「小中高一貫教育の視点」を記入するようにし、小中高一貫教育への意識向上につながった。</p> <p>▲双方の学校行事、出張、外勤のため、乗り入れ授業の確保が難しいことが課題であった。今年度より曜日変更などを実施して授業確保に努めているが、まだ十分ではない。</p> <p>▲昨年度よりも、学力充実検討会は前進したが、まだ成果という面では不十分な面がある。今年度より、検証を十分しているので来年度に活かしたい。</p> <p>▲学習時間調査結果をその後の指導に活かすように取組んだが、不十分であることが昨年度までの課題であった。小中高通信で学習時間調査の結果の分析等を充実させて教職員と保護者へ伝えている。その結果、学習時間が全体的に増加傾向にある。しかし、個人差があることと教科のバランスの悪いことが課題としてあげられる。</p> <p>▲研究授業を実施したが、11月と12月に時期が集中した。事前に実施時期を検討し効果的な実施時期を設定したい。</p>
<p>【平成 24 年度】</p> <p>○校種間乗り入れ授業 ・小→小 英語 ・小→中 英語 ・小→高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術、地歴公民 ・高→小 音楽 ・高→中 国語、英語、家庭</p>	<p>○国語の語彙力指導・読解力向上、算数・数学の数量問題や文章問題、英語のコミュニケーション学習・語彙力向上に力を入れることができ、成果を上げている。</p> <p>○中学校では免許外教科の解消、高校では選択科目の確保ができた。</p> <p>○高校から中学校への英語は前期だけであったが、国語は1年間乗り入れ授業を実施した。これまでの乗り入れ授業の授業形態を検証し、国語はTTで、英語は領域別授業・TT等、成</p>

<p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 2回（8時間） ・中→高 6回（23時間） <p>○出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 図画工作、理科 ・中→高 音楽 ・高→小 理科、家庭 ・高→中 音楽、理科 <p>○学力向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手だての設定と実践。 ・家庭学習推進委員会を中心とした家庭学習アンケートを1回、家庭学習時間調査を5回実施、そのうち1回は保護者代表2名が参加。 ・研究授業の充実 ・授業前の朝の時間の有効活用による学力向上の取組。 <p>小学校（国語、算数、読書） 中学校（朝自習テスト、朝読書） 高校（早朝補習、朝読書）</p>	<p>果が上がるような授業形態で実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校は中高の先生方の専門的な指導を受ける機会に恵まれ、児童にとって次の学校に向けての意欲付けとなった。 ○昨年度より中学校から高校へのつなぎ授業の拡充を図り、学力確認テストを実施して中学3年生の学習意欲の喚起を行った。 ○中1ギャップ、高1クライシスの解消になっている。 ○出前授業は実施校の要請を受けて実施しているが、年度当初に小中高で大まかな計画を立てて、より円滑に実施できるようになった。 ○国語、英語、算数・数学の3教科を重点科目にしているため、昨年度より小学校の全教員をこの3教科会に配属し、教科部会を運営した。小学校の研究授業はすべてこの3教科で実施するなど、教員の重点教科に対する意識が向上した。 ○宇久地区英単語集を改訂し、授業で活用することによって、英語力の向上に努めたので、成果が少しずつ表れている。 ○家庭学習推進委員会に保護者4名に参加してもらい意見を伺うことができた。その意見は今後の小中高一貫教育を運営していく上で大変参考になった。 ○小中学力充実検討会では各校の全国学力・学習状況調査の結果をもとに、児童生徒の学力について話し合った。小中の職員が同じ視点で協議することで、「表現力の向上のための話型の活用」という共通の方向性を導き出すことができた。また、中中学力充実検討会では、事前に担当者会議を数回実施して成果が上がるように工夫した。当日は、事前調査資料をもとに検討したので、会の運営はスムーズであった。 ○朝の時間の学力向上に向けての取組は各学校で独自に工夫して成果を上げている。特に小学校、中学校では段階的な目標を立てさせ、達成感を持たせて学習意欲を喚起している。英語では、宇久地区英単語文例集を小中高と継続して取り組めるように改編しながら活用した。 ○昨年度より小中高一貫教育として実施する国語、算数・数学、英語の研究授業に関しては、指導案作成から小中高一貫教育の教科部会で取り組むようにしたので成果が上がった。また、すべての指導案に「小中高一貫教育の視点」を記入するようにし、小中高一貫教育への意識向上につながった。 ▲双方の学校行事、出張、外勤のため、乗り入れ授業における時数確保の難しさが課題であった。 ▲小中高で共通して取り組む方向性は決めることができたが、今後は、それぞれの学校で、具体的な形で実践を重ねていく必要がある。また、取組の成果を確かめる場が必要である。 ▲学習時間調査結果をその後の指導に活かすように取り組んだ。学習時間は全体的に増加傾向にあるが、個人差があることと、学習内容にまだまだ課題がある。
<p>【平成25年度】</p> <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→小中高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術、音楽、地歴公民 ・高→中 国語、英語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 2回（8時間） ・中→高 4回（13時間） <p>○出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 美術・理科 ・高→小 理科 ・高→中 理科 <p>○学力向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手立ての設定と実践。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習推進委員会を中心とした家庭学習アンケートを1回、家庭学習時間調査を5回実施、推進委員会5回のうち1回は保護者代表が参加。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業前の朝の時間の有効活用による学力向上の取組。 <p>小学校（国語、算数、読書） 中学校（朝自習テスト、朝読書、個別指導） 高校（早朝補習、朝読書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校では免許外教科の解消、高校では選択科目の確保ができた。 ○小学校は中高の先生方の専門的な指導を受ける機会に恵まれ、児童にとって次の学校にむけての意欲付けとなった。 ○つなぎ授業は、中1ギャップ、高1クライシスの解消になっている。本年度より高校入試に学力検査を行うため、例年行っていた3月の学力確認テストは実施しない。 ○出前授業は実施校の要請を受けて実施しているが、年度当初に小中高で大まかな計画を立てて、より円滑に実施できるようになった。 ○小中学力充実検討会では、生徒の学力面の共通する課題「コミュニケーション能力」に焦点を当て、振り返りカードやコミュニケーションレベル表を授業や学級の時間に使ったり、スピーチの工夫をしたりして、小中共に実践した。また、中中学力充実検討会では、GTZを利用しての学力分析を行い、より具体的な情報を共有することができた。 ○家庭学習推進委員会、各校の実態を確認しながら、家庭学習の充実を図った。家庭学習推進委員会に保護者4名の参加を得て、意見を伺うことができた。その意見は今後の小中高一貫教育を運営していく上で大変参考になった。 ○朝の時間の学力向上に向けての取組は、各学校で独自に工夫して成果を上げている。特に小学校、中学校では学級ごとに段階的な目標を立て、達成感を持たせて学習意欲を喚起しながら基礎的な学力（漢字力・計算力・単語力）の育成ができています。 ○小中高それぞれの研究授業が行われる際、他校種の参観者が少なかったため、本年度は積極的な参観を、さらに呼びかけた。 ○具体的な形での実践と成果の確認が課題であったが、本年度

<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の活用（中学校：個別指導） ・長期休業中の学習会（中学校：12日間） 	<p>は共通目標を再設定するとともに、評価の具体的手法を検討し、課題は解消されてきている。</p> <p>▲学習時間や学習内容に個人差がある。本年度、この点について協議を深めることはできたが、今後も継続指導していくべき問題である。</p>
<p>【平成26年度】</p> <p>○教科時間増</p> <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→小中高 英語 ・中→小 算数 ・中→高 美術、音楽、地歴公民 ・高→中 国語、英語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 1回（5時間） ・中→高 4回（13時間） <p>○出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 美術・理科 ・中→小高 音楽 ・高→小 理科 ・高→中 理科・体育 <p>○学力向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学力充実検討会、中中学力充実検討会の実施を踏まえた重点教科における学力向上の手立ての設定と実践 ・授業前の朝の時間の有効活用による学力向上の取組 <ul style="list-style-type: none"> 小学校（国語、算数、読書） 中学校（朝自習テスト、朝読書、個別指導） 高校（早朝補習、朝読書） ・研究授業の充実 ・放課後の活用（中学校：個別指導） ・長期休業中の学習会（中学校：12日間） ・漢検（小中高）・英検（中高）への取組 ・小3からの英語教育 ・リレスクラップ（小中高） 	<p>○知識や技能の習得には、時間増の効果が出ている。</p> <p>○乗り入れ授業における効果として、異校種の児童生徒の実態について具体的に把握できることがあげられる。また、学習規律、授業技術などについて相互理解が深まり、教師としての技能の向上にもつながっている。</p> <p>○出前授業は実施校の要請を受けて実施しているが、年度当初に小中高で大まかな計画を立てて、より円滑に実施できるようになった。</p> <p>○小中学力充実検討会では、算数の提案授業をもとに言語活動の充実のための方策について協議することができた。</p> <p>○中中学力充実検討会では、GTZによる学力分析を行い、より具体的な情報を共有することができた。</p> <p>○朝の時間の学力向上に向けての取組は、各学校で独自に工夫して成果を上げている。特に小学校、中学校では学級ごとに段階的な目標を立て、達成感を持たせて学習意欲を喚起しながら基礎的な学力（漢字力・計算力・単語力）の育成ができていく。</p> <p>○小学校英語科の全国的導入に向け、指導内容を見直し、体系化するとともに、指導案集を作成した。</p> <p>○英語専科、ALTの活用により、授業の充実が図られ、児童生徒の意欲関心を高めている。</p> <p>○昨年度より、他校種における研究授業の参観者が増加した。</p> <p>▲習得した知識や技能を、いかに「活用」させるかは、今後の課題である。</p> <p>▲学習時間は増えたものの、学習内容には個人差がある。今後も継続指導していくべき問題である。</p>
<p>【平成27年度】</p> <p>○教科時間増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校種とも2学期制を採用している。 ・教務が担当し出張や年休による授業の振替を徹底している。 <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語、算数 ・中→高 日本史、美術、音楽 ・高→中 国語、英語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 1回（5時間） ・中→高 2回（13時間） <p>○出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 美術、理科 ・中→小高 音楽 ・高→小 理科 ・高→中 体育 <p>○授業前、朝の時間の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校（国語、算数、読書） ・中学校（自習テスト、朝読書、個別指導） ・高校（早朝補習、朝の読書） <p>○その他、学力向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生からの英語教育の実施 ・中中学力充実検討会の実施 ・小中高教科部会の実施 ・学習と生活の記録（中高） ・小中高研究授業・研究協議の実施 ・長期休業中の学習会の実施（小中高） ・漢検・英検への取組（小中高） ・ICT・遠隔支援システムの活用（高） 	<p>○2学期制の採用と授業の振替により授業時間の確保ができていく。</p> <p>○乗り入れ授業については、専門性の高い授業が展開できている。また、異校種間の学習規律、授業技術などについて相互理解が深まり、教師の技能向上につながっている。</p> <p>○つなぎ授業については、中1ギャップ、高1クライシスの解消とともに早期の生徒理解につながっている。</p> <p>○出前授業の実施により、児童生徒の興味・関心など学習意欲の向上につながっている。</p> <p>○朝の時間の活用は、各校で独自に段階的な目標を立てさせ、達成感を持たせながら学習意欲の向上と基礎学力の定着を図っている。</p> <p>○英語専科とALTの活用により、授業の充実が図られ、児童の意欲関心を高めている。</p> <p>○今年度より研究授業と研究協議は全職員参加を原則としたため協議内容の深化と共通理解が図られた。</p> <p>▲学習の到達度に個人差があり、継続的指導が必要である。</p>
<p>【平成28年度】</p> <p>○教科時間増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校種とも2学期制を採用している。 ・教務が担当し出張や年休による授業の振替を徹底している。 <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語、算数、音楽 ・中→高 英語、日本史、音楽、美術 ・高→中 国語、英語、家庭 <p>○つなぎ授業（進学先の学校で授業を受ける）</p>	<p>○2学期制の採用と授業振替の徹底により授業時間の確保ができていく。</p> <p>○乗り入れ授業については、専門性の高い授業が展開できている。また、異校種間の学習規律、授業技術などについて相互理解が深まり、教師の技能向上につながっている。</p> <p>○つなぎ授業については、中1ギャップ、高1クライシスの解消とともに早期の生徒理解につながっている。</p> <p>○出前授業の実施により、児童生徒の興味・関心など学習意欲の向上につながっている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・小→中 1回(5時間) ・中→高 2回(13時間) ○出前授業 <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 美術、理科 ・中→小高 音楽 ・高→小 理科、体育 ・高→中 体育 ○授業前、朝の時間の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校(国語、算数、読書) ・中学校(自習テスト、朝読書) ・高校(早朝補習、朝の読書) ○その他、学力向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生からの英語教育の実施 ・中高校力充実検討会の実施 ・小中高教科等部会の実施 ・学習と生活の記録(中高) ・小中高研究授業及び研究協議の実施 ・長期休業中の学習会の実施(小中高) ・漢検・英検への取組(小中高) ・ICT、遠隔支援システムの活用(高) ○教育センター出前講座を中心とした研修会等の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの研究(高企画) ・校内研修の活性化(中企画) ・教科(国語)指導法研修(小企画) 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の時間は、小中高で独自に段階的な目標を立てさせ、達成感を持たせながら学習意欲の向上と基礎学力の定着を図っている。 ○小学校では英語専科とALTの活用により、授業の充実が図られ、児童の意欲関心を高めている。 ○朝の時間の有効活用等により基礎学力の定着が図られている。また、中高では英検などの資格取得にも一定の成果が得られている。 ○小中高関連の研究授業と研究協議は全職員参加を原則としている。協議内容の深化と共通理解が図られた。また、各校独自の研究授業は、他校種にも案内し参加を呼びかけている。 ○教育センターの出前講座を受講することにより、アクティブラーニングに関する共通理解が深まり、積極的な取組が見られるようになった。また、校種間、教師間で表現力育成に向けて共通理解が深まり、指導の統一性がはかられた。 ▲学習の到達度に個人差がある。個別指導を継続的にを行い基礎学力の定着を図っている。
---	--

仮説①学習の基礎基本の定着

【奈留地区】

取組	成果(○)と課題(▲)
<p>【平成21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科時間増 <ul style="list-style-type: none"> ・小1～小6 英語 ・中1～中3 英語 ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語、音楽、図工 ・高→小 英語(ALT) ・中→高 日本史、体育、音楽、美術 ・高→中 理科、数学、家庭、体育、英語(ALT) ○家庭学習時間調査の実施(小中高) <ul style="list-style-type: none"> ・小1～高3 ○時程の統一(小中高) ○基礎学力定着度調査(中高) <ul style="list-style-type: none"> ・中3の三学期に実施 ○公開授業の実施(小中高) ○朝読書の実施(小中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科時間数の増は、基礎基本の充実のための時間として有効であった。 ○乗り入れ授業により専門性の高い指導や少人数指導が実施でき、学習に対する意欲の向上と理解の深まりが見られ、基礎基本の充実につながった。小学校では、英会話や図工、音楽の技能面での向上につながった。 ○家庭学習調査により、自分の学習時間を意識することで学習内容の工夫やバランスを考えた取組が見られるようになった。 ○時程の統一により、乗り入れ授業や公開授業の参観や他校種との交流・連携が図りやすくなった。 ○校種を超えて授業を公開し合うことで、それぞれの発達段階に応じた指導の手だてについて研修を深めることができ、それぞれの良さを授業に活かそうとする考えが高まった。 ○朝の読書の継続により、読書への興味が高まった。 ○学力向上の様々な取組の成果が徐々に表れており、基礎学力の向上が見られた。 ▲中学生の学習に対する目標の設定や意欲の向上につなげるためにも高校入学選抜において学力検査を実施することを検討する必要がある。 ▲児童生徒一人一人の学力分析を行い、弱点を強化するための学習を児童生徒・保護者に意識させる必要がある。 ▲日常的な家庭での読書習慣の確立が不十分である。
<p>【平成22年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科時間増 <ul style="list-style-type: none"> ・小1～小6 英語 ・中1～中3 英語 ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 理科、英語、図工、音楽 ・高→小 英語(ALT) ・中→高 美術、音楽、体育、日本史、数学 ・高→中 理科、家庭、体育 ○家庭学習時間調査の実施(小中高) ○時程の統一(小中高) ○基礎学力定着度調査(中高) <ul style="list-style-type: none"> ・中3の三学期に実施 ○研究授業・公開授業の実施(小中高) ○朝読書の実施(小中高) ○中高校力分析会(小中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科の時間増は、基礎基本の定着及び充実に効果があった。 ○乗り入れ授業による、高い専門性の確保、少人数授業の実施、校種間ギャップの解消など、児童生徒の学習意欲の向上、基礎基本の定着などに効果があった。また、小学校の英語活動や図工、音楽の技能面の向上に有効であった。 ○継続的な家庭学習時間調査は、生徒実態の把握はもちろんのこと、経年比較・過年度比較などにより、指導の一助となった。 ○時程の統一により、乗り入れ授業や公開授業、研究授業など、校種間の交流・連携が取りやすくなった。 ○校種の垣根を超えた公開授業・研究授業の参観によって、発達段階に応じた指導の重要性を共有し、指導法及び工夫等を研修する機会となった。 ○朝の読書の実施により、読書への興味関心が高まった。 ○学力分析会を一堂に会して実施することにより、現状把握に限らず、それぞれの校種の重要性や課題なども共有することができた。 ▲中学生の学習に対する目標の設定や意欲の向上につなげるためにも高校入学選抜において学力検査を実施することを検討する必要がある。

	<p>▲児童生徒一人一人に見合った学習法や家庭学習のあり方を児童生徒及び保護者に指導・示唆することができなかった。</p> <p>▲家庭での読書習慣の定着が十分ではなかった。</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <p>○教科時間増 ・小1～小6 英語 ・中1～中3 英語</p> <p>○校種間乗り入れ授業 ・小→中 体育 ・中→小 英語、理科、音楽、図工 ・中→高 音楽、美術、体育、数学 ・高→中 国語、理科、家庭、体育</p> <p>○家庭学習時間調査の実施（小中高）</p> <p>○時程の統一（小中高）</p> <p>○基礎学力定着度調査（中高） ・中3の三学期（3月）に実施</p> <p>○研究授業・公開授業の実施（小中高）</p> <p>○朝の読書の実施（小中高）</p> <p>○DS（任天堂）を使用した英語学習（小5～中3）</p>	<p>○時間数増は、基礎基本の定着及び発展に有効であった。</p> <p>○乗り入れ授業は、高い専門性の確保や少人数授業の実施、校種間ギャップの解消など、児童生徒の学習意欲の向上に有効であった。また、小学校の英語活動や図工、音楽などの技術面の向上に効果があった。</p> <p>○継続的な家庭学習時間調査の実施は、児童生徒の実態及び問題点の把握、経年比較・過年度比較等により、指導の一助となった。</p> <p>○時程の統一により、乗り入れ授業や研究授業及び公開授業、合同会議の開催など、校種間の交流及び連携が円滑に行われるようになった。</p> <p>○校種を超えた研究授業・公開授業の参観によって、発達段階に応じた指導及び工夫の研修の場となった。また、他校種の教育活動を理解する有効な機会にもなった。</p> <p>○朝の読書の実施により、読書への興味関心が高まった。</p> <p>▲中3生に基礎学力定着度調査など、高校入試での学力検査を補う指導を行っているが、高い学習意欲を維持及び意識させるような手立てが十分にはできていない。</p> <p>▲児童生徒一人一人に見合った学習法や家庭学習の在り方を児童生徒及び保護者に対して指導・示唆することが十分ではなかった。</p> <p>▲児童生徒の学習に対する自主性の育成や保護者の意識改革が不十分である。</p>
<p>【平成 24 年度】</p> <p>○校種間乗り入れ授業 ・小→中 体育 ・中→小 英語、音楽 ・中→高 音楽、体育、数学 ・高→小 英語（ALT） ・高→中 国語、理科、家庭、体育、英語（ALT）</p> <p>○家庭学習時間調査の実施（小中高）</p> <p>○時程の統一（小中高）</p> <p>○基礎学力定着度調査（中高） ・中3の三学期（3月）に実施</p> <p>○研究授業・公開授業の実施（小中高）</p> <p>○朝の読書の実施（小中高）</p> <p>○英語教育研究発表会に向けての取組（小中） ・DS（任天堂）を使用した英語学習（小5～中3） ・イングリッシュデーの設定（小中）</p> <p>○中高合同教科会の実施 ・国語、英語、数学の教科会の実施（週1）</p>	<p>○乗り入れ授業は、高い専門性の確保や少人数授業の実施、校種間ギャップの解消など、児童生徒の学習意欲の向上に有効であった。また、小学校の英語活動や音楽などの技能の向上に効果があった。</p> <p>○継続的な家庭学習時間調査の実施は、児童生徒の実態及び問題点の把握、経年比較・過年度比較等により、指導の一助となった。</p> <p>○調査結果を通知表に記載する（高校）ことにより、保護者の意識の高揚を図った。</p> <p>○時程の統一により、乗り入れ授業や研究授業及び公開授業、合同会議の開催など、校種間の交流及び連携が円滑に行われた。</p> <p>○基礎学力定着度調査は、教科指導における到達目標（中学校）及び到達度資料（高校）として大きな意味を持っている。他の2地区と共通問題で実施しているため、相対的に評価でき、指導の参考になった。</p> <p>○校種を超えた研究授業・公開授業の参観により、他校種の教育活動を理解し、発達段階に応じた指導法について研鑽を積み、有意義な機会を得られた。</p> <p>○朝の読書の実施により、読書への興味関心が高まった。</p> <p>○五島市教育委員会より委託された「英語教育研究」発表会において、小中連携による英語活動の実践成果を発表し、高い評価が得られた。</p> <p>○日々の授業改善や「英語タイム」の効果的な活用により、英語学習への積極性が高まり、英語のコミュニケーション力を支える基礎学力が向上した。</p> <p>○定期的に教科会を持つことにより交流が深まり、有意義な研修の場と時間を共有できた。生徒の情報交換や教科指導法・作問研究などを通じて教師の指導力向上と生徒の学力向上を目指すことができた。</p> <p>▲基礎知識や語彙力・計算力等の基礎学力に関して、他地区と比べて定着が不十分であるので、学習意欲を喚起するために、一つの到達目標として高校入試において学力検査を実施することを検討する必要がある。</p> <p>▲少人数制を活かして児童生徒一人一人に目を向け、学習法や家庭学習のあり方をきめ細かく指導しているが、低学年での家庭学習の習慣付け、高学年での自主的な取組及び保護者の意識改革に関して、指導・改善すべき点が多い。</p>
<p>【平成 25 年度】</p> <p>○校種間乗り入れ授業 ・中→小 英語、音楽 ・中→高 音楽、体育、数学 ・高→小 英語（ALT） ・高→中 国語、家庭、保健体育、英語（ALT）</p> <p>○家庭学習時間調査の実施（小中高）</p>	<p>○乗り入れ授業は、高い専門性の確保や少人数授業の実施、校種間ギャップの解消など、児童生徒の学習意欲の向上に有効であった。また、小学校の英語活動や音楽などの技能の向上に効果があった。</p> <p>○継続的な家庭学習時間調査の実施は、児童生徒の実態及び問題点の把握、経年比較・過年度比較等により、学習指導のみならず、生活指導においても有益であった。</p>

<p>○時程の統一（小中高）</p> <p>○研究授業・公開授業の実施（小中高）</p> <p>○朝の読書の実施（小中高）</p> <p>○英語力向上に向けた取組（小中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DS（任天堂）を使用した英語学習（小5～中3） ・イングリッシュデーの設定（小中） ・英語タイム、英語集会の充実 <p>○中高合同教科会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、英語、数学の教科会の実施（週1） <p>○高校入試における学力検査の導入（中高）</p>	<p>○調査結果を通知表に記載し、保護者と情報の共有を図ることにより、生徒の意識の高揚を図った。</p> <p>○時程の統一により、乗り入れ授業や研究・公開授業、合同会議・教科会の開催等、校種間の交流及び連携を円滑に行うことができた。</p> <p>○校種を超えた、日常的な研究授業・公開授業の参観により、他校種の教育活動を理解し、発達段階に応じた指導法について研鑽を積むことができた。</p> <p>○朝の読書の実施により、読書への興味・関心が維持できた。</p> <p>○小中においては、平成22年度から3年間の指定を受けて取り組んだ「英語教育研究」の活動が定着し、小中連携による英語教育を計画的かつ系統的に実践できた。</p> <p>○日々の授業改善や「英語タイム」、「英語集会」の効果的な活用により、英語学習への積極性が高まり、コミュニケーション力を支える英語の基礎学力が向上した。</p> <p>○定期的な教科会の開催により、交流が深まり、有意義な研修の場と時間を共有できた。生徒の情報交換や教科指導法・質問研究などを通じて、教師の指導力向上と生徒の学力向上を目指した。</p> <p>○来年度の高校入試において学力検査を導入することになり、新たな学習到達目標を提示することになった。学習意欲の喚起と基礎知識や基礎学力のさらなる定着が望まれる。</p> <p>▲児童生徒一人一人に目を向けた手厚い指導により、学習効果が上がっているが、家庭学習の習慣付けや自発的な学習姿勢を育むまでには至っていない。他からの直接的な刺激がほとんど期待できない環境の中で、保護者・地域を巻き込んだ学習支援体制を構築する必要がある。</p>
<p>【平成26年度】</p> <p>○教科時間増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張の際など授業の振り替え・代講などの徹底（小中高） ・ 考査最終日に、授業を実施（高） <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語、音楽 ・中→高 数学、音楽、体育 ・高→小 英語（ALT） ・高→中 英語（ALT）、理科、家庭、体育 <p>○家庭学習法講演会の実施（中高）</p> <p>○家庭学習時間調査の実施（小中高）</p> <p>○時程の統一（小中高）</p> <p>○研究授業・公開授業の実施（小中高）</p> <p>○遠隔授業の試行（高）</p> <p>○早朝読書の実施（小中高）</p> <p>○小中高合同教科会の実施（小中高）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、英語、数学（算数）で実施 <p>○英語力の向上に向けた取り組み（小中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任天堂DSを活用した学習（小5～中3） ・英語タイム・英語集会の充実 <p>○高校入試における学力検査の実施（中高）</p> <p>○中学生に対する夏休み期間中の学習スペースとしての高校開放（中高）</p>	<p>○自習を減らすことができた。教務間で連絡を取り合い、乗り入れ授業でも同様の対応ができていた。考査最終日に授業を3～4コマ実施することで、年18時間程度授業が確保できた。</p> <p>○乗り入れ授業は高い専門性のある授業の確保や、免外授業の減少のみならず、中1・高1ギャップの減少や、中高における新入生の状況把握に役立った。</p> <p>○外部講師を招聘し、家庭学習を中心とした学習方法についての講演会を行った。高校に加え中学校の生徒（2年）及び教員も参加し、参考になった。</p> <p>○家庭学習量を把握し、的確な状況分析を行うことで、それに適した指導計画の立案に役立った。</p> <p>○時程を統一することにより、合同で行事等を行う際に利点が多い。乗り入れ授業の絡む時間割変更にも貢献した。</p> <p>○校種を超えて授業を見学することにより、授業内容や生徒の状況に関する理解が進んだ。</p> <p>○将来本格的な実施が予想される遠隔授業に取り組み、そのノウハウの蓄積に努めることができた。</p> <p>○遠隔システムに関する理解が進んできた。教育センターからの講座視聴は大いに役立った。</p> <p>○朝の読書は、読書量の確保および朝の教室の雰囲気作りに役立った。</p> <p>○定期的な教科会の実施で、教科指導の情報交換及び研修の時間が確保された。生徒の情報交換も行うことができ、教師の指導力、生徒の学力ともに向上させることができた。</p> <p>○小中連携による英語力向上が図られた。機器の利用で児童生徒の取り組みもよい。また、ALTの指導により豊かな言語活動ができた。</p> <p>○高校入試で学力検査を実施することが学習に対する意識付けとなり、特に中学3年生の学習への緊張感が高まり、学習の質も向上した。</p> <p>▲遠隔システムの機器が安定していないことと、通信速度が離島では確保できていないという問題がある。</p> <p>▲高校の図書館を中学生向けの自主学習スペースとして開放したが、高校の広報不足でほとんど利用がなかった。</p>
<p>【平成27年度】</p> <p>○教科時間増・出張・年休の際などは授業の振り替え・代講（代教）などの徹底（小中高）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考査最終日に、授業を実施（高） ・ 考査日にも授業を実施（中） <p>○校種間乗り入れ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語、音楽、社会（TT） ・中→高 数学、音楽、体育 ・高→小 英語（ALT） ・高→中 英語（ALT）、理科、家庭、体育 	<p>○自習を減らすことができた。（小中は0を達成）小中高の教務間で連絡を取り合い、乗り入れ授業でも同様に対応ができた。高校では考査最終日に授業を3～4コマ実施することで、年18時間程度授業が確保できた。中学でも大幅に授業を補うことができた。</p> <p>○乗り入れ授業は、それぞれの校種で専門性の高い教師を補充することで、授業の専門性の確保や、免外授業の減少が実現できた。また、小学校の完全複式授業化に対し、TTで二人の教師が授業に関わることを実現した。</p> <p>○家庭学習量を把握し、的確な状況分析とそれに適した指導計</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間調査の実施（小中高） ○時程の統一（小中高） ○研究授業・公開授業の実施（小中高） ○遠隔授業の実施（高） ○早朝読書の実施（小中高） ○小中高合同教科会の実施（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・国語、英語、数学（算数）で実施 ○英語力の向上に向けた取組（小中） <ul style="list-style-type: none"> ・任天堂DSを活用した学習（小5～中3） ・英語タイム・英語集会の充実 ・小1～4英語活動を実施 ・小5・6英語授業を実施 ○高校入試における学力検査の実施（中高） ○小学校の野外実習に高校から講師として参加 	<p>画の立案に役立った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時程を統一することにより、合同で行事等を行う際に利点が多い。乗り入れ授業の絡む時間割変更にも貢献した。 ○校種を超えて授業を参観することにより、授業内容や生徒の状況に関する理解が進み、校種間の教科指導のつなぎに役立った。 ○将来本格的な導入が予想される遠隔授業に取り組み、そのノウハウの蓄積に努めることができた。 ○指導案の統一書式を設定し、一貫性を持たせることができた。 ○遠隔システムに関する理解が進んできた。教育センターからの授業を生徒が受講したりと、授業研究が進んだ。 ○読書量の確保および朝の教室の雰囲気作りに役立った。 ○定期的な教科会の実施で、教科指導の情報交換及び研修の時間が確保された。生徒の情報交換も行うことができ、教師の指導力・生徒の学力ともに向上させることができた。 ○言語活動を重視したアクティブラーニングに取り組むことができ、英語力向上が図られた。機器の利用で児童生徒の取り組みもよかった。 ○中学校ではT1・T2・ALTの3人体制で授業を行い、効果を上げた。 ○小学校5・6年生では中学校の英語科とALTが授業を行い、効果を上げた。 ○小学校の英語活動にもALTが入り、豊かな言語活動が実践された。 ○学力検査を実施することが学習に対する意識付けとなり、特に中学3年生の学習への緊張感が高まり、学習の質も向上した。 ○小学校における野外実習に、高校から講師として参加することで、専門性の確保と安全指導を強化することができた。 ▲遠隔システムの機器が安定していないことと、通信速度が離島では確保できていないという問題がある。小中学校では活用できていない。 ▲遠隔システムのソフトの更新ができていない。
<p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科時間増 <ul style="list-style-type: none"> ・出張、年休の際の授業振替、授業代講の徹底（小中高） ・考査最終日に授業を実施（高） ・考査日に授業を実施（中） ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・中→小 英語 音楽 理科 ・中→高 音楽 体育（T2） 数学 ・高→小 英語（ALT） ・高→中 家庭 体育（T2） 英語（ALT） ○時制の工夫・小中高教務主任会（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・時制の統一 ・週案の交換と合同行事ごとの日程打合せ ○家庭学習時間調査の実施（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施 ○学力向上プランの作成（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・学力傾向分析 ○研究授業・公開授業の実施（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点の統一 ・授業参観シートの活用 ○遠隔授業の実施（高） <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターからの授業配信 ○早朝読書の実施（小中高） ○英語力の向上に向けた取組（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ・英検、G-TECの積極的受験（中高） ・奈留検定（小中…単語 高…構文） ・任天堂DSを活用した学習（小5～中3） ・英語タイム、英語集会の充実（小中） ・小1～4英語活動を実施 ・小5・6英語の授業を実施 ○高校入試での学力検査の実施（中高） ○中高合同教科会実施（中高） <ul style="list-style-type: none"> ・国語、英語、数学の教科会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教務間で連絡を取り合い、授業時間の振替がスムーズに行えた。 ○乗り入れ授業によって、専門性の高い授業が展開された。また、児童生徒のつまずきに気付き、対応がしやすくなった。 ○頻繁に教務主任が連絡を取り合えることで、合同行事だけでなく、毎日の授業が円滑に行えた。 ○家庭学習時間調査実施により児童生徒への意識付けができた。 ○12年間を一枚にまとめた「学力向上プラン」が作成でき、より小中高を見通した指導の重要性を意識できた。 ○小中の保護者に「学力向上プラン」を配布したことで、保護者にも小中高を通しての現状を理解してもらえた。 ○他校種の授業を見ることで、児童生徒の理解や授業改善が進んだ。 ○共通の観点（わかる・つながる・えがく）を持つことで、児童生徒への教員の働きかけが明確になった。 ○授業者が授業経験の少ない科目に対して、教育センターから授業を配信してもらうことで、授業の組み立ての参考になった。 ○生徒に英語への抵抗感がなく、英語を将来に向けて活用できるようになりたいという意欲が生まれた。 ○学力検査を行うことで、学習の意識付けになった。 ○意見交換を授業に反映することができた。 ▲時制の関係で、授業が午前中にかたまったり、授業変更が難しかったりする。 ▲教員数が少なく、出張での授業変更が多い場合、乗り入れ授業の調整が大変だ。 ▲中学校と高校で評価される英語力の違いからか、高校での成績が伸びていない生徒がおり、中高のつながりについて研究が必要だ。

仮説①学習の基礎基本の定着

【小値賀地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業の実施（小中高） ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 現代社会、体育女子（ダンス）、美術 ・高→小 家庭、体育（水泳：出前授業） ・高→中 英語、数学 ※小6・中1：合同教科（国語、算数・数学） ○帯タイムの実施（小中高） ○家庭学習強化週間の設定・実施（小中） ○早朝・長期休業中（夏・冬期）に特別学習（補習）及び学習会の実施（高） ○詩や言葉・文の暗唱指導（級・段制）の実施（小） ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励（中高） ※中はマイスター制度として実施 ○プレ入試の実施（中3年生が対象 高校入試1週間程前 過去の高校入試問題レベル 5教科）（中） ○公開授業ウィークスの実施（小中高） ・目的：①地区推進部会（特に、教科部会）の活性化 ②12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり ・期間：11月4日～11月20日 ・教科：9教科11授業 ※算数数学部会は長崎大学の教育支援事業を活用 ・県教育センター：国語（出前授業）の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされた。 ○小6・中1の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことができた。さらに、学力向上への意識付けにつながった。 ○帯タイムの算数・数学では、計算トレーニングにより、スピード及び正確さが向上してきた。 ○各種検定試験の取組が学習の基礎基本の定着に役立った。 ○公開授業ウィークスにおける12年間の系統性を意識した取組により、教科についての話し合いが深められ、授業力の向上につながった。 ○各学校の教務部が時間割調整等を頻繁に行い、事務的課題が解消された。 ▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。 ▲人事異動後に乗り入れ授業担当者が決定されるため、カリキュラムに反映させることが難しい場合がある。
<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業（小中高） ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 現代社会、美術、保健体育女子（ダンス）、情報 ・高→小：英語活動 ・高→中：英語、家庭、数学（※つなぎ授業） ※小6・中1：合同教科（国語、算数・数学） ○帯タイムの実施（小中高） ○家庭学習強化週間の設定・実施（小中） ○休業中の勉強会 ・夏季休業中に夏の勉強会の実施（小） ・早朝・長期休業中（夏・冬期）に特別学習（補習）及び学習会の実施（高） ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施（小） ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励（中高） ※中はマイスター制度として実施 ○プレ入試の実施（中3年生が対象 高校入試1週間程前 過去の高校入試問題レベル 5教科）（中） ○公開・研究授業ウィークス（小中高） ・目的：①地区推進部会（教科部会）の活性化 ②12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり ・時期：6月及び11月 ・教科：9教科18授業 ※算数数学部会は長崎大学の教育支援事業を活用 ○中学校3年生学力確認テストの実施 ・目的：①高校入学段階での学力を把握し学習への指針を持つ。 ②高校入学前の学習への意識付けとする。 ・期日：平成23年3月17日（木）・18日（金） ・場所：高校 ・教科：国語、社会、数学、理科、英語 ・内容：入学者選抜の学力検査に準ずる程度の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされた。 ○小6・中1の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことができ、学力向上への意識付けにつながった。また、小中のシステムの違いを克服することができるようになってきた。 ○各学校の教務部が時間割調整等を頻繁に行い、事務的課題が解消された。 ○帯タイムの算数・数学では、計算トレーニングにより、スピード及び正確さが向上してきた。 ○各種検定試験の取組が学習の基礎基本の定着に役立った。 ○公開・研究授業ウィークスにおける12年間の系統性を意識した取組により、教科についての話し合いが深められ、授業力の向上につながった。 ▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。 ▲人事異動後に乗り入れ授業担当者が決定されるため、カリキュラムに反映させることが難しい場合がある。 ▲乗り入れ授業等を保護者にも積極的に参観してもらい、その効果を広く伝える必要がある。
<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 現代社会、美術、保健体育女子、情報 ・高→小 英語活動（ALT） 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされた。 ○各学校の教務部が時間割調整等を頻繁に行い、事務的課題が解消された。

<ul style="list-style-type: none"> ・高→中 家庭 ○つなぎ授業 英語、数学 ○合同教科 小6・中1 (国語、算数・数学) ○帯タイムの実施 (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ※高校は、今年度から考査1週間前～考査期間中に朝の SHR 前の 30 分を基礎演習として取り組んでいる。 ○家庭学習強化週間の設定・実施 (小中) ○休業中の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に夏の勉強会の実施 (小中) ・早朝・長期休業中 (夏・冬季) に特別学習 (補習) 及び学習会の実施 (高) ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施 (小) ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励 (中高) <ul style="list-style-type: none"> ※中はマイスター制度として実施 ○プレ入試の実施 (中3年生が対象 過去の高校入試問題レベル 5教科) (中) ○公開・研究授業ウィークス (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ・目的: ①地区推進部会 (教科部会) の活性化 <li style="padding-left: 40px;">②12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり ・時期: 6月及び11月 ・教科: 8教科19授業 <li style="padding-left: 20px;">※算数数学部会は長崎大学の教育支援事業を活用 ○高校合格者学力確認テストの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・目的: ①高校入学段階での学力を把握し学習への指針を持つ。 <li style="padding-left: 40px;">②高校入学前の学習への意識付けとする。 ・期日: 平成24年3月19日 (月)・21日 (水) ・場所: 高校 ・教科: 国語、社会、数学、理科、英語 ・内容: 入学者選抜の学力検査に準ずる程度の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○小6・中1の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことができ、学力向上への意識付けにつながった。また、小中のシステムの違いを克服することができるようになってきた。 ○帯タイムの算数・数学では、計算トレーニングにより、スピード及び正確さが向上してきた。 ○各種検定試験の取組が学習の基礎基本の定着に役立った。 ○公開・研究授業ウィークスにおける12年間の系統性を意識した取組により、教科についての話し合いが深められ、授業力の向上につながった。 <p>▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。</p> <p>▲乗り入れ授業等を保護者にも積極的に参観してもらい、その効果を広く伝える必要がある。</p> <p>▲現在の連携型高校入試の方法の見直し、学力検査を課す入試の必要性を感じる。</p>
<p>【平成24年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 現代社会、美術、保健体育女子、情報 ・高→小 英語活動 (ALT) ・高→中 家庭 ○つなぎ授業: 英語、数学 ○合同教科 小6・中1: (国語、算数・数学) ○帯タイムの実施 (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ※高校は、昨年度から考査1週間前～考査期間中に朝の SHR 前の 30 分を基礎演習として取り組んでいる。 ○家庭学習強化週間の設定・実施 (小中) ○休業中の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に夏の勉強会の実施 (小中) ・早朝・長期休業中 (夏・冬季) に特別学習 (補習) 及び学習会の実施 (高) ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施 (小) ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励 (中高) <ul style="list-style-type: none"> ※中はマイスター制度として実施 ○プレ入試の実施 (中3年生が対象 過去の高校入試問題レベル 5教科) (中) ○研究授業ウィークス (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ・目的: ①地区推進部会 (教科部会) の活性化 <li style="padding-left: 40px;">②12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり ・時期: 6月 ・教科: 8教科13授業 <li style="padding-left: 20px;">※算数数学部会は長崎大学の教育支援事業を活用 ○高校合格者学力確認テストの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・目的: ①高校入学段階での学力を把握し学習への指針を持つ。 <li style="padding-left: 40px;">②高校入学前の学習への意識付けとする。 ・期日: 平成24年3月19日 (火)・21日 (木) ・場所: 高校 ・教科: 国語、社会、数学、理科、英語 ・内容: 入学者選抜の学力検査に準ずる程度の問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされた。 ○小6・中1の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことができ、学力向上への意識付けにつながった。また、小中のシステムの違いを克服することができるようになってきた。 ○帯タイムの算数・数学では、計算トレーニングにより、スピード及び正確さが向上してきた。 ○各種検定試験の取組が学習の基礎基本の定着に役立った。 ○研究授業ウィークスでは、本時の題材が小中高の系統性においてどこに位置づけられるのかを明確にすることにより、教科についての話し合いが深められ授業力の向上につながった。 ○各学校の教務部が時間割調整等を頻繁に行い、事務的課題が解消された。 <p>▲乗り入れ授業等を保護者にも積極的に参観してもらい、その効果を広く伝える必要がある。</p> <p>▲今後、職員数の減少に伴い、校種間の乗り入れ授業が困難になることが予想される。</p> <p>▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。</p> <p>▲中1ギャップ、高1クライシスを乗り越える生徒の精神力の育成も必要である。「ギャップ」を「ステップ」にするための研究が必要である。</p>

<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 美術、保健体育 ・高→小 英語活動 (ALT) ・高→中 家庭 ○つなぎ授業 中 3 (英語、数学) ○合同教科 小 6・中 1 (国語、算数・数学) ○帯タイムの実施 (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ※小学校は、国語・算数・暗唱の基礎的な課題を、毎日 15 分間、繰り返し取り組む。 ※中学校は、国・数・英・読み書きの基礎演習を、毎日 15 分間、繰り返し取り組む。 ※高校は、考査 1 週間前～考査期間中に朝の SHR 前の 30 分を (西高朝学タイム) 基礎演習として取り組んでいる。 ○家庭学習強化週間の設定・実施 (小) ○自主学習ノート「レインボーノート」の活用による家庭学習の取組 (中) ○休業中の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に夏の勉強会の実施 (小中) ・早朝・長期休業中 (夏・冬季) に特別学習 (補習) 及び学習会の実施 (高) ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施 (小) ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励 (中高) <ul style="list-style-type: none"> ※中は「マイスター制度」として実施 ○ブレ入試の実施 (中 3 年生が対象、過去の高校入試問題レベル 5 教科) ○①公開授業・②研究授業ウィークス (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ・目的: (1) 地区推進部会 (教科部会) の活性化 (2) 12 年間を見通し、系統性を意識した授業づくり ・時期: ① 6 月、② 10 月 ・教科: ① 8 教科 13 授業、② 8 教科 11 授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされ生徒の学びに対する動機付けの一つになった。 ○中 3、3 学期での高校教員によるつなぎ授業で、高校への進学ギャップが狭まった。 ○小 6・中 1 の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことができ、学力向上への意識付けにつながった。 ○帯タイムの算数・数学では、計算トレーニングにより、スピード及び正確さが向上してきた。 ○帯タイムの内容を基礎基本と応用とに分けて取り組むことにより、時間を有効に活用しようという意識付けができた。 ○帯タイムに各種検定試験演習問題を取り入れることで、一層、基礎基本の定着化が図られた。(中) ○家庭学習強化週間を定期的に設定することにより、児童だけでなく保護者に対しても家庭学習の大切さを啓発することができた。学習の内容も自主的な工夫が見られるようになった。(小) ○プリントを中心とした家庭学習から、学習ノートを中心とした家庭学習に切り替えるよう指導した。このことにより、学習量が増えると同時に工夫して自主学習に取り組む生徒が増えてきた。(中) ○児童が「暗唱」の学習に意欲的に取り組む姿が見られ、低学年でも、長い文章を覚えることができている。また、認定証を発行することにより、達成感を味わわせることができた。 ○各種検定試験の取組が学習の基礎基本の定着に役立った。 ○マイスター制度により、一人一人が自らの学力に応じて、目標を持って課題に取り組む姿が見られた。 ○研究授業ウィークスでは、教科ごとに設定したテーマに関連した授業研究を行うことで、小中高の系統性や本地区の児童生徒の課題などが明確になった。また、教科についての話し合いが深められ、個々の教師の授業力の向上につながった。 ○各学校の教務部が時間割調整等を頻繁に行い、事務的課題が解消された。 ▲乗り入れ授業等を保護者にも積極的に参観してもらい、その効果を広く伝える必要がある。 ▲今年度、職員数の減少に伴い、校種間の乗り入れ授業が一部縮小された。今後も、この傾向が続くと予想される。 ▲本地区の実態として資料活用能力や数学的な思考力について、継続した指導の必要性を感じる。 ▲家庭学習に対する意識は高まってきているが、取組の内容に個人差があるため、今後も保護者と協力しながら充実した内容になるよう指導していかねばならない。 ▲研究授業ウィークスをさらに保護者・地域に知ってもらい、授業参観など関心を高める必要がある。 ▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 美術、保健体育 ・高→小 英語活動 (ALT) ・高→中 家庭 ○つなぎ授業: 中 3 (英語、数学) ○合同教科 小 6・中 1: (国語、算数・数学) ○帯タイムの実施 (小中高) <ul style="list-style-type: none"> ※小学校は、国語・算数・暗唱の基礎的な課題を、毎日 15 分間、繰り返し取り組む。 ※中学校は、国・数・英・読み書きの基礎演習を、毎日 15 分間、繰り返し取り組む。 ※高校は、考査 1 週間前～考査期間中に朝の SHR 前の 30 分を (西高朝学タイム) 基礎演習として取り組む。 ○家庭学習強化週間の設定・実施 (小) ○家庭学習時間調査の実施 (小中高) ○自主学習ノート「レインボーノート」の活用による家庭学習の取組 (中) ○生活手帳の活用 (高) ○休業中の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に夏の勉強会の実施 (小中) 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされ生徒の学びに対する動機付けの一つになった。 ○中 3、3 学期での高校教員によるつなぎ授業で、高校への進学ギャップが狭まった。 ○小 6・中 1 の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことを通して、国語や算数の学習への興味が高まっている。また、中学校の学習への見直しをもつことができる。小・中の教員同士で互いの指導方法のよさを実感し、それぞれの指導に活かすことができている。 ○算数科の内容では、学年の系統性を踏まえて児童一人一人が苦手とするところを重点的に取り組めるような、個に応じた課題を設定した。そのことにより、全体として基礎基本の定着につながっている。高学年においては、全国学力学習状況調査の問題、県学力調査の問題にも取り組むことで、前年度と比較し正答率が向上している。 ○保護者が積極的に家庭学習に係わるようになってきている。自主的な家庭学習の内容を紹介することにより、さらに意欲を高める児童が増えてきている。 ○学習量が増えるとともに工夫して自主学習に取り組む生徒が増えてきた。(中) ○児童が「暗唱」の学習に意欲的に取り組む姿が見られ、低学年でも、長い文章を覚えることができている。また、認定証を発行することにより、達成感を味わわせることができた。 ○各種検定試験の取組、マイスター制度により、一人一人が自

<ul style="list-style-type: none"> ・早朝・長期休業中（夏・冬季）に特別学習（補習）及び学習会の実施（高） ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施（小） ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励（中高） ※中は「マイスター制度」として実施 ○①公開授業・②研究授業ウィークス（小中高） ・目的：(1)12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり (2)地区推進部会（教科部会）の活性化 ・時期：①6月、②10月 ・教科：①9教科10授業、②8教科16授業 	<p>らの学力に応じて、目標を持って課題に取り組む姿が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究授業ウィークスでは、教科ごとに設定したテーマに関連した授業研究を行うことで、小中高の系統性や本地区の児童生徒の課題などが明確になった。また、教科についての話し合いが深められ、個々の教師の授業力の向上につながった。 ▲乗り入れ授業のねらいが、特別支援のためのTTであったり、コース別学習であったり、専門的な指導の導入であったりと教科によって異なっている。担当者との事前の詳細な打ち合わせが必要である。 ▲各種検定試験への合格を目指して、帯タイムの実施計画を時期によって臨機応変に変更していくことも検討していく。（中） ▲家庭学習に対する意識は高まってきているが、取組の内容に個人差があるため、今後も保護者と協力しながら充実した内容になるよう指導していかねばならない。 ▲各学校の対外的行事・出張等のため、調整には限界がある。また、打合せ時間を十分に確保することも必要である。
<p>【平成27年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 数学 ・中→小 音楽 ・中→高 美術、保健体育 ・高→小中 英語活動（ALT） ・高→中 家庭 ○つなぎ授業：中3（英語、数学） ○合同教科 小6・中1：（国語、算数・数学） ○帯タイムの実施（小中高） <ul style="list-style-type: none"> ※小学校は、国語・算数・暗唱の基礎的な課題を、毎日15分間、繰り返し取り組む。 ※中学校は、国・数・英・読み書きの基礎演習を、毎日15分間、繰り返し取り組む。 ※高校は、考査1週間前～考査期間中に朝のSHR前の30分を（西高朝学タイム）基礎演習として取り組む。 ○自主学习ノート「レインボーノート」の活用による家庭学習の取組（中） ○家庭学習強化週間の設定・実施（小） ○家庭学習時間調査の実施（小中高） ○生活手帳の活用（高） ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施（小） ○英検・漢検・数検・ワープロ検定等の各種検定試験への受験奨励（中高） ※中は「マイスター制度」として実施 ○休業中の勉強会 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に夏の勉強会の実施（小中） ・早朝・長期休業中（夏・冬季）に特別学習（補習）及び学習会の実施（高） ○①公開授業・②研究授業ウィークス（小中高） ・目的：(1)12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり (2)地区推進部会（教科部会）の活性化 ・時期：①6月、②10月 ・教科：①8教科13授業、②8教科14授業 ○ICT機器の活用 <ul style="list-style-type: none"> 小中学校へ機器の導入：県立美術館との遠隔授業プログラム（2月予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ○乗り入れ授業における教員の交流により、教員の相互理解及び生徒理解が図られた。また、教員の専門性が活かされ生徒の学びに対する動機付けの一つになっている。 ○中3、3学期での高校教員によるつなぎ授業で、高校への進学ギャップが狭まった。 ○小6・中1の合同教科では、小中の交流が深まり、発展的な課題に取り組むことを通して、国語や算数の学習への興味が高まっている。 ○帯タイムについては、全体として基礎基本の定着につながっている。特に、暗唱は一人一人の子どもが目標をもって取り組むことができ、それが表現力の向上につながっている。（小） ○各種検定試験の合格を目指して、時期によって帯タイムの教科を重点化した。（中） ○自主的な家庭学習の内容を紹介することにより、さらに意欲を高める児童が増えてきている。（小） ○家庭学習の時間が増加傾向にある。（中高） ○「レインボーノート」は3年目に入り、学習方法にも慣れ、習慣化しつつある。（中） ○児童が「暗唱」の学習に意欲的に取り組む姿が見られ、低学年でも、長い文章を覚えることができている。また、学習に集中して取り組む力の育成にもつながっていると考える。認定証の発行も達成感につながった。 ○各種検定やマイスターの取得に向けて、一人一人が自らの学力に応じて、目標を持って課題に取り組む姿が見られた。（中） ○研究授業ウィークスでは、各教科で目指す学力を焦点化し、「わかる授業づくりの工夫」に向けた具体的な手だてを絞り込んで実践にあたった。その結果、各教科が共通の問題意識に立ち、授業方法を共有できる授業研究に一步近づくことができた。 ○遠隔授業システムに対応したカメラ及びマイク・スピーカーを設置し、Skypeを導入した。（小中） ○平成28年2月に県立美術館の遠隔授業プログラムに則った授業実践にこぎつけた。（中） ▲乗り入れ授業のねらいを、TTによる個別支援であったりコース別学習の導入であったりと年度によってその学級等のニーズに応じて変更している。年度当初の担当者間の綿密な打ち合わせだけでなく、年度終了時の成果の検証も必要である。 ▲給食開始により、放課後の行事等に充てる時間が不足したことで、帯タイムカットの日が増加したが、現在は改善する方向で実施している。（中） ▲今後、家庭学習の質のさらなる向上や学習時間の曜日の偏りについて、保護者と連携しながら指導を工夫していかねばならない。 ▲遠隔授業システムの操作に関する十分な技能を有した教職員がいないため、職員間での研修で技術の向上に努めている。（小中）
<p>【平成28年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校種間乗り入れ授業 <ul style="list-style-type: none"> ・小→中 数学 ・中→小 音楽、英語 ※英語活動の乗り入れを新設。外部講師を招いて研修を深めた後に本格的にスタート。 ・中→高 美術、保健体育、公民 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の交流により一人一人の指導力が向上するとともに、児童生徒理解が深まった。 ○中1ギャップが低減された。 ○英語の乗り入れ授業では、事前研修を活かした授業により児童の学習意欲が高まった。 ○合同教科では、交流が深まり、発展的な課題に取り組むこと

<ul style="list-style-type: none"> ・高→小中 英語活動(ALT) ・高→中 家庭(増単位) ○つなぎ授業 ・中3 (英語、数学) ・小6 (数学) ○合同教科 ・小6・中1: (国語、英語) ※昨年度は国語と数学 ○帯タイムの実施 (小中高) ・小学校は、国語・算数・暗唱の基礎的な課題を、毎日15分間、繰り返し取り組む。 ・中学校は、国・数・英・読み書きの基礎演習を、毎日15分間、繰り返し取り組む。 ・高校は、考查1週間前～考查期間中に朝のSHR前の30分を「西高朝学タイム」として基礎演習に取り組んでいる。 ○家庭学習スタイルの確立 ・小中高共通の家庭学習スタイル(宿題+選択学習)を発達段階に応じて設定。自らすすんで学習に取り組めるように、課題を2種類以上準備した。 ・家庭学習強化週間の設定・実施 (小) ・自主学習ノート「レインボーノート」の活用による家庭学習の取組 (中) ・生活手帳の活用 (高) ・家庭学習時間調査の実施 (小中高) ○詩や言葉・文の暗唱指導<級・段制>の実施 (小) ○各種検定試験の受験奨励 ・英検・漢検・数検・ワープロ検定等 (中高) ※中は「マイスター制度」として実施 ※町からの受験料支援 ○休業中の勉強会 ・夏の勉強会、学習会 (小中高) ・早朝・長期休業中の特別学習(補習)(高) ○①公開授業・②研究授業ウィークス (小中高) ・目的: (1)12年間を見通し、系統性を意識した授業づくり (2)地区推進部会(教科部会)の活性化 ・時期: ①6月、②10月 ・教科: ①7教科11授業 ②8教科14授業 ○ICT機器の活用 ・大島分校との遠隔授業 (小) ・電子黒板、タブレットはH29から導入予定。(小中) 	<p>を通して、学習への興味が高まっている。また、中学生がリーダーシップをとりやすい英語に変更したため、さらに積極的に取り組むようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着につながっている。 ○暗唱は各自の目標に応じて取り組むことができ、表現力の向上につながっている。(小) ○帯タイムは全職員で清掃時間または昼休み後に取り組んでいる。国・数・英の少人数指導ができ、基礎基本の定着に役立っている。(小中) ○帯タイムの時間に、漢検・数検・英検対策を行なった。(中) ○自主的な家庭学習内容を紹介することで、さらに意欲を高める児童が増えてきている。(小) ○基礎プリントと発展プリントの区別が指標となり自主学習に取り組み易くなった。 ○「レインボーノート」は4年目に入り、学習方法にも慣れ、習慣化しつつある。(中) ○内容や量について手本となる生徒を表彰している。生徒のやる気にもつながっている。 ○暗唱では意欲的に取り組む姿が見られ、低学年でも長い文章を覚えることができてきている。また、集中力の育成にもつながっていると考える。 ○認定証の発行も達成感につながった。 ○時期によって帯タイムの教科を重点化した。(中) ○各種検定やマイスターの取得に向けて、一人一人が自らの学力に応じて、目標を持って意欲的に取り組む姿が見られた。(中) ○長期休業中の家庭学習の進捗状況を教員が把握でき、課題の提出期日を守らせることにつながっている。 ○研究授業ウィークスでは、目指す学力を焦点化して「わかる授業づくりの工夫」に向けた具体的な手だてを絞り込んだ実践を行った。各教科が共通の問題意識に立って授業方法を共有できる授業研究に一步近づくことができた。 ○理科の小6中1高1の合同研究授業、タブレット端末を用いた保健体育の授業など、新しい取組への挑戦もなされた。周囲の教員も刺激を受け、研修を深めていった。 ▲年度当初には管理職を交えた担当者間の綿密な打合せ、年度終了時には成果の検証と次年度への引継ぎが必要。 ※つなぎ授業は、2月に実施のため未検証。今年度は新たに小6の数学で実施。早期の生徒理解や課題の把握を期待。 ▲乗り入れ、つなぎ授業、合同教科については、児童生徒の実態や教科内容、職員配置なども考慮し、実施教科の見直しを検討しなければならない。 ▲論理的文章の読解に課題がある本地区において、新聞記事等を活用した帯タイムの取組や家庭学習の内容も一考すべき。(小中高) ▲給食及びフッ化物洗口開始により、放課後の行事等の時間が不足するため、帯タイムがカットになることが多かった。(小中) ▲力量にあった選択をしない者もいる。 ▲職員の負担が増した。次年度は予算を確保して市販資料の活用も検討。 ▲小中の家庭学習時間は減少(高は増加)。 ▲遠隔授業はSkypeを使って試行したもの、回線(ADSL)が不安定で実際の活用は難しい。今後、再検討の必要あり。(小)
--	--

仮説②基本的な生活習慣の確立
【宇久地区】

取組	成果(○)と課題(▲)
<p>【平成21年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・校種間の情報交換と統一した指導 ・夏休み前に家庭学習アンケートや本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ・歓迎遠足(小中高)、海岸清掃(小中高) ・薬物乱用防止教室(中高)、体育大会(中高)、DV防止教育(中高)、オーケストラ鑑賞会(中高)、ロードレース大会(中高) ・合同授業郷土芸能伝承「宇久ハイヤ節」(小中) 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に話し合うことができ、12年間を見通した生活指導が可能になった。 ○挨拶、起床時間、朝食を摂るなど基本的な生活習慣の確立ができた。 ○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。 ○校種を超えた交流により、進学先の先輩や教師に対する不安は少ない。 ○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。 ▲3つの異校種がカリキュラムや行事をそろえることが容易ではない。 ▲時程の違いで合同行事が組みにくい。 ▲児童生徒の減少により、郷土芸能の伝承が難しくなっている。

<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・夏休み前に家庭学習アンケートや本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高）、海岸清掃（小中高） ・薬物乱用防止教室（中高）、体育大会（中高）、駅伝・ロードレース大会（中高） ○特別支援教育への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を中心とした活動を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に申し合うことができ、12 年間を見通した生活指導が可能になった。 ○挨拶、起床時間、朝食を摂るなど基本的生活習慣の確立ができた。 ○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。 ○校種を超えた交流により、進学先の先輩や教師に対する不安は少ない。 ○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。 ○特別支援教育委員会において、毎回講師を招き専門的研修を深めることができた。また、その取組を各学校へ報告することで教員の特別支援教育に関する意識が高まった。 ▲3 つの異校種がカリキュラムや行事をそろえることが容易ではない。 ▲時程の違いで合同行事が組みにくい。
<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・夏休み前に家庭学習アンケートや本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高）、海岸清掃（小中高） ・薬物乱用防止教室（中高）、体育大会（中高）、駅伝・ロードレース大会（中高） ○特別支援教育への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を中心とした活動を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に申し合うことができ、12 年間を見通した生活指導が可能になった。 ○挨拶、起床時間、朝食を摂るなど基本的生活習慣の確立ができた。 ○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。 ○校種を超えた交流により、進学先での先輩や教師に対する不安は少ない。 ○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。 ○特別支援教育委員会において、講師を招き専門的研修を実施することができた。また、その取組を各学校へ報告することで教員の特別支援教育に関する意識が高まった。研修会により多くの教員が参加できるようにすることが大切である。 ○全体計画、個別指導計画や支援計画の作成や実態把握のためのアンケート実施など、島内 4 校で歩調をそろえて行い年間を通して一貫した支援ができる体制作りを行った。 ▲3 つの異校種がカリキュラムや行事をそろえることが容易ではないことが課題であったが、年度当初に時期を決定したので問題点は少なくなった。しかし、いまだに行事の打ち合わせの会の設定がしにくい。来年度の行事については教務主任会を中心に早期に検討する予定である。
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・夏休み前に家庭学習アンケートや本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高）、海岸清掃（小中高） ・薬物乱用防止教室（中高）、体育大会（中高）、駅伝・ロードレース大会（中高） ○特別支援教育への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を中心とした活動を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に申し合うことができ、12 年間を見通した生活指導が可能になった。 ○挨拶、起床時間、朝食を摂るなど基本的生活習慣の確立ができた。 ○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。 ○校種を超えた交流により、進学先での先輩や教師に対する不安は少ない。 ○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。 ○特別支援教育委員会において、講師を招き小中高職員も参加して専門的研修を実施することができた。教員の特別支援教育に関する意識が高まった。研修会により多くの教員が参加できるようにすることが大切である。 ○全体計画、個別指導計画や支援計画の作成や実態把握のためのアンケート実施など、島内 4 校で歩調をそろえて行い、年間を通して一貫した支援ができる体制作りを行った。 ▲3 つの校種がカリキュラムや行事をそろえることが容易ではないことが課題であったが、教務主任会を中心に年度当初に時期を決定したので問題点は少なくなった。しかし、いまだに行事の打ち合わせの会の設定がしにくい。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・夏休み前に家庭学習アンケートや本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に申し合うことができ、12 年間を見通した生活指導が可能になった。 ○挨拶、起床時間、朝食を摂るなど基本的生活習慣の確立ができた。 ○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。

<p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高）、海岸清掃（小中高） ・薬物乱用防止教室（中高）、体育大会（中高）、駅伝・ロードレース大会（中高） <p>○特別支援教育への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を中心とした活動を展開 	<p>○校種を超えた交流により、進学先での先輩や教師に対する不安は少ない。</p> <p>○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。</p> <p>○特別支援教育委員会において、講師を招き小中高職員も参加して専門的研修を実施することができた。教員の特別支援教育に関する意識が高まった。</p> <p>○全体計画、個別指導計画や支援計画の作成や実態把握のためのアンケート実施など、島内4校で歩調をそろえて行い、年間を通して一貫した支援ができる体制作りを行った。</p> <p>▲3つの校種がカリキュラムや行事をそろえることが容易ではないことが課題であったが、教務主任会を中心に年度当初に時期を決定したので問題点は少なくなった。</p>
<p>【平成26年度】</p> <p>○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・本地区独自実施の児童生徒へのアンケートによる実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高）、海岸清掃（小中高） ・薬物乱用防止教室（中高）、体育大会（中高）、駅伝大会（中高） ・なぎなた踊り見学会（小5、6・中） ・老人会へのメッセージカード作り（小中高） <p>○特別支援教育への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を中心とした活動を展開 <p>○地域代表者会の実施（年2回）</p>	<p>○小中高の教員が情報交換しあう機会が多く、気づきを気軽に話し合うことができ、12年間を見通した生活指導が可能になった。</p> <p>○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した生徒指導ができた。</p> <p>○校種を超えた交流により、進学先での先輩や教師に対する不安は少ない。</p> <p>○児童生徒間の交流が充実し、各段階でのリーダーも育ってきた。</p> <p>○特別支援については、全体計画、個別指導計画や支援計画の作成や実態把握のためのアンケートを実施した。島内4校で歩調をそろえて行い、年間を通して一貫した支援ができる体制作りを行った。</p> <p>○自己実現の基盤として「あいさつ」「はきものそろえ」の定着に取り組んだ。特に「はきものそろえ」については地域の特色となるまで徹底することを各校で確認し実践しているところである。</p> <p>▲アンケート等各調査により、基本的な生活習慣の重要性について徐々に意識付けはできているが、課題のある児童生徒が固定化されていることから本人、保護者に対しさらに具体的な手立てが必要である。</p>
<p>【平成27年度】</p> <p>○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・児童生徒へのアンケート実施による実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会との連携した指導 ・朝の挨拶運動 <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足、海岸清掃、老人ホームへのメッセージカード作り（小中高） ・薬物乱用防止教室、体育大会、ロードレース大会、百人一首大会（中高） ・なぎなた踊り見学会（小中） ・修学旅行（小） <p>○特別支援委員会を中心とした研修会等の実施</p>	<p>○月に1回の部会開催により情報交換が密になり、校種の垣根を越え統一した指導ができた。</p> <p>○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した児童生徒の生活指導ができた。</p> <p>○自己実現の基盤として「ワンストップあいさつ」「はきものそろえ」の定着に取り組んだ。これらが地域の特色となるまで徹底することを各校で確認し実践している。</p> <p>○合同行事により、他者を思いやる心や協調性は十分育まれている。</p> <p>○特別支援については、センター出前事業を利用しての職員研修を実施し資質の向上を図った。また、児童生徒にアンケートを実施し実態把握を図り、問題を抱える児童生徒に対しては、一貫した支援が行えた。</p> <p>▲合同行事においては、最高学年はリーダー性を発揮できているが、各段階でのリーダー性を発揮できる場が少ない。仕掛けを工夫していきたい。</p> <p>▲狭い範囲での交流が多く、第三者に自己の考えを伝えることに抵抗を感じている児童生徒が多い。</p>
<p>【平成28年度】</p> <p>○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種間の情報交換と統一した指導 ・児童生徒へのアンケート実施による実態把握及び分析考察の実施 ・地域や地区健全育成会との連携した指導 ・朝の挨拶運動 <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足、海岸清掃、老人ホームへのメッセージカード作り（小中高） ・薬物乱用防止教室、体育大会、駅伝大会、百人一首大会（中高） ・なぎなた踊り見学会（小中） <p>○指導目標の柱として「表現力の育成」を掲げ、教育活動全般を通して、その育成に取り組んでいる。</p>	<p>○月に1回の部会開催により情報交換が密になり、校種の垣根を越え統一した指導ができた。</p> <p>○学校、保護者、地域と地区健全育成会と協力した児童生徒の生活指導ができた。</p> <p>○児童生徒にアンケートを実施し実態把握を図り、問題を抱える児童生徒に対しては、一貫した支援が行えた。</p> <p>○自己実現の基盤として「ワンストップあいさつ」「はきものそろえ」の定着に取り組んだ。これらが地域の特色となるまで徹底することを各校で確認し実践している。</p> <p>○合同行事により、他者を思いやる心や協調性は十分育まれている。</p> <p>○合同行事を通して、リーダーとしての資質の向上が図られている。</p> <p>▲機会あるごとに児童生徒が自ら考え、話をする場を設けている。戸惑う児童生徒もいたが、徐々に習慣化されてきた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>

仮説②基本的な生活習慣の確立

【奈留地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・定例会、事務局会の開催（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査の実施（小中高） ・通学時の小中高職員による立哨指導（小中高） ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ・三大行事（歓迎遠足・体育大会（小中高）・百人一首大会（中高））及び合唱祭（小5～高1） ・始業式、終業式、避難訓練の合同実施（小中） ・小中合同行事（平和集会・人権集会・全校朝会等）（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育習慣」の合同実施（小中高） ・ケータイ教室の実施（中高） ・薬物乱用防止教室合同実施（小中） ○愛育会（PTA）と連携したあいさつに対する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員、児童生徒のお互いの理解が深まり、不登校や中1ギャップ・高1クライシスの解消につながった。 ○三大行事だけでなく、合唱祭では小5～高1、人権集会では小5～中3が参加するなど、発達段階に応じた行事への取組の工夫で成果を上げた。 ○愛育会とPTAとの連携も深まり、挨拶について同じ視点を持って取組を行った。 ○小中高一貫教育に対する地域の関心が高まり、それにより地域教育力も高まり、問題行動、非行などがほとんどなかった。 <p>▲児童生徒は幼い頃から知っている間柄であり、仲がよい反面、お互いの切磋琢磨や先輩後輩のけじめ、上下関係について徹底できないところがある。</p> <p>▲挨拶は、学校内など限定された所では良くできているが、校外や家庭内での挨拶には改善の余地がある。</p> <p>▲合同ありきではなく、小中合同、中高合同、期別の行事など、教育的効果が上がるような行事の見直しが必要である。</p>
<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・定例会・事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・通学時の立哨指導（小中高） ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ・三大行事（歓迎遠足・体育大会・百人一首大会）（小中高）及び合唱祭（小中高1） ・始業式、終業式、避難訓練の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高の教員の連携及び児童生徒同士の理解が深まり、異校種間ギャップの解消に有効があった。 ○三大行事だけでなく、小中及び中高の合同行事を通して、発達段階に応じた指導をスムーズに行うことができた。 ○朝の挨拶指導など、愛育会・PTAとも同じ目線で指導することにより、保護者の理解が深まった。 ○小中高一貫教育への地域の理解や関心が深まるとともに地域教育力が高まり、生徒指導上の問題はほとんどなかった。 <p>▲児童生徒の切磋琢磨する心やけじめ、上下関係等を大切にす姿勢という面で徹底できていない。</p> <p>▲挨拶は、学校ではできるが、校外や家庭での実施状況には改善の余地がある。</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・合同会議・事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・通学時のあいさつ指導（小中高） ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ・三大行事（歓迎遠足・体育大会・かるた百人一首大会）（小中高）及び合唱祭（小中高1） ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種の行事や会議等を通して、小中高の教職員の連携及び児童生徒同士の理解が一層深まり、異校種間ギャップの解消並びに各種行事の円滑かつ効果的な運営に有効であった。 ○生活実態調査や挨拶指導を通して、実態把握に限ることなく、各校種における指導内容の共通理解がなされた。 ○朝の挨拶指導など、保護者や地域の方と同じ目線で指導することができ、理解が深まった。 ○三大行事だけでなく、小中及び中高の合同行事を通して、発達段階に応じた指導をスムーズに行うことができた。 ○地域の理解や関心が深まるとともに、地域の教育力が高まり、生徒指導上の問題はほとんどなかった。 <p>▲児童生徒の仲が良すぎるため、切磋琢磨する心やけじめ、上下関係等で徹底できない面がある。</p> <p>▲家庭・地域での挨拶にはまだまだ改善の余地がある。</p>
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・合同会議・事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・通学時のあいさつ指導（小中高） <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大行事（歓迎遠足・体育大会・かるた百人一首大会）（小中高）及び合唱祭（小中高1） ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種の行事や会議等を通して、小中高の教職員の連携及び児童生徒同士の理解が一層深まり、異校種間ギャップの解消並びに各種行事の円滑かつ効果的な運営ができた。 ○生活実態調査やあいさつ指導を通して、的確に実態把握を行い、各校種における指導内容の共通理解がなされ、実態に即した指導ができた。 ○朝の挨拶指導など、保護者や地域の方々と同じ目線で指導することができ、理解が深まった。 ○三大行事を始めとした小中及び中高の合同行事を通して、発達段階に応じた指導をスムーズに行うことができた。 ○地域の理解や関心が深まるとともに、地域の教育力が高まり、生徒指導上の大きな問題はなかった。 <p>▲人的環境に変化が乏しく、児童生徒同士の人間関係も固定されがちであるため、切磋琢磨する心や、先輩・後輩のけじめ等を意識的に教え、育てる必要がある。</p> <p>▲校外での挨拶等の礼儀作法について、学校評議員会等の場で、不十分な面の指摘があった。</p>

<p>【平成 25 年度】</p> <p>○12 年間の一貫した生活・生徒指導や、相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議、事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・通学時の挨拶指導（小中高） <p>○合同行事等の交流による学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大行事（歓迎遠足・体育大会・かるた百人一首大会）（小中高）及び合唱祭（小中高 1） ・始業式、終業式、入学式、卒業式等の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<p>○各種の合同行事や合同会議等を通して、小中高の教職員の連携及び児童生徒の理解が一層深まり、各種行事の円滑かつ効果的な運営ができた。</p> <p>○生活実態調査や挨拶指導を通して実態把握を行い、各校種における指導内容の共通理解がなされ、実態に即した指導ができた。</p> <p>○朝の挨拶運動により、挨拶の習慣は確立しつつある。また、保護者や地域の方々と同じ目線で指導することができ、相互の理解が深まった。</p> <p>○地域の理解や関心が深まるとともに、地域の教育力が高まり、生徒指導上にも役立った。</p> <p>○小中高合同の三大行事を始めとする合同行事を通して、児童生徒同士の理解が一層深まり、異校種間ギャップの解消につながった。</p> <p>○小中高合同の三大行事や小中、中高の合同行事等を通して、円滑かつ効果的に発達段階に応じた指導を行うことができた。</p> <p>▲人的環境に変化が乏しく、児童生徒同士の人間関係も固定されがちであるため、切磋琢磨する心や、目上・目下のけじめ等を意識的に教え、育てる必要がある。</p> <p>▲学校開放期間の学校行事については、校種間でさらに情報交換を密に行い、合同開催の行事を企画するなどして、保護者や地域の方々との交流を図る機会の提供につなげた方がよい。</p>
<p>【平成 26 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議、事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・登校時の挨拶運動（小中高） <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大行事（歓迎遠足、体育大会、かるた・百人一首大会）（小中高）および合唱祭（小中高 1）に加え、本年度マラソン大会（中高）も実施 ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<p>○小中高で足並みを揃えた指導や、合同での校外巡視などを通して、児童生徒・保護者・地域の理解を得た指導が可能になった。また、挨拶運動により、児童生徒同士や教職員との間の一体感が強まった。さらに、きちんとした挨拶をすることで、礼節のみならず、落ち着いた学校生活を送ることができた。</p> <p>○生活実態調査の結果を分析し、各校種ごとの実態把握とそれに応じた指導内容の共通理解が図られ、実態に即した指導が行われた。</p> <p>○各行事を通して、上級生下級生が同じ活動をする際の交流を通し、悩みや不安に対するアドバイスが行われた。それらを通し下級生は自らを律する態度を育成できた。</p> <p>○上級生は下級生と接することで、見られることにより、生活習慣をはじめとした多面的な部分での自覚が生じた。</p> <p>▲校種を超えて集団を作り、共に準備・活動をする時間を多く設定する必要がある。</p>
<p>【平成 27 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議、事務局会（小中高） ・生徒指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・登校時の挨拶運動（小中高） <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大行事（歓迎遠足、体育大会、かるた・百人一首大会）（小中高）および音楽祭（小中高 1）に加え、マラソン大会（中高）も実施 ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<p>○小中高で足並みを揃えた指導や、合同での校外巡視などを通して、児童生徒・保護者・地域の理解を得た指導が可能になった。また、挨拶運動により、児童生徒同士や教職員との間の一体感が強まった。さらに、きちんとした挨拶をすることで、礼節のみならず、落ち着いた学校生活を送ることができた。</p> <p>○生活実態調査の結果を分析し、各校種ごとの実態把握とそれに応じた指導内容の共通理解が図られ、実態に即した指導を行うことができた。</p> <p>○各行事を通して、上級生下級生が同じ活動をするという交流を通し、悩みや不安に対するアドバイスが行われた。それらを通し下級生は自らを律する態度を育成した。</p> <p>○上級生は下級生と接することで、生活習慣をはじめとした多面的な自覚が生じた。</p> <p>▲校種を超えて集団を作り、共に準備・活動をする時間を多く設定する必要がある。</p>
<p>【平成 28 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会議（小中高） ・生活指導連絡会（小中高） ・生活実態調査（小中高） ・登校時の挨拶運動（小中高） <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三大行事（歓迎遠足、体育大会、かるた・百人一首大会）（小中高）に加え、音楽祭（小中高 1）、マラソン大会（中高）の実施 ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・「奈留っ子の心を見つめる教育週間」の合同実施（小中高） 	<p>○小中高の合同会議で合同行事について検討する際も、発達年齢に対応したものになっているか、配慮の必要な生徒にどのように対応するかなど、意見交換がなされた。</p> <p>○長期休業前の生徒指導担当者の会議で、状況確認と生活指導の内容が話し合われていて効果的であった。</p> <p>○行事の後には、児童生徒、教員に対してアンケートを行っているが、児童生徒の満足度は高い。</p> <p>○保護者にも小中高一貫教育の取組を理解してもらえた。</p> <p>▲合同行事の実施準備に時間がかかる。</p> <p>▲体育祭など合同練習が必要な行事で、小中高の時間調整が難しい。</p>

仮説②基本的な生活習慣の確立

【小値賀地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による小中高の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会（月 1 回の定例会：校長会は教育長・各校長・事務局長、教頭会は教育次長・各教頭） ・教務主任会（各校種） ・事務局（4 部局）及び地区推進部会（21 部会） ・生活アンケート（調査分析部局） <p>○小中高の交流を通して、児童生徒の心身の発達を促す合同行事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・芋植え及び収穫（小中） ・アジかまぼこ作り（小中） ・PTP 交流（小中高） ・海浜清掃（小中高） ・体育祭（中高） ・海の生物観察会（小中高） ・人権集会（小中高） ・心の教育講演会（中高） ・持久走及び駅伝大会（小中） <p>○修了証書授与式（小中高）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的：小中高の児童生徒が一堂に会し、前・中・後期の修了証書を授与することにより、12 年間の一貫した教育体制であることを実感させる。また、1 年間の振り返りをさせ、次年度に向けての展望を一人一人に持たせる。 ・期日：平成 22 年 2 月 26 日 	<p>○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校の PTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。</p> <p>○自らの教育活動にそれぞれの経験を活かすことができるようになった。</p> <p>○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。</p> <p>○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒一人一人に対するきめ細かな対応が可能である。</p> <p>○合同行事を実施する過程で、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができる。</p> <p>○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を得ることができるようになった。</p> <p>▲学習指導要領の改訂に伴い、教育課程のさらなる見直しが必要である。</p> <p>▲小 1 から高 3 まで同じ行事に参加し、小中高全ての児童生徒に教育効果を高めることは、体力的な差など、年齢発達段階からみて、極めてむずかしい場合がある。</p> <p>▲各学校で年間行事を考えると、ある時期に小中高の取組が集中し、各学校での教育活動に余裕がなくなることがある。</p> <p>▲小中高の連携が進むにつれ、小中でのそれぞれの最上級生（小 6・中 3）としての役割が失われ、自校での最上級生としての意識が薄れるなど、リーダーとしての指導が難しい側面がある。</p> <p>▲前・中・後期の枠を生徒が意識できる取組が少なく、検討の必要がある。</p>
<p>【平成 22 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会（月 1 回の定例会：校長会は教育長・校長・事務局長、教頭会は教育次長・教頭、※本年度は 2 か月に 1 回、校長・教頭合同研修会として実施） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4 部）及び地区推進部会（18 部会） ・生活アンケート（調査分析部） <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・アジかまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高） ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権集会（小中高） ・ロードレース及び駅伝大会（小中） ・修了証書授与式（小中高） 	<p>○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校の PTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。</p> <p>○自らの教育活動にそれぞれの経験を活かすことができるようになった。</p> <p>○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。</p> <p>○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな対応が可能である。</p> <p>○合同行事を実施する過程で、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができる。</p> <p>○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を得ることができるようになった。今後は、さらに学習の質の向上を目指し、保護者と連携しながら進める必要がある。</p> <p>▲小 1 から高 3 まで同じ行事に参加し、小中高全ての児童生徒に教育効果を高めることは、体力的な差など、年齢発達段階からみて、極めて難しい場合がある。</p> <p>▲各学校で年間行事を考えると、ある時期に小中高の取組が集中し、各学校での教育活動に余裕がなくなることがある。</p> <p>▲小中高の連携が進むにつれ、小中でのそれぞれの最上級生（小 6・中 3）としての役割が失われ、自校での最上級生としての意識が薄れるなど、リーダーとしての指導が難しい側面がある。</p> <p>▲前・中・後期の枠を児童生徒が意識できる取組が少なく、検討が必要である。</p> <p>▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが難しい。また、学習指導要領の改訂に伴い、さらなる合同行事の精選も必要である。</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4 部）及び地区推進部会（16 部会） ・生活アンケート（調査分析部） 	<p>○自らの教育活動にそれぞれの経験を活かすことができるようになった。</p> <p>○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな対応が可能である。</p> <p>○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を</p>

<p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高） ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権集会（小中高） ・ロードレース及び駅伝大会（小中） ・修了証書授与式（小中高） 	<p>得ることができるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校のPTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。 ○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。 ○合同行事を実施する過程で、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができる。 ▲小1から高3まで同じ行事に参加し、小中高全ての児童生徒に教育効果を高めることは、体力的な差など、年齢発達段階からみて、難しい場合がある。 ▲各学校で年間行事を考えると、ある時期に小中高の取組が集中し、各学校での教育活動に余裕がなくなることがある。 ▲小中高の連携が進むにつれ、小中でのそれぞれの最上級生（小6・中3）としての役割が失われ、自校での最上級生としての意識が薄れるなど、リーダーとしての指導が難しい側面がある。 ▲前・中・後期の枠を児童生徒が意識できる取組が少なく、検討が必要である。 ▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが難しい。また、学習指導要領の改訂に伴い、さらなる合同行事の精選も必要である。
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4部）及び地区推進部会（16部会） ・生活アンケート（調査分析部） ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ・歓迎遠足（小中高） ※今年は、雨天のため、中学校体育館での歓迎集会に変更 ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高） ※今年は、悪天候のため中止 ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権集会（小中高） ・ロードレース（小中） ・修了証書授与式（小中高） ○小中高一貫教育研究大会（11/12）の実施 ・5年間の取組を振り返ることにより成果と課題を整理し、次年度からの新たな取組を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの教育活動にそれぞれの経験を活かすことができるようになった。 ○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。 ○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな対応が可能である。 ○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を得ることができるようになった。 ○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校のPTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。 ○合同行事を実施する過程で、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができる。 ▲小1から高3まで同じ行事に参加し、小中高全ての児童生徒に教育効果を高めることは、体力的な差など、年齢発達段階からみて、難しい場合がある。 ▲各学校で年間行事を考えると、ある時期に小中高の取組が集中し、各学校での教育活動に余裕がなくなることがある。 ▲前・中・後期の枠を児童生徒が意識できる取組をさらに充実させるための検討が必要である。 ▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが難しい。 ▲児童生徒数減に伴い、今後、合同行事の内容の見直し及び精選が必要である。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握 ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4部）及び地区推進部会（16部会） ・生活アンケート（調査資料部） ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消 ○異校種、異学年との学習を通して、上級生への憧れと下級生へのいたわりの気持ちを育てる。 ・歓迎遠足（小中高） ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高） ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権集会（小中高） ・ロードレース（小中） ・修了証書授与式（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校種の垣根を越えた指導の経験を自らの教育活動にそれぞれ活かすことができるようになった。 ○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。 ○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒の特性を適切に把握し、一人一人に対するきめ細やかな対応が可能である。 ○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を得ることができるようになった。 ○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校のPTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。 ○合同行事を実施する過程で、異年齢集団との交流が定着し、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができる。 ○小1から高3まで同じ行事に参加し、全ての児童生徒に教育効果を高めることは、体力的な差など、年齢発達段階からみて、難しい場合があったが、それをカバーすべく、高学年の生徒の関わり方が変わってきた。 ▲各学校で年間行事を考えると、ある時期に小中高の取組が

	<p>集中し、各学校での教育活動に余裕がなくなることがある。</p> <p>▲前・中・後期の枠を児童生徒が意識できる取組をさらに充実させるための検討が必要である。</p> <p>▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが必要である。</p> <p>▲児童生徒数減に伴い、今後、合同行事の内容の見直し及び精選が必要である。</p>
<p>【平成 26 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4 部）及び地区推進部会（16 部会） ・生活アンケート（調査資料部） ・地域や地区健全育成会と連携した指導 <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <p>○異校種、異学年との学習を通して、上級生への憧れと下級生へのいたわりの気持ちを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高）…悪天候のため中止 ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権学習会（小中高） ・ロードレース（小中） ・修了証書授与式（小中高） <p>○小値賀地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会の設置</p>	<p>○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されつつある。</p> <p>○小中高の教職員の連携が進み、児童生徒の特性を適切に把握しきめ細やかな対応が可能である。</p> <p>○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、読書習慣及び家庭学習習慣の確立において、家庭の理解・協力を得ることができるようになった。</p> <p>○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校の PTA 同士の連携も深まりつつある。地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。</p> <p>○合同行事を実施する過程で、異年齢集団との交流が定着し、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができている。</p> <p>○代表者会、実務者会を実施、各校種および地区における特別支援教育の組織が整備されつつある。</p> <p>▲前・中・後期の枠を児童生徒が意識できる取組をさらに充実させるための検討が必要である。</p> <p>▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが必要である。</p> <p>▲児童生徒数減に伴い、今後、合同行事の内容の見直し及び精選が必要である。</p> <p>▲専門的な研修、専門家の指導助言を受ける機会の確保。</p>
<p>【平成 27 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4 部）及び地区推進部会（16 部会） ・生活アンケート（調査資料部） ・地域や地区健全育成会と連携した指導 <p>○合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消</p> <p>○異校種、異学年との学習を通して、上級生への憧れと下級生へのいたわりの気持ちを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高）…悪天候のため中止 ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権学習会（小中高） ・ロードレース（小中） ・修了証書授与式（小中高） <p>○小値賀地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会における研修・情報共有</p>	<p>○小中高の合同行事や教職員の連携が進み、児童生徒の発達段階や特性に応じたきめ細やかな対応が可能である。</p> <p>○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、小から中、中から高に進学する上で、心理的負担が軽減されている。</p> <p>○合同行事等を通して、小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。また、各学校の PTA 同士の連携も深まり、地域の子は、地域で育てる本地区ならではの取組として、各行事が充実してきた。</p> <p>○合同行事を実施する過程で、異年齢集団との交流が定着し、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができている。</p> <p>○個別の統一した支援計画書式の見直しを行い、こども園から小中高まで、連携が図れるようにしている。</p> <p>▲生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、家庭学習習慣や読書習慣等について、小値賀の子どもたちの現状を理解いただき、改善へ向けて、取り組んでいるところである。</p> <p>▲SNS のマナーを守った利用については、学校・家庭の協力した指導を継続する。</p> <p>▲合同行事は、各学校の行事調整や時間的な限界があり、打合せ時間を十分に確保することが必要である。</p>
<p>【平成 28 年度】</p> <p>○12 年間一貫した生活・生徒指導や相互乗り入れ授業による校種の垣根を越えた児童生徒の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会及び教頭会、校長教頭合同会（定例会） ・教務主任会（各校種 ※分校を含む） ・事務局（4 部）及び地区推進部会（16 部会） ・生活アンケート（調査資料部） ・養護部会 ・地域や地区健全育成会と連携した指導 ・町 PTA 主催による小中高同一講師によるメディア安全講習会（生徒向け、保護者・教員向けの 3 部構成） <p>○異校種、異学年との学習を通して、上級生への憧れと下級生へのいたわりの気持ちを育てる（合同行事等の交流を通しての学校生活上の悩みや不安の解消）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歓迎遠足（小中高） ・アジカまぼこ作り（小中） ・海浜清掃（小中高）…悪天候のため中止 ・体育祭（中高） ・心の教育講演会（中高） ・人権学習会（小中高） 	<p>○生活アンケートの結果を全保護者・町民に示すことで、生活習慣や家庭学習の取組等、小値賀の子どもたちの現状を理解いただき、改善へ向けて取り組んでいる。</p> <p>○養護部で小中高共通の課題を把握し改善に努力。各校月 1 回のメディアだよりを発行して子どもや保護者の意識を高めている。</p> <p>○通信機器の利用時間が長くなっているというアンケートの結果を受けて発達段階に合わせた講習会を実施。教職員、保護者への啓発活動にも努めた。</p> <p>○異年齢集団との交流が定着し、上級生が先輩として、他校種の児童生徒に対して配慮し、優しさをもって接することができている。</p> <p>○児童生徒が自校以外の教員への理解を深め、進学する際の心理的負担が軽減されている。</p> <p>○教職員の連携が進み、児童生徒の発達段階や特性に応じたきめ細やかな対応が可能となった。</p> <p>○行事等とおして小中高一貫教育への保護者及び地域の理解が深まった。各校 PTA の連携も深まり、地域の子は地域で育てる本地区ならではの取組として行事が充実してきた。</p> <p>○共通書式の個別の教育支援計画により、こども園から小中高</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ロードレース (小中) ・イングリッシュデー(小中高) ・修了証書授与式 (小中高) ○小値賀地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会 ・個別の支援計画の共通書式 ・小中高職員の特別支援教育の合同研修会 	<p>まで引継ぎがやりやすい。</p> <p>○研修会で特別支援の共通理解ができた。</p> <p>▲学校間の日程調整や打合せ時間を十分に確保することが必要である。教職員の異動サイクルが変わり、引継ぎ等も課題。</p>
--	---

仮説③望ましい進路意識の向上

【宇久地区】

取組	成果 (○) と課題 (▲)
<p>【平成 21 年度】</p> <p>○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路 (ゆめ) 実現に向けての進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムの作成 ・「ゆめ」カリキュラム (小：職場見学、中：職場体験) の作成 ・連携型中高一貫教育入試の課題レポートを活用した進路指導 (進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校入学後課題レポート発表会を実施) ・合同歓迎遠足、海岸清掃を通して中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・地域人材一覧表の作成 	<p>○合同行事や乗り入れ授業・つなぎ授業等により、小学校から中学校・中学校から高校への不安感が減少した。</p> <p>○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。</p> <p>○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、有意義であった。</p> <p>○小学生が、諸行事を通して中高校生の活動する姿に接することで、意識が好転した。</p> <p>▲上級学校への進学不安は軽減されるが、緊張感が低下し学習面にも影響が出ている。</p> <p>▲小中学校の子どもたちは職種をよく知らない。地域に見学したり体験したりできる職場が少なく、職業についての知識をもっと広げる手だてが必要である。</p>
<p>【平成 22 年度】</p> <p>○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路 (ゆめ) 実現に向けての進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムの作成 ・「ゆめ」カリキュラム (小：職場見学、中：職場訪問、職場体験) の作成 ・連携型中高一貫教育入試の課題レポートを活用した進路指導 (進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校入学後課題レポート発表会を実施) ・合同歓迎遠足、海岸清掃を通して中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」に関するアンケートを 2 回実施 ・高 1・2 の学力検討会、高 3 の進路検討会へ中学校の教員の参加 	<p>○合同行事や乗り入れ授業・つなぎ授業等により、小学校から中学校・中学校から高校への不安感が減少した。</p> <p>○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。</p> <p>○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、有意義である。</p> <p>○今年度、高校の課題レポート発表会に中学校 2 年生を参加させた。中学校 2 年生から将来の職業を意識させるいい機会になった。</p> <p>○小学生が、諸行事を通して中高校生の活動する姿に接することで、意識が好転した。</p> <p>○「ゆめ」に関するアンケートによって、将来に関する生徒の意識を把握することができた。</p> <p>○中学校の教員が高校の学力・進路検討会に参加することによって、継続的な進路指導体制の基盤を築くことができた。</p> <p>▲上級学校への進学不安は軽減されるが、緊張感が低下し学習面にも影響が出ている。</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <p>○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路 (ゆめ) 実現に向けての進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小 5 から高 3 までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム (小：職場見学、中：職場訪問、職場体験、高：進路型修学旅行を踏まえ) の作成 ・連携型中高一貫教育入試の課題レポートを活用した進路指導 (進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校入学後課題レポート発表会を実施) ・合同歓迎遠足、海岸清掃を通して中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」に関するアンケートを 2 回実施、新たにキャリア教育に関するアンケートを 1 回実施 	<p>○今年度から小学 5 年生から高校 3 年生に「ゆめファイル」を持たせ、資料を 8 年間保存させるようにした。また、高校 3 年間の進路指導計画を参考に各学校でも進路指導計画作成に取り組み始めた。完成すると 12 年間を見通した進路指導計画が実施できるようになる。</p> <p>○合同行事や乗り入れ授業・つなぎ授業等により、小学校から中学校・中学校から高校への不安感が減少した。</p> <p>○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。</p> <p>○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、有意義である。</p> <p>○今年度は高校の課題レポート発表会に中学校 3 年生を参加させた。中学校 3 年生から将来の職業を意識させるいい機会になった。</p> <p>○小学生が、諸行事を通して中高校生の活動する姿に接することで、あこがれを持ち、生き方に対する意識が好転した。</p> <p>○「ゆめ」に関するアンケートによって、将来に関する生徒の意識を把握することができた。また、今年度からキャリア教育に関するアンケートを実施したので新たな指導法を模索する手だてを得た。</p> <p>▲小中高一貫教育を実施することで、上級学校への進学不安は軽減されるが、緊張感が低下し学習面にも影響が出ている。特に高校入試において学力検査がないので中学生の学習に関する意欲の低下は否定できない。つなぎ授業や学力確認テストで学習意欲の向上を図っているが、まだ十分ではない。</p>

<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚。 ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小5から高3までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム（小：職場見学、中：職場訪問、職場体験、高：進路学習型修学旅行を踏まえ）の作成。 ・連携型中高一貫教育入試の課題レポートを活用した進路指導。 （進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校入学後課題レポート発表会を実施） ・合同歓迎遠足、海岸清掃を通して中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定。 <p>・「ゆめ」に関するアンケートを2回実施。新たにキャリア教育に関するアンケートを1回実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度から小学5年生から高校3年生に「ゆめファイル」を持たせ、資料を8年間保存させるようにした。また、高校3年間の進路指導計画を参考に各学校でも進路指導計画作成に取り組んだ。12年間を見通した進路指導計画が実施できるようになった。 ○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。 ○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、有意義である。 ○高校の課題レポート発表会に中学校3年生を参加させた。中学校3年生から将来の職業を意識させるいい機会になった。 ○宇久高校入試説明会に昨年度から中2も参加させるようにした。早い時期から進学について考えさせることで、学習意欲の向上につながった。 ○小学生が、諸行事を通して中高校生の活動する姿に接することで、あこがれを持ち、生き方に対する意識が好転した。 ○合同行事や乗り入れ授業・つなぎ授業等により、小学校から中学校・中学校から高校への不安感が減少した。 ○「ゆめ」に関するアンケートによって、将来に関する生徒の意識を把握することができた。また、今年度からキャリア教育に関するアンケートを実施したので新たな指導法を模索する手だてを得た。 ▲小中高一貫教育を実施することで、上級学校への進学の不安は軽減されるが、緊張感が低下し学習面にも影響が出ている。特に高校入試において学力検査がないので中学生の学習に関する意欲の低下は否定できない。つなぎ授業や学力確認テストで学習意欲の向上を図っているが、まだ十分ではない。 ▲児童生徒の減少に伴い、人間関係を築く力や社会に参画する力の育成に課題がある。宇久・実践のカリキュラムの見直しを行い、児童生徒が自治能力を高める活動をより多く取り入れる必要がある。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小4から高3までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム（小：職場見学、中：職場訪問、職場体験、高：進路型修学旅行を踏まえ）の作成 ・課題レポートを活用した進路指導。 （進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校入学後課題レポート発表会を実施） ・合同歓迎遠足、海岸清掃を通して中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」に関するアンケートを2回実施、新たにキャリア教育に関するアンケートを1回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学4年生から高校3年生に「ゆめファイル」を持たせ、資料を9年間保存させるようにしている。また、高校3年間の進路指導計画を参考に各学校でも進路指導計画作成に取り組んだ。12年間を見通した進路指導計画が実施できるようになった。 ○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。 ○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、職業観の育成や目的を持った学習への取組等において効果が期待される。 ○宇久高校入試説明会に中2も参加させるようにしている。早い時期から進学について考えさせることで、学習意欲の向上につながった。 ○「ゆめ」に関するアンケートによって、将来に関する生徒の意識を把握することができた。 ○小中高一貫教育を実施することで、上級学校への進学の不安は軽減されるが、緊張感が低下し学習面にも影響が出ていることは否めない。学力検査を導入することにより、意識の高揚、学習意欲の向上が期待される。 ▲児童生徒の減少に伴い、人間関係を築く力や社会に参画する力の育成に課題がある。他校との交流やICTの活用によって、改善を図りたい。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・夢の実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小4から高3までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム（小：職場見学、中：職場訪問、職場体験、高：進路型修学旅行を踏まえ）の作成 ・課題レポートを活用した進路指導 （進路意識高揚を図った課題テーマの設定、中学校では作成過程での指導、高校では課題レポート発表会を実施） ・合同歓迎遠足、海岸清掃等、中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」に関するアンケートを2回実施、新たにキャリア教育に関するアンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学4年生から高校3年生に「ゆめファイル」を持たせ、資料を9年間保存させるようにしている。また、高校3年間の進路指導計画を参考に各学校でも進路指導計画作成に取り組んだ。12年間を見通した進路指導計画が実施できるようになった。 ○「宇久・実践」の職場体験学習や高校説明会等で、自分の進路を考える機会が増え、進路意識が高揚した。 ○小学校段階から職業や将来について考える活動は、他地区ではなかなか見られないもので、職業観の育成や目的を持った学習への取組等において効果が期待される。 ○宇久高校入試説明会に中2も参加させるようにしている。早い時期から進学について考えさせることで、学習意欲の向上につながった。 ○中学3年生に、自分の将来についてのレポートを書かせることで、進路意識が高まった。 ○「ゆめ」に関するアンケートによって、将来に関する生徒の意識を把握することができた。 ○小学校においても職場見学、体験を通して職業観や働く意

	味、喜びについて考えることができた。 ▲小学校においては社会への参画意識や、貢献する喜びについて、特別活動(宇久・実践)や道徳、さらには普段の委員会活動、係り活動を通して醸成していく必要がある。
【平成 27 年度】 ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路(ゆめ)実現に向けての進路意識の高揚 ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・ゆめ実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小4から高3までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム(小:職場見学、中:職場訪問、職場体験、高:進路型修学旅行)の作成 ・中高を通して「生涯設計レポート」の作成と発表 ・高校説明会(中高) ・合同行事において中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」及び「キャリア教育」に関するアンケートの実施	○小学4年生から高3年生まで進路に関する学習成果物を「ゆめファイル」に保存させることで進路意識の高揚につながっている。 ○各段階において、職場見学やインターンシップを実施することにより発達段階に応じた職業観の育成が図られ、働くことの意義について学ぶことができた。 ○中学校3年生のとき、自分の将来についてレポートを書き始め、高校1年生のとき発表させている。他者の発表を聞くことで自分の進路を見つめ直す機会になっている。 ○「ゆめ」及び「キャリア教育」に関するアンケートの実施により、将来に対する児童生徒の意識が把握できるとともに、指導計画の改善につながられた。
【平成 28 年度】 ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路(ゆめ)実現に向けての進路意識の高揚 ・「自己生活の向上と目標立て」から「将来の職業選択・ゆめ実現」までの一貫したカリキュラムを作成し、小4から高3までに「ゆめファイル」を持たせた。 ・「ゆめ」カリキュラム(小:職場見学、中:職場訪問、インターンシップ、高:インターンシップ、進路型修学旅行)の作成 ・中高を通して「将来設計レポート」の作成と発表 ・高校説明会(中高) ・合同行事において中高生が活動する姿を小学生児童に直接見せる場の設定 ・「ゆめ」及び「キャリア教育」に関するアンケートの実施 ・高校における進路探究の時間の確保と再編成 ・道徳カリキュラムの再編成	○小4から高3まで進路に関する学習成果物を「ゆめファイル」に保存させることで進路意識の高揚につながっている。 ○各段階において、職場見学やインターンシップを実施することにより発達段階に応じた職業観の育成が図られ、働くことの意義について学ぶことができた。 ○中学校3年生のとき、自分の将来についてレポートを書き始め、高校1年生のとき発表させている。他者の発表を聞くことで自分の進路を見つめ直す機会になっている。 ○「ゆめ」及び「キャリア教育」に関するアンケートの実施により、将来に対する児童生徒の意識が把握できるとともに、指導計画の改善につながられた。 ○高校では、昨年度の反省を踏まえ進路探究の時間の確保と指導計画の見直しを行った。 ▲中高におけるインターンシップについては、職種が限定されてしまう。 ▲小中高全体会については、年度始めに調整をしておき開催に問題はないが、各部会の開催については、日程調整が困難である。

仮説③望ましい進路意識の向上

【奈留地区】

取組	成果(○)と課題(▲)
【平成 21 年度】 ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路(ゆめ)実現に向けての進路意識の高揚 ・職業調べ(小中) ・職場体験学習(中) ・課題レポートを活かした進路指導(中高) ・修学旅行(中)(高) ・高校面接指導交流参観(中高)	○職業調べは、中学校の調べた内容を小学生に説明するなど、小中の交流授業等では、お互いの進路に対する意識の高揚につながった。 ○課題レポートが昨年度より進路を意識したテーマになり、自己を見直す良い機会となった。 ○奈留・実践の「あすなる」において、各学年系統的で継続的なカリキュラムを作成し、進路意識が高揚した。 ○中学校、高校とも、修学旅行において職場体験や工場見学、専門学校や大学見学を実施し、進路意識の高揚につながることができた。 ○高校生の進路に向けて努力する姿を見ることにより、中学生の進路意識の高揚が見られた。 ○職業学習を通して、働く人への感謝の気持ちや職業人として生きていこうとする自覚が出てきた。 ▲異校種間の交流を見越したカリキュラム編成が必要である。小学校では担任一人で具体的な内容を考えるという現状であり、複数で12年間を見通したカリキュラムの編成を行う場の設定が必要である。 ▲各校種間で取り組んだ内容について、事例集として今後も蓄積するとともに、上級学校に引き継ぎ、経験したことをもとに新たな見聞を広めていくことが必要である。 ▲進路学習は島内だけでは限界があり、島外でさまざまな体験をさせたいが、授業時数確保や経費の面での課題が大きい。
【平成 22 年度】 ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路(ゆめ)実現に向けての進路意識の高揚 ・職業調べ(小中)	○職業調べは、小中学校の交流授業等でのお互いの進路意識の高揚に効果的であった。 ○職場体験学習を通して、勤労意欲や就労意識など、職業人として働くことの大切さや、生きることの意義を見いだすことができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場体験学習（中） ・ 課題レポートを活用した進路学習（中高） ・ 修学旅行（中）（高） ・ 高校面接指導参観（中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈留・実践の「あすなる」において、系統的かつ継続的なカリキュラムを作成し、実施していることが進路意識の高揚に寄与することができた。 ○ 中学校・高校ともに、修学旅行時に職場体験や工場見学、大学及び専門学校訪問を実施し、進路意識の高揚につながった。 ○ 中学生が高校生の面接指導を参観することにより、中学生の進路意識を高めることができた。 ○ 課題レポートが進路を意識したテーマとなり、自己の進路を見つめ直す良い機会となった。 ▲ 校種を超えた 12 年間を見通したカリキュラムの作成が不十分である。 ▲ 各校種で取り組んだ内容について、蓄積及び異校種への引き継ぎ等を綿密に行う必要がある。 ▲ 進路学習において、様々な体験及び経験をさせるための場の設定等の諸課題が十分には解決できていない。
<p>【平成 23 年度】</p> <p>○ 新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業調べ（小） ・ 職場体験学習（中） ・ 課題レポートを活用した進路学習（中高） ・ 修学旅行（中）（高） ・ 高校面接指導参観（中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業調べは、小中学校の交流学习等でお互いの進路意識の醸成及び高揚に効果的であった。 ○ 職場体験学習を通して、勤労意欲や就労意識など、職業人として働くことの意義や生きることの大切さを見いだすことができた。 ○ 奈留・実践の「あすなる」において、系統的かつ継続的なカリキュラムを作成・実施していることが進路意識の高揚に寄与することができた。 ○ 中学校・高校ともに、修学旅行時に職場体験や工場見学、大学及び専門学校訪問を実施し、進路意識の高揚につながった。 ○ 中学生が高校生の面接指導を参観することにより、中学生の進路意識の高揚に寄与することができた。 ○ 課題レポートのテーマが進路を意識したものとなり、中学 3 年生が自己の進路を見つめ直す機会となった。 ▲ 校種を超えた 12 年間を見通したカリキュラムの作成が不十分であった。 ▲ 進路学習における各校種での取組を、他校種へ引き継ぐことが十分ではなかった。 ▲ 進路学習の場の設定等、解決すべき課題がある。
<p>【平成 24 年度】</p> <p>○ 新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業調べ及び職場見学（小中） ・ 職業講話（中） ・ 職場体験学習（中・高） ・ 課題レポートを活用した進路学習（中高） ・ 高校面接指導参観（中 3） ・ 卒業生による講話（中高） ・ 進路内定後の地元企業・施設勤労体験（高 3） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈留・実践の「あすなる」において、系統的かつ継続的なカリキュラムを作成し、実施していることが進路意識の高揚に寄与することができた。 ○ 隔年実施している修学旅行時に、職場体験や工場見学、大学及び専門学校訪問を実施し、進路意識の高揚につながった。 ○ 中学生が高校生の面接指導を参観することにより、中学生の進路意識の高揚に寄与することができた。 ○ 課題レポートのテーマが進路を意識したものであるため、中学 3 年生が自己の進路を見つめ直す機会となった。 ○ 卒業生による講話や高 3 進路内定生徒の地元企業・施設での勤労体験を通して、社会人として巣立つ心の準備ができた。 ▲ 進路学習における各校種の取組の引継が十分ではない。校種を超えた 12 年間を見通したカリキュラムの作成と一貫したキャリア教育体制の構築が急務である。 ▲ 進路学習の場の設定等に関して、校種間での違いを認識して取り組む必要がある。
<p>【平成 25 年度】</p> <p>○ 新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な、生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けた進路意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業調べ及び職場見学（小中） ・ 職業講話（中） ・ 職場体験学習（中） ・ 課題レポートを活用した進路学習（中高） ・ 卒業生による講話（中高） ・ 進路内定後の地元企業・施設勤労体験（高 3） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「奈留実践」における「あすなる」において、系統的かつ継続的なカリキュラムを作成・実施し、進路意識の高揚を図ることができた。 ○ 隔年実施している修学旅行時に、職場体験や工場見学、大学及び専門学校訪問を実施し、進路意識の高揚につながった。 ○ 卒業生による講話や高 3 進路内定生徒の地元企業・施設での勤労体験を通して、社会人として巣立つ自覚を深めることができた。 ○ 地区推進部会の中に「キャリア教育」部会を新設し、小中高合同の職員研修の機会を設けるなどして共通理解を深め、小中高足並み揃えた指導体制を構築しつつある。 ▲ 地区推進部会「奈留・実践」の活動を活性化し、12 年間を見通した進路学習体制を構築する必要がある。 ▲ 進路学習の場の設定等に関して、校種間での違いを認識して取り組む必要がある。

<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・キャリア教育を中心に据えた小中高一貫教育の実施 ・職業調べ及び職業見学（小中） ・職業講話（小中） ・高校説明会（高校生体験発表）（中高） ・卒業生講話（中高） ・職場体験学習（中） ・離島半島インターンシップ（高） ・進路講演会（中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習「奈留・実践」を中心にキャリア教育を行った。また、各教科の授業の中でもキャリア教育の視点を取り入れた指導を行った。 ○職業研究・体験は段階的にレベルが上がっている。特に島外へ出る高校生のインターンシップ事業は、進学希望者も参加し、職業観の育成に大いに役立った。 ○高校説明会で高校生が中学生に行う学校生活の紹介は、中学校と高校の違いを、学習・部活動・生活を中心に自らの言葉で伝え、大変好評であった。 ▲キャリア教育はすぐに結果が表れるものではないので、粘り強く継続的な指導が必要である。
<p>【平成 27 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・キャリア教育を中心に据えた小中高一貫教育の実施 ・職業調べ及び職業見学（小中） ・職業講話（小中） ・高校説明会（高校生生活体験発表）（中高） ・卒業生講話（中高） ・職場体験学習（中） ・離島半島インターンシップ（高） ・進路講演会（高） ・センター試験出発見送り（小中高） ・合格体験談（中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○高校では総合的な学習の時間である「奈留・実践」を中心にキャリア教育を行った。また、各教科の授業の中でもキャリア教育の視点を取り入れた指導を行い効果をあげた。 ○小中学校では特別活動と総合的な学習の時間を統合した「奈留・実践」において、計画的にキャリア教育の実践を行うことができた。 ○職業研究・体験は段階的にレベルを上げて行っている。特に島外へ出る高校生のインターンシップ事業は、進学希望者も参加し、職業観の育成に大いに役立てることができた。 ○高校説明会で高校生が中学生に行う学校生活の紹介は、中学校と高校の違いを、学習・部活動・生活を中心に自らの言葉で伝え、好評であった。 ▲離島半島インターンシップの実施にあたり、日程等のトラブルがあり、次年度以降の検討課題である。 ▲キャリア教育はすぐに結果が表れるものではないので、粘り強く継続的な指導が必要である。
<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・キャリア教育を中心に据えた「奈留・実践」の実施（小中高） ・「奈留・実践」のカリキュラム一覧表の作成（小中高） ・ふるさと探求活動 ・職業研究活動 <ul style="list-style-type: none"> 職場見学（小中） 職場体験学習（中） 職業講話（小中） 高校入試説明会（中高） 離島半島地区インターンシップ（高） 進路講演会（高） 五島地区企業合同説明会（高） ・センター試験出発見送り（小中高） ・合格体験談講話（中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「奈留・実践」のカリキュラム一覧表を作成したことで、12 年間を見通した指導ができるようになり、系統性を意識できるようになった。 ○一覧表の作成により、不十分な部分や、小中高それぞれで連携できそうな部分が見えてきた。 ○職業研究関連の外部事業が多く実施され、生徒が職業について考える機会を確保しやすくなった。 ▲外部事業が多く、「奈留・実践」の時間を計画的に組み込む必要がある。

仮説③望ましい進路意識の向上

【小値賀地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な在り方・生き方及び進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・新設教科、学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」の内容を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ○中 3 のグローアップ科において、公開授業の実施（中高） <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：進路について考えよう（2月3日） ・形態：ティームティーチング（中1・高2）での乗り入れ授業 ○検証アンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・目的：テーマ「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 ・対象：小中高の全児童生徒・保護者・教職員及び地区推進委員（地域代表者） 	<ul style="list-style-type: none"> ○新設教科導入時は、ねらい通りに実践できなかったところもあったが、実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○小中高一貫教育の特性を活かし、中学校への橋渡し、高校への橋渡し、そして最終段階である島を離れての就職及び進学を意識した進路指導体制が改善されてきた。 ○進路実現のために必要な学力向上について、地区推進部会の「進路」で話し合いが行われた。 ▲競争意識の希薄化を解消するために、情報の提供やプレ入試の実施などを行なっているが、さらなる工夫が必要である。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを考えていく必要がある。

<p>・時期：1月中旬 ※1月下旬から2月上旬に分析、地区推進委員会（2月10日）で報告</p>	
<p>【平成22年度】 ○新設教科等での12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」の内容を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ○検証アンケートの実施 ・目的：テーマ「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 ・対象：小中高の全児童生徒・保護者・教職員及び地区推進委員（地域代表者） ・時期：11月 ※12月に分析、地区推進委員会（2月14日）で報告</p>	<p>○新設教科導入時は、ねらい通りに実践できなかったところもあったが、実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○小中高一貫教育の特性を活かし、中学校への橋渡し、高校への橋渡し、そして最終段階である島を離れての就職及び進学を意識した進路指導体制が整理されつつある。 ▲小学校高学年から児童生徒一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てるための具体的取組が必要である。 ▲競争意識の希薄化を解消するために、情報の提供やプレ入試の実施などを行っているが、さらなる工夫が必要である。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを協議していく必要がある。</p>
<p>【平成23年度】 ○新設教科等での12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」の内容を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ・キャリア教育として、小1から高3まで毎年、『夢に向かって』カードを各自作成し、12年間の記録をファイリングしていく取組を行う。 ○検証アンケートの実施 ・目的：テーマ「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 ・対象：小中高の全児童生徒・保護者・教職員及び地区推進委員（地域代表者） ・時期：11月 ※12月に分析、地区推進委員会（2月6日）で報告 ○地域住民への一貫教育取組の説明 今年度、6月24日（金）19:30～21:00に町民ホールにて「小中高一貫教育地区説明会」を実施した。 ※今後、3～4年毎に実施する予定である。</p>	<p>○新設教科導入時は、実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○小中高一貫教育の特性を活かし、中学校や高校への橋渡し、そして島を離れての就職及び進学を意識した進路指導体制が確立されつつある。 ▲小学校高学年から児童生徒一人一人にふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てるための具体的取組が必要である。 ▲競争意識の希薄化を解消するために、情報の提供やプレ入試の実施などを行っているが、さらなる工夫が必要である。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを協議していく必要がある。</p>
<p>【平成24年度】 ○新設教科等での12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」の内容を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ・キャリア教育として、小1から高3まで毎年、『夢に向かって』カードを各自作成し、12年間の記録をファイリングしていく取組を行う。 ○検証アンケートの実施 ・目的：テーマ「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 ・対象：小中高の全児童生徒・保護者・教職員及び地区推進委員（地域代表者） ・時期：11月 ※12月に分析、地区推進委員会（2月）で報告 ○高校卒業生への訪問インタビューDVDの作成 7月に職員が、大学や会社を訪問し、卒業生を取材する。その様子をDVDにして、生徒の進路指導に役立てる。</p>	<p>○新設教科導入時は、実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○小中高一貫教育の特性を活かし、中学校や高校への橋渡し、そして島を離れての就職及び進学を意識した進路指導体制が確立されつつある。 ▲競争意識の希薄化を解消するために、情報の提供やプレ入試の実施などを行っているが、さらなる工夫が必要である。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを協議していく必要がある。</p>

<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新設教科等での 12 年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路（ゆめ）実現に向けての進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」の内容を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ・キャリア教育として、小1から高3まで毎年『夢に向かって』カードを各自作成し、12年間の記録をファイリングしていく取組を行う。 ・キャリア発達支援シートの活用 ・キャリア・カウンセリングの機会確保とカウンセリングの質の向上 ○検証アンケートの実施 ・目的：テーマ「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 ・対象：小中高の全児童生徒・保護者・教職員及び地区推進委員（地域代表者） ・時期：11月 ※12月に分析、地区推進委員会（2月）で報告 ○高校卒業生へのインタビューDVDの作成 ・職員が、卒業生を訪問又は卒業生が帰省した際に取材する。その様子をDVDにして、生徒の進路指導に役立てる。 ○H26年度入学者選抜は5教科学力検査を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新設教科導入時は、実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○小中高一貫教育の特性を活かし、中学校や高校への橋渡し、そして島を離れての就職及び進学を意識した進路指導体制が確立されつつある。 ▲競争意識の希薄化を解消するために、情報の提供やプレ入試の実施などを行っているが、さらなる工夫が必要である。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを協議していく必要がある。 ▲キャリア発達支援シートの内容について今後さらに検討が必要である。 ▲各教科等（遺未来使学・グローアップ科を含む）の指導内容と、キャリア教育でいう「基礎的・汎用的能力」との関わりを明らかにし、全ての教科等においてキャリア教育の視点をふまえることを確認する必要がある。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ○研究授業ウィークスにおける各教科の指導案の中に、各教科とキャリア教育の基礎的汎用的能力との関連性を明記する。 ○「夢に向かってカード」「キャリア発達支援シート」の活用 ○検証アンケートの実施 ・「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証。地区推進委員会（2月）で報告 	<ul style="list-style-type: none"> ○実践を重ねることで、系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○通常の授業や学級経営においてもキャリア教育の推進・キャリア発達の支援ができることを意識することができるようになった。各教科の内容やねらいとキャリア教育で目指す「基礎的汎用的能力」の関わりについて、考えることができた。 ▲素直で純朴な児童生徒に、逆境にも耐えうる強い精神力をいかに身に付けさせるかを協議していく必要がある。 ▲キャリア発達支援シートの内容について今後さらに検討が必要である。 ▲12年間の記録をファイリングしていく取組を行う。また、キャリア・カウンセリングの機会確保とカウンセリングの質の向上を目指す。
<p>【平成 27 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間を見通した系統的・継続的な生き方 ・進路学習による進路意識の高揚 ・学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中高）※高校は「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」を充当 ・学習発表会（中） ・高校体験入学における授業参観の実施（高） ・職場体験学習（中） ・インターンシップ（高） ○研究授業ウィークスにおける各教科の指導案の中に、各教科とキャリア教育の基礎的汎用的能力との関連性を明記する ○「夢に向かってカード」「キャリア発達支援シート」の活用 ○検証アンケートの実施 ・「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証。地区推進委員会（2月）で報告 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度、「遺未来使学」「グローアップ科」のカリキュラムの見直しを行った。（小）系統的・継続的な指導内容に精選・改善されつつある。また、各学校の一貫した年間計画の作成により、より具体的な取組と検証が可能となってきた。 ○研究授業では、学習内容がキャリア学習におけるどのような基礎的汎用的能力を育むことになるのかという視点も加えた授業が行えた。 ○「夢に向かってカード」や「キャリア発達支援シート」を毎年ファイリングしていくことで、子ども自身が自己の成長を自覚できるようになってきている。 ▲外国語活動の導入や道徳が教科化されることを想定し、現在の教科・領域が継続できるのか検討が必要である。 ▲今後の小値賀の小中高一貫教育の在り方を見据え、小値賀のキャリア教育の基本的な指針を再考する必要がある。
<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○12年間を見通した系統的・継続的な生き方・進路学習による進路意識の高揚 ・小値賀キャリア教育全体計画の作成及び各校キャリア全体計画の見直し ・進路学習による進路意識の高揚 学校設定科目「遺未来使学」「グローアップ科」（小中）、「総合的な学習の時間」・「ホームルーム活動」（高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア全体計画の見直しができた。 ○小値賀の先人の生き方を学んだり、Iターンした方の講話と実演を通して、生徒は郷土の良さや勤労の尊さを再認識した。 ○各授業の学習内容がキャリア学習におけるどのような基礎的汎用的能力を育むことになるのかという視点で授業を計画・実施できた。 ○「夢に向かってカード」や「キャリア発達支援シート」を毎年ファイリングしていくことで、子どもが自己の成長を自覚できるようにな

<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会（中） ・高校での体験授業や授業参観（中→高） ・職場体験学習（中）、インターンシップ（高） ○研究授業ウィークス ・研究授業ウィークスにおける各教科の指導案の中に、各教科とキャリア教育の基礎的汎用的能力との関連性を明記 ○「夢に向かってカード」「キャリア発達支援シート」 ○検証アンケート ・「一人一人の夢の実現」（満足度）の検証 	<p>った。</p> <p>▲小中一貫型学校等への移行や次期学習指導要領を見据えて、カリキュラムを見直し、特に道徳の教科化にともなう見直しが必要である。</p>
---	--

仮説④豊かな人間性・社会性の育成

【宇久地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事は②に同じ ・部活動合同練習（サッカー、吹奏楽部、陸上） ○小中高一貫教育の保護者への広報 ・重要な取組等については小中高通信を発行して保護者への協力をお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○宇久島全体で小中高一貫教育に取り組んでいるという雰囲気が出た。 ▲慣れていない場所での自己表現が苦手なので、島外での研修の場で工夫・活用を図る必要がある。またコミュニケーション能力育成にも取り組む必要がある。 ▲学校の活動の中で育んだことを放課後の生活や地域の中にいかに応用・発展させていくかが課題である。 ▲生徒数減少に伴う部活動の整理・統合を進める必要がある。
<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事は②に同じ ・部活動合同練習（サッカー、吹奏楽部） ○小中高一貫教育の保護者への広報 ・重要な取組等については小中高通信を発行して保護者への協力をお願いした。 ○道徳部会の取組 ・郷土教材の掘り起こしと拡充 ○読書の奨励 ・宇久選定図書の選定と充実 ・選定図書を推奨することにより読書の質の向上をねらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○文化祭、バレー鑑賞会、邦楽鑑賞会など、合同行事以外でも他校の児童生徒が参観するなど交流は深まった。 ○宇久島全体で小中高一貫教育に取り組んでいるという雰囲気が出た。 ▲慣れていない場所での自己表現が苦手なので、島外での研修の場で工夫・活用を図る必要がある。またコミュニケーション能力育成にもより一層取り組む必要がある。 ▲学校の活動の中で育んだことを放課後の生活や地域の中にいかに応用・発展させていくかが課題である。 ▲生徒数減少に伴う部活動の整理・統合を進める必要がある。
<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事は②に同じ ・部活動合同練習（サッカー、吹奏楽部） ○小中高一貫教育の保護者への広報 ・重要な取組等については小中高通信を発行して保護者への協力をお願いした。 ○道徳部会の取組 ・郷土教材の掘り起こしと拡充、研究授業の実施 ○読書の奨励 ・宇久選定図書の選定と充実 ・選定図書を推奨することにより読書の質の向上をねらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○文化祭、音楽鑑賞会など、合同行事以外でも他校の児童生徒が参観するなど交流は深まった。 ○保護者や地域の方は小中高一貫教育には大変協力的で、小中高一貫教育を広報することにより、宇久島全体で小中高一貫教育に取り組んでいるという意識が浸透した。地域に教育力があるので、今以上に地域と連携して小中高一貫教育を推進したい。 ▲慣れていない場所での自己表現が苦手なので、島外での研修の場で工夫・活用を図る必要がある。またコミュニケーション能力育成にもより一層取り組むことが課題であった。今年度、宇久中学校の全校生徒が、長崎県中学校総合文化祭の開会式で「なぎなた踊り」を披露するなど各学校で課題の解消に努めている。 ▲学校の活動の中で育んだことを放課後の生活や地域の中にいかに応用・発展させていくかが課題であった。毎年、「平家まつり」等で各学校は地域へ学習の成果を発表している。また、神浦小学校では地域と一体になった運動会や学習発表会等の小規模校にしかできない取組を実施している。このように小中学校では全学年で地域に発表する機会を得ている。 ▲生徒数減少に伴う部活動の整理・統合を進めることが課題であったが、部員不足により宇久中学校では軟式野球部を宇久高校では硬式野球部を今年度末に廃部することを決定した。今後もさらなる児童生徒の減少が見込まれるので文化祭や体育大会等の行事の見直しが必要である。教務主任会を中心に検討し始めた。
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○文化祭など、合同行事以外でも他校の児童生徒が参観するな

<ul style="list-style-type: none"> ・合同行事は②に同じ ・部活動・社会体育合同練習 (小中サッカー、中高サッカー、中高吹奏楽、小中バレー、中高バレー) ○小中高一貫教育の保護者への広報 ・重要な取組等については小中高通信を発行して保護者への協力をお願いした。 ○道徳部会の取組 ・郷土教材の掘り起こしと拡充、研究授業の実施。 ○読書の奨励 ・宇久選定図書の選定と充実 ・選定図書を推奨することにより読書の質の向上をねらう。 	<p>ど交流は深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の方は小中高一貫教育には大変協力的で、小中高一貫教育を広報することにより、宇久島全体で小中高一貫教育に取り組んでいるという意識が浸透した。地域に教育力があるので、今以上に地域と連携して小中高一貫教育を推進したい。 ○小中学校では学校司書の配置により図書室の整備が進み、読書量も増加した。 ▲慣れていない場所での自己表現が苦手なので、島外での研修の場で工夫・活用を図る必要がある。またコミュニケーション能力育成にもより一層取り組むことが課題であった。 ▲学校の活動の中で育んだことを放課後の生活や地域の中いかに応用・発展させていくかが課題であった。(今年は町民文化祭で各学校が地域へ学習の成果を発表している。また、神浦小学校では地域と一体になった運動会や学習発表会等の小規模校にしかできない取組を実施している。このように小中学校では全学年で地域に発表する機会を得ている。) ▲生徒数減少に伴う部活動の整理・統合を進めることが課題であり、部員不足により宇久中学校では軟式野球部を宇久高校では硬式野球部を昨年度末に廃部した。今後もさらなる児童生徒の減少が見込まれるので部活動はもとより、文化祭や体育大会等の行事の見直しも必要である。教務主任会を中心に検討し始めた。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事は②に同じ ・部活動・社会体育合同練習 (小中サッカー、中高サッカー、中高吹奏楽、中高バレー) ○小中高一貫教育の地域・保護者への広報 ○道徳部会の取組 ・郷土教材の掘り起こしと拡充 ・研究授業の実施 ○読書の奨励 ・宇久選定図書の選定と充実 ・選定図書を推奨することにより読書の質の向上をねらう 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○文化祭など、合同行事以外でも他校の児童生徒が参観するなど交流は深まった。 ○小中高通信、町報、長崎新聞、各校HP等、本年度は特に広報活動に力を注いだ。 ○研究授業の広報に力を注ぎ、昨年度より参観者が増加した。 ○小中学校では学校司書の配置により図書室の整備が進んだ。 ▲生徒数減少による文化祭・体育大会等の行事の見直し、部活動の整理・統合が課題である。本年度末で、高校のワープロ部と報道部が廃部となる。今後もさらなる児童生徒の減少が見込まれるので、しっかりと検討していく。 ▲宇久選定図書の選出について再検討している。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動・社会体育合同練習 (小中サッカー、中高サッカー、中高吹奏楽、中高バレー) ○小中高一貫教育の地域・保護者への広報 ○道徳部会の取組 ・郷土教材の掘り起こしと拡充 ・研究授業の実施 ・「命の教育」への取組 ○読書の奨励 ・宇久選定図書の選定と充実 ・選定図書を推奨することにより読書の質の向上をねらう。 ○ICTの活用 ・テレビ会議システムを利用して、奈留地区や小値賀地区と交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での交流により、中高生はリーダーシップや思いやりの心を持つことができた。 ○文化祭など、合同行事以外でも他校種の児童生徒が参観するようになった。 ○高校では、生徒数減によって、部活動運営に困難さを感じていたが、中学校および地域・保護者の協力により、本年度の試合結果等は満足のいくものであった。 ○本年度より「広報委員会」を新設して、広報活動に力を注いだ。 ○研究授業の広報に力を注ぎ、昨年度より参観者が増加した。 ○小中学校では学校司書の配置により図書室の整備が進んだ。 ○高校では、テレビ会議システムを活用して、奈留高校・北松西高と生徒会交流・職員交流が実現できた。 ▲生徒数減少による行事の見直し、各部の活動内容は、継続した今後の課題である。 ▲小学校における児童会活動では高学年がリーダーシップを発揮し、自発的な取り組みによって、自治力の基礎を身に付けている。しかし、各行事において中高生のリーダーシップに頼る場面が多く、発達段階に応じた自立的な課題解決力の開発、向上に課題がある。 ▲テレビ会議システムを活用した生徒同士による授業交流は、今後の課題である。 ▲奈留地区・小値賀地区とテレビ会議が行えるシステムが高校にしか入っていないので、佐世保市以外における小中の交流が困難である。
<p>【平成 27 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事については②と同じ ・部活動の合同練習 (中高サッカー、中高陸上、中高バレー、中高吹奏楽) ・宇久・実践部会による郷土学習及び地域教材の掘り起こし (なぎなた踊りなど伝統芸能の継承、地元講 	<ul style="list-style-type: none"> ○合同行事については②と同じ ○部活動の合同練習では、充実した練習により児童生徒の技術の向上がなされている。また、顧問間の交流により指導力向上にもつながった。 ○郷土学習や地域行事への参加を通して、地域の方への感謝の気持ちや郷土愛が育まれている。 ○各種ボランティア活動に参加することで、他者に感謝されることの喜びを知り、自分のあるべき姿を学び直すことができ

<p>師による郷土学習会、郷土料理講習会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加 (サマーフェスティバル、蛍祭り等) ・ボランティア活動への参加 (地域清掃、老人ホーム訪問、小学生を対象とした料理教室、幼稚園訪問) ・道德部会による道德教育の充実 (研究授業と研究協議の実施、「命の教育」の実施) ・読書の奨励 (宇久選定図書の作成、朝の読書の充実) ・ICTの活用による生徒交流会の実施 	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テレビ会議システムで奈留高、北松西高との交流をし、各校の現状や取組を知り、生徒会を中心とした活動の活性化につながった。 ▲部員増が見込めない中、小中高で連携した部活動の再編成が必要である。 ▲国際交流の実施ができていない。
<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・合同行事については②と同じ ・部活動の合同練習 (中高サッカー、中高陸上、中高バレー、中高吹奏楽) ・宇久・実践部会による郷土学習及び地域教材の掘り起こし (なぎなた踊りなど伝統芸能の継承、地元講師による郷土学習会、郷土料理講習会) ・地域行事への参加 (サマーフェスティバル、蛍祭り等) ・ボランティア活動への参加 (地域清掃、老人ホーム訪問、小学生を対象とした料理教室、幼稚園訪問) ・道德部会による道德教育の充実 (研究授業と研究協議の実施、「命の教育」の実施、道德だよりの発行) ・読書の奨励 (宇久選定図書の作成、朝の読書の充実) ・ICTの活用による生徒交流会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○合同行事については②と同じ ○部活動の合同練習では、充実した練習により児童生徒の技術の向上がなされている。また、顧問間の交流により指導力向上にもつながった。 ○児童生徒数の減少により、部活動の再編成を小中高が連携して行っている。 ○郷土学習や地域行事への参加を通して、地域の方への感謝の気持ちや郷土愛が育まれている。 ○各種ボランティア活動に参加することで、他者に感謝されることの喜びを知り、自分のあるべき姿を学び直すことができた。 ○テレビ会議システムで奈留高、北松西高との交流をし、各校の現状や取組を知り、生徒会を中心とした活動の活性化につながった。

仮説④豊かな人間性・社会性の育成

【奈留地区】

取 組	成果 (○) と課題 (▲)
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・三大行事をはじめ合同行事は②と同じ ・合同部活動 (中高) ・水産教室 (中) ・地域ボランティア団体との合同ボランティア (小中高) ・童里夢による読み聞かせ (小) ・折り鶴集会 (小中) ・公民館講座や奈留っ子教室への参加 (小中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ○合同学校行事等、異年齢集団での活動を通して、お互いの高めあいが見られた。どの行事においても、それぞれの立場で、自覚を持つことの大切さに気づくことができた。 ○後期の学年においては、中期・前期に対して配慮をしなければならないという意識が芽生え、前期・中期においては、後期のようになりたいという憧れの気持ちを抱くようになった。 ○定期演奏会や町文化祭への出演など、地域との交流ができるとともに、地域の人たちも小中高の子どもたちを育てようという意識が高まってきた。 ○ふるさと学習において地元 NPO の指導のもと、海岸清掃やイルミネーション装飾活動を通して、故郷を大切に思う気持ちやボランティア活動の意義を学ぶことができた。 ○小中で児童生徒合同でのあいさつ運動や折り鶴集会を実施しふれあいを深めることができた。 ▲島内だけでは、社会性の育成という面に関しては限界があり、島外の協力を図る必要がある。 ▲合同行事での日程調整や内容の検討をし、より効果的な行事にする必要がある。
<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・三大行事については②と同じ ・合同部活動 (中高) ・地域ボランティア団体との合同ボランティア活動 (小中高) ・水産教室 (中) ・老人ホーム・高齢者の集い等慰問 (小中高) ・町体育祭及び町文化祭等地域行事への参加 (小中高) ・職場体験学習 (中) ・ボランティア清掃活動 (小中高) ・イルミネーション点灯準備 (小) 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な合同行事、合同練習など異校種間の活動、郷土学習等を通じて、豊かな人間性や社会性は徐々に育成されてきた。 ○前期・中期・後期それぞれの発達段階に応じた意識が芽生え、人間性の醸成に貢献することができた。 ○定期演奏会や町の体育大会、文化祭等に参加することによって、地域との交流が深まるとともに、地域の人たちもみんな子どもたちを育てていこうという意識が高まった。 ○地元 NPO との合同ボランティアや学校独自のボランティア活動を通して、故郷を大切に思う気持ちや奉仕活動の意義等を身に付けることができた。 ▲島内だけでは、社会性の育成という面に関して限界があり、島外の協力を図る必要がある。 ▲合同行事等での日程や内容を十分に検討し、より効果的に実施する必要がある。 ▲島内における小・中・高並びに社会体育を通じた部活動の継続性が必要である。

<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・ 三大行事 (②に記載) ・ 合同部活動 (中高) ・ 地域ボランティア団体との合同ボランティア活動 (小中高) ・ 水産教室 (中) ・ 老人ホーム・高齢者の集い等慰問 (小中高) ・ 町の体育関係行事及び文化関係行事への参加 (小中高) ・ 職場体験学習 (中) ・ ボランティア清掃活動 (小中高) ・ イルミネーション設置 (小) ・ なかよし集会 (小1～小4)、人権集会 (小5～中3) 実施等、前期・中期・後期別の集会実施 ・ 島の夢飛行コンサート、東京シティバレエ団公演参加 (小中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種の合同行事、合同練習など異校種間の活動、郷土学習等を通じて、豊かな人間性並びにしっかりと社会性は徐々に育成されてきた。 ○ 前期・中期・後期それぞれの発達段階に応じた意識が芽生え、人間性の育成に貢献することができた。 ○ 定期演奏会や町の体育大会、文化祭等の地域行事に参加することによって、地域との交流が深まるとともに、地域の人達の教育力を活用することが可能になった。 ○ 地元 NPO 法人との合同ボランティアや独自のボランティア活動を通して、故郷を大切に思う気持ちや奉仕活動の意義等を身に付けさせることができた。 ▲ 社会性の育成に関する限り、島内の活動だけでは、限界があり、島外の協力を図る必要がある。 ▲ 児童生徒の数・気質の変化等に伴い、合同行事等の日程及び内容について、さらに十分に検討し、より効果的に実施する必要がある。 ▲ 島内における小・中・高並びに社会体育を含めた部活動の系統性・連続性を検討する必要がある。
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・ 三大行事 (②に記載) ・ 合同部活動 (中高) ・ 地域ボランティア団体との合同ボランティア活動 (小中高) ・ 水産教室 (中) ・ 老人ホーム・高齢者の集い等慰問 (小中高) ・ 町の体育関係行事及び文化関係行事への参加 (小中高) ・ 職場見学 (小5・6) ・ 職場体験学習 (中高) ・ ボランティア清掃活動 (小中高) ・ イルミネーション設置 (小5・6) ・ なかよし集会 (小1～4)、人権集会 (小5～中3) 実施等、前期・中期・後期別の集会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種の合同行事、合同練習など異校種間の活動、郷土学習等を通じて、豊かな人間性並びに社会性は徐々に育成されてきた。 ○ 島への誇りを持てるような「奈留・実践」の内容が、社会力の育成に大きく寄与することができた。 ○ 定期演奏会や町の体育大会、文化祭等の地域行事に参加することにより、地域との交流が深まるとともに、地域の方々の教育力を活用することが可能になった。 ○ 地元 NPO 法人との合同ボランティア活動や独自のボランティア活動を通して、故郷を大切に思う気持ちや奉仕活動の意義等を身に付けさせることができた。 ▲ リーダーシップの育成に関して、高校生には機会が十分与えられているが、中学生や小学6年生に対して活躍の場が十分提供できていない面がある。発達段階に応じた役割分担について再考する必要がある。 ▲ 小中高合同の三大行事については、試行錯誤を繰り返しながらも一定の成果を得て、定着しつつあるので、他の行事の連携も検討する必要がある。 ▲ 島内における小・中・高並びに社会体育を含めた部活動の系統性・連続性の実現には様々な要素が含まれており、困難な点も多く、研究の必要がある。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合同の学校行事や部活動での合同練習等、異年齢集団による交流や、郷土学習等、地域社会とのふれあいを通じた豊かな人間性や社会性の育成 ・ 三大行事 (②に記載) ・ 合同部活動 (中高) ・ 地域団体との合同ボランティア活動 (中高) ・ 水産教室 (中高)・伝承教室 (小) ・ ふるさと料理講習会 (高) ・ 老人ホーム・高齢者の集い等慰問 (小中高) ・ 地域の体育文化関係行事への参加 (小中高) ・ 職場見学 (小5・6) ・ 職場体験学習 (中高) ・ ボランティア清掃活動 (小中高)、なかよし集会 (小)、人権集会 (中)、前期・中期・後期別の集会 ・ 島の夢飛行コンサート参加 (小中高) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種合同行事や合同練習等、異校種間の活動及び郷土学習を通じて、豊かな人間性並びに社会性が徐々に育成されてきた。 ○ 島への誇りを育むような「奈留・実践」の内容が、社会力の育成に大きく寄与することができた。 ○ 定期演奏会や地域の体育大会、文化祭等の行事に参加することにより、地域との交流が深まり、地域の教育力を活用できた。 ○ 地元 NPO 法人との合同ボランティア活動や独自のボランティア活動を通して、故郷を大切に思う気持ちや奉仕活動の意義等を、深く理解させることができた。 ○ 発達段階に沿った、本地区独自の前期・中期・後期の集団活動により、それぞれの集団の中でリーダーシップ・フォローシップの育成ができた。 ▲ 合同行事においては、それぞれの校種の児童生徒の成長の機会となるよう、役割分担の面で常に児童生徒の適性への配慮が必要である。 ▲ さらなる行事の活性化を図るためにも、現在実施している三大合同行事以外の合同行事実施に向けて具体的に検討する必要がある。 ▲ 各種団体が主催する行事が、同日開催であったりと、毎週末に行事が計画されている月もあるなど、児童生徒・保護者の負担も大きい。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・ 三大行事 (②と同じ) ・ 始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施 (小中) ・ 合同部活動 (中高) ・ 地域連携教育 (郷土料理講習 (高)、水産教室 (中高))、 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各行事を通して、上級生 (先輩) の姿を下級生 (後輩) に見せ、憧れの念を抱かせることで、自分を頑張らせる動機付けにつながった。 ○ 上級生は下級生と接することで、指導力や包容力が身に付くと共に、自覚が生じた。 ○ 授業・行事・ボランティアなどで地域とのつながりを多く持つことで、郷土への愛情を強く持ち、児童生徒間のつながり

<p>伝承教室（小）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事参加（綱引き、国体綱引き、運動会、のびのび少年デー、料理コンテスト等）（小中高） ・ボランティア参加（清掃活動、施設訪問、吹奏楽演奏、イルミネーション設置等）（小中高） ・老人ホーム・高齢者の集い等の慰問（小） ・島内の職場体験（中） ・前中後期別集会（小中） 	<p>も深まった。特に成長段階に応じ支えられる側から支える側へと立場も変化し、自らの成長を感じつつ、役割も変わってきたことを実感できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設を訪問し大掃除の手伝いなどをする中で、他人のために何かをする喜びや、感謝される喜びを体感することができた。 ▲行事の形骸化が心配される中、効果が高く心に残る行事の企画立案や、事後の指導を常に工夫し続ける必要がある。 ▲部活動の試合などの関係で、ボランティアの人数が十分確保できないこともある。
<p>【平成 27 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・三大行事（②と同じ） ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・合同部活動（中高） ・地域連携教育（郷土料理講習（高）、水産教室（中高）、伝承教室（小）） ・地域行事参加（綱引き、運動会、のびのび少年デー、料理コンテスト等）（小中高） ・ボランティア参加（清掃活動、施設訪問、吹奏楽演奏、イルミネーション設置等）（小中高） ・老人ホーム・高齢者の集い等の慰問（小） ・島内の職場体験（中） ・前中後期別集会（小中） ・奈留高校創立 50 周年記念式典への参加（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○各行事を通して、上級生（先輩）の姿を下級生（後輩）に見せ、憧れの念を抱かせることで、自分を頑張らせる動機付けにつながった。 ○上級生は下級生と接することで、指導力や包容力が身に付くと共に、自覚が生じた。 ○授業・行事・ボランティアなどで地域とのつながりを多く持つことで、郷土への愛情を強く持ち、児童生徒間のつながりも深まった。特に成長段階に応じ支えられる側から支える側へと立場も変化し、自らの成長を感じつつ、役割も変わってきたことを実感できた。 ○施設を訪問し大掃除の手伝いなどをする中で、他人のために何かをする喜びや、感謝される喜びを体感することができた。 ▲行事の形骸化が心配される中、効果が高く心に残る行事の企画立案や、事後の指導を常に工夫し続ける必要がある。 ▲部活動の試合などの関係で、ボランティアの人数が十分確保できないこともある。
<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・三大行事（②と同じ） ・始業式、終業式、入学式、卒業式の合同実施（小中） ・スクールコンサート鑑賞（小中高） ・地域連携教育（郷土料理講習（高）、水産教室（中高）、伝承教室（小）） ・地域行事参加（綱引き、運動会、のびのび少年デー、なるっ子教室）（小中高） ・ボランティア参加（清掃活動、老人ホーム訪問、吹奏楽演奏、イルミネーション設置等（小中高）、バラモンキング（高）） ・島内での職場体験（中） ・前中後期別集会（小中高） 	<ul style="list-style-type: none"> ○合同行事は小中高の交流であるだけでなく、地域の方が協力してくださったり、観覧してくださったりすることで、幅広い年齢層の交流ができた。 ○地域の講師を招いての行事では、料理等を教えてもらうだけでなく、地域の歴史や文化についても話を聞くことができ、郷土学習の場となった。 ○地域の行事に参加することで、地域の中での自分たちの役割を知ることになり、自尊意識や自己肯定感を高めることができた。 ▲時季によってボランティア依頼が重なることがあり、学校行事との兼ね合いで参加が難しいこともある。 ▲地域の方の高齢化や児童生徒・保護者数の減少から、規模を縮小しなければならぬものもあり、今後の実施形態に関して検討が必要である。

仮説④豊かな人間性・社会性の育成

【小値賀地区】

取組	成果（○）と課題（▲）
<p>【平成 21 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同行事や部活動での合同練習等、異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあい等を通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習：ソフトテニス、陸上、吹奏楽 ※次年度中高における部活動を再編成予定 ○幼稚園・老人ホームにおける交流会の実施（小） 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ▲町の行事には、積極的に参加し、ボランティア希望者も増えたが、休日の行事が多く、事前の調整が難しい。また、町からの要望も増え、学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。
<p>【平成 22 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習：ソフトテニス、陸上、吹奏楽 ○幼稚園・老人ホームにおける交流会の実施（小） 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ▲町の行事には、積極的に参加し、ボランティア活動に参加を希望する児童生徒もいるが、休日の行事が多く、事前の調整が難しい。また、町からの要望も増え、学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。
<p>【平成 23 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあい 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。

<p>を通しての豊かな人間性や社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動合同練習：ソフトテニス、陸上、吹奏楽、バドミントン ○小値賀地区小中高一貫教育シンボルマークの作成 ※児童生徒から募集し決定 ○老人ホームや幼稚園における交流会の実施（小） 	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲町の行事等への参加を希望する者もいるが、休日の学校行事が多く、事前の調整が難しい。町からの要望も増え、学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。
<p>【平成 24 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習：ソフトテニス、陸上、吹奏楽、バドミントン ○老人ホームや幼稚園における交流会の実施（小） 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。また、部活動種目によっては、今後、部員の確保が厳しく、部の存続が危ぶまれる。 ▲町の行事等への参加を希望する者もいるが、休日の学校行事が多く、事前の調整が難しい。町からの要望も増え、学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。
<p>【平成 25 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同の学校行事や部活動での合同練習等異年齢集団による交流や、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習：ソフトテニス、陸上、吹奏楽、バドミントン ・地域の行事へボランティアスタッフとして参加（中高） ○地域の人・もの・ことを取り入れた教科等の学習 ・老人ホームや幼稚園における交流会の実施 ・熟年大学のお年寄りとの遊び ・NPO 法人との小値賀の海をテーマにした体験学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ○地域の人材が学校教育に参画することにより、学校教育への理解が深まると共に、地域全体で子どもを育てるという風土ができてきた。 ○地元の方をゲストティーチャーとして招くことにより、小値賀への愛着が高まった。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。また、部活動種目によっては、今後、部員の確保が厳しく、部の存続が危ぶまれる。 ▲町の行事等への参加を希望する場合、休日の学校行事をふまえながら、事前の調整が必要である。町からの要望も増え、学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。
<p>【平成 26 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同行事や部活動での合同練習、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習 ・地域の行事へボランティアスタッフとして参加（中高） ○地域の人・もの・ことを取り入れた教科等の学習 ・老人ホームや幼稚園における交流会の実施 ・熟年大学のお年寄りとの遊び ・NPO 法人による体験学習、国際交流 ・母ちゃんの味伝えよう会・漁協等の指導による郷土料理教室 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。また、指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ○地域の人材が学校教育に参画することにより、学校教育への理解が深まると共に、地域全体で子どもを育てるという風土ができてきた。 ○地域の人にふれ、産物や文化をあらためて知り、故郷を愛する心を育むことができた。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。また、部活動種目によっては、今後、部員の確保が厳しく、部の存続が危ぶまれる。 ▲町の行事等への参加を希望する場合、休日の学校行事をふまえながら、事前の調整が必要である。学校生活との兼ね合いが難しい場合がある。
<p>【平成 27 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同行事や部活動での合同練習、郷土学習等地域社会とのふれあいを通しての豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習 ・地域の行事へボランティアスタッフとして参加（中高） ○地域の人・もの・ことを取り入れた教科等の学習 ・老人ホームや幼稚園における交流会の実施 ・熟年大学のお年寄りとの遊び ・母ちゃんの味伝えよう会・漁協等の指導による郷土料理教室 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等で、目的意識や技術の向上がなされている。指導者も交流することで、研修にもつながっている。 ○地域の人材が学校教育に参画することにより、学校教育への理解が深まると共に、地域全体で子どもを育てるという風土につながっている。 ○学校給食開始を機に、食という視点から、小値賀食育スクール連絡協議会（OSS）を起ち上げた。給食をきっかけに食育という視点が保護者・地域に育ちつつある。 ○地域の人にふれ、産物や文化を知り、故郷を愛する心を育むことができた。 ▲生徒数の減少に伴い、小→中→高で実施可能な社会体育及び部活動の連続性を担保する必要がある。また、部活動種目によっては、今後、部員の確保が厳しく、部の存続が危ぶまれる。
<p>【平成 28 年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合同行事や部活動の合同練習、郷土学習等地域社会とのふれあいを通して豊かな人間性や社会性の育成 ・部活動合同練習 ・地域の行事へボランティアスタッフとして参加（中高） ○地域の人・もの・ことを取り入れた教科等の学習 ・栽培活動の充実（小） 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動の合同練習等における目的意識と技術の向上、指導者の交流による研修。 ○合同行事で上級生が下級生を指導することを通して、思いやりの心が培われている。また、「どうすれば相手にわかりやすく正確に伝わるか」ということを考え、試行錯誤する中で表現力が向上している。 ○先輩に後輩があこがれ、先輩の姿が良い意味で手本となっている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 熟年大学のお年寄りと昔の遊び（小） ・ ところ天づくり学習 ・ 米づくり学習 ・ 海ゴミ調査活動 ・ 小値賀カレンダーづくり ・ 老人ホームや幼稚園における交流会の実施（小） ・ 母ちゃんの味伝えよう会・漁協等の指導による郷土料理教室（小中） 	<ul style="list-style-type: none"> ○先輩たちと共に地域行事に貢献することで自己有用感を感じている。 ○地域の人材が学校教育に参画することにより、学校教育への理解が深まると共に、地域全体で子どもを育てるという風土につながっている。地域に開かれた教育課程を編成できている。 ○地域の人にふれ、産物や文化を知り、故郷を愛する心を育むことができた。 ▲生徒数の減少や男女比の変化に伴い、小→中→高の社会体育及び部活動の連続性維持や部の存続が危ぶまれる。 ▲キャリア教育との関連も見据え、小値賀のよさを発信し小値賀の将来を担う生徒を育てていく必要がある。
---	---